

Clavinova[®]

CLP-370 / 340 / 330

CLP-S308 / S306

取扱説明書

組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

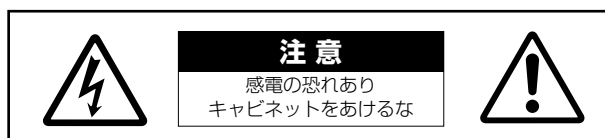
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	-----------	---

	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	-----------	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

必ず実行



電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。
他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。

必ず実行



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

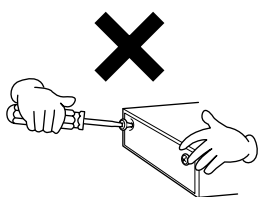
禁止

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

禁止

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

必ず実行

注意

電源 / 電源コード



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行



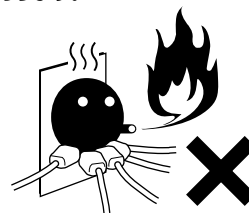
長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



組み立て



必ず実行

組み立てる前に、必ず本書の組み立て方の説明をよくお読みください。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



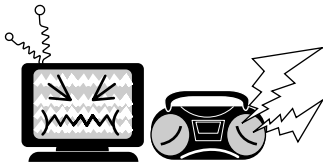
禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

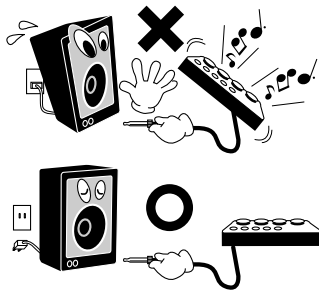
この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



必ず実行

（艶出し仕上げのモデルの場合）本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取る。
強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



禁止

キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをされるおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。
入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



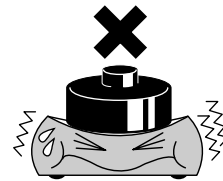
禁止

（艶出し仕上げのモデルの場合）本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てない。
表面にひびが入ったり、剥がれたりする場合があります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



イス



不安定な場所に置かない。
イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。

禁止



イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

禁止



イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

禁止



イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。

禁止



イスのネジを定期的に締め直す。
イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

必ず実行



イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。
イスの脚でフローリングの床やたたみを傷つけることがあります。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

必ず実行



イスを手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
変色/変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

禁止

データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、フロッピーディスク/USB記憶装置/コンピューターなどの外部機器に保存してください。

必ず実行

フロッピーディスク/USB記憶装置/外部メディアのバックアップ



保存したフロッピーディスク/USB記憶装置/外部メディアの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のフロッピーディスク/USB記憶装置/外部メディアにバックアップとして保存されることをおすすめします。

必ず実行

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。
電源スイッチ切った状態でも微電流が流れています。そのときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハクラビノーバを
 お買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
 この楽器の優れた機能を十分に生かして
 演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
 また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに
 大切に保管してください。

取扱説明書(本書)について

取扱説明書(本書)は、「準備編」、「本編」、「付録」の3部構成になっています。

準備編

最初にお読みください。

10ページの「各部の名前と機能」では、パネル図からクラビノーバの使い方と、その説明ページを見つけることができます。

本編

クラビノーバの機能の使い方と操作を詳しく説明しています。

実際にクラビノーバの操作をしながらご覧ください。

付録

音色一覧などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

[]... パネル上にあるボタン類を示します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で[MASTER VOLUME]
マスターボリューム
 スライダーと表記します。

*パネルのイラストは、断りのない限りCLP-370のパネルを使用します。

*この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

*本文中では、CLP-370/340/330、CLP-S308/S306を「クラビノーバ」または「CLP」と表記することがあります。

「MIDIデータフォーマット」や「MIDIインプリメンテーションチャート」などMIDIに関する資料が、ヤマハマニュアルライブラリーからダウンロードできます。コンピューターを使用して、インターネットに接続し、以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「CLP-370」など)を入力して「検索」ボタンを押します。データリストをダウンロードしてください。MIDI情報が掲載されています。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

AVE-TCP® 本製品はTCP/IPプロトコルスタック技術として、株式会社ACCESSのAVE-TCP®を搭載しています。
 Copyright ©1986~2008 ACCESS CO., LTD.

AVE-SSL 本製品は暗号モジュール技術として、株式会社ACCESSのAVE®-SSLを搭載しています。
 Copyright ©1997~2008 ACCESS CO., LTD.

ACCESS™

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

特長

進化したタッチと表現力「グレードハンマー 3(GH3)鍵盤」(CLP-330)、「グレードハンマー 3(GH3)鍵盤象牙調仕上げ」(CLP-340、CLP-S306)

鍵盤の重さ(低音部は重く、高音部は軽く)などをグランドピアノに近付けたことにより、従来の電子ピアノを越える弾き心地が楽しめます。また、グランドピアノと同様に、ペダルを踏まずに音をつなげる奏法や高速の同音連打も可能です。さらにCLP-340、CLP-S306では象牙調仕上げを採用することにより、象牙に近い適度な吸湿性、指の滑りにくさ、しなやかなタッチ感が得られます。また、あたたかい色合いも魅力です。

自然な弾き心地を実現した「ナチュラルウッド(NW)鍵盤象牙調仕上げ」(CLP-370、CLP-S308)

GH3鍵盤象牙調仕上げの特長に加え、白鍵の内側にはアコースティックピアノの鍵盤と同様に木材を使用しているため、従来の電子ピアノを越えるグランドピアノのような重量感のある弾き心地が楽しめます。

フルコンサートグランドピアノの音をデジタルで録音(AWMダイナミックステレオサンプリング)

この楽器はヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMダイナミックステレオサンプリング」による豊かな音色を備えた電子ピアノです。「AWM」とは楽器そのものの音をデジタル録音し、精度の高いデジタルフィルター技術を加え、リアルに再現するヤマハのサンプリング方式です。

グランドピアノ1の音色は、ヤマハフルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。サンプリングされた音は、音の良さをそのまま電子ピアノで再現できるよう、一音一音丁寧に調整されています。

これにより、立ち上がりが高く輪郭がはっきりした音になり、弾きごたえが増えています。

この音色では、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリング(ダイナミックサンプリング)しており、より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。さらにCLP-370/340では、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴音をサンプリングした「サステインサンプリング」、鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングした「キーオフサンプリング」を採用し、ぜいたくな音作りを行なっています。

インターネットダイレクト接続機能(CLP-370/340、CLP-S308/S306)

楽器を直接インターネットに接続することにより、専用サイトの曲データをご利用いただくことができます。さまざまなジャンルのたくさんの曲データをお楽しみください。

付属品(お確かめください)

- 保証書
- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- ヘッドフォン
- アクセサリー CD-ROM
- アクセサリー CD-ROMインストールガイド
- 高低自在イス
- ユーザー登録のご案内*

*ユーザー登録の際に記載されているプロダクトID (PRODUCT ID)が必要です。

調律について

クラビノーバでは、調律は必要ありません。

お引越しの際は

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。



(CLP-S308/S306) 傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(90ページ)で鍵盤全体を覆ってから蓋を閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください

目次

準備編

取扱説明書(本書)について	6
特長.....	7
付属品(お確かめください).....	7
各部の名前と機能.....	10
ご使用前の準備	12
キーカバーについて.....	12
譜面立てについて	13
譜面止めについて(CLP-370/340).....	14
電源を入れる	14
音量(ボリューム)を調節する.....	15
ヘッドフォンを使う.....	15
スピーカーのオン/オフを切り替える.....	15
デモ曲を聞く	16

本編

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く	17
ピアノ50曲を片手で練習する.....	18
ピアノ50曲のフレーズを指定して練習する.....	19
音色を楽しむ	20
音色を選ぶ.....	20
ペダルを使う	20
音に変化を付ける[VARIATION](CLP-370/340)/[BRILLIANCE]/[REVERB]/[EFFECT]/ [DAMPER RES.]	21
タッチ感を変える[TOUCH].....	23
キー(調)を変える[TRANSPOSE]	24
2つの音色を混ぜる(デュアル).....	25
鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く [SPLITスプリット](CLP-370/340)	26
メトロノームを使う(METRONOME).....	28
演奏を録音(記録)する	29
演奏を簡単に録音する.....	29
録音した演奏を聞いてみる.....	30
録音し直す	30
RIGHT/LEFTパートに録音する	31
初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する	33
曲をUSB記憶装置に保存するなどのファイル操作をする.....	34
保存と読み込みについて	34
録音した曲を1曲ずつUSB記憶装置に保存する.....	35
USB記憶装置に保存した曲を楽器に読み込む.....	36
USB記憶装置に入っている曲を削除する.....	37
USB記憶装置をフォーマットする	38
USB記憶装置の取り扱いについて	39
フロッピーディスクの取り扱いについて	40
曲を再生する	41
ユーザーソングや楽器に取り込んだ外部ソングを再生する.....	42
USB記憶装置に保存されているユーザーソングを再生する.....	43
再生に関する便利な機能.....	44

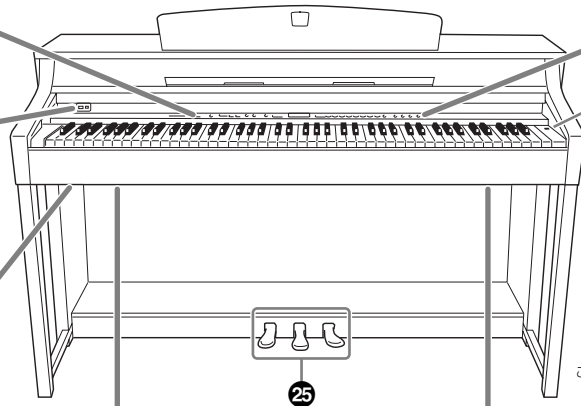
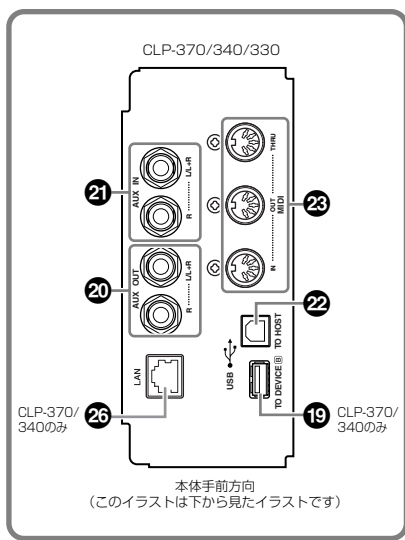
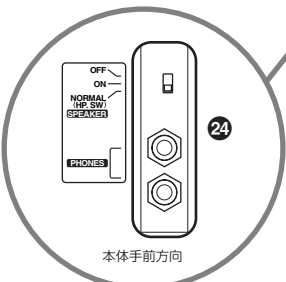
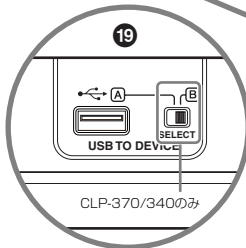
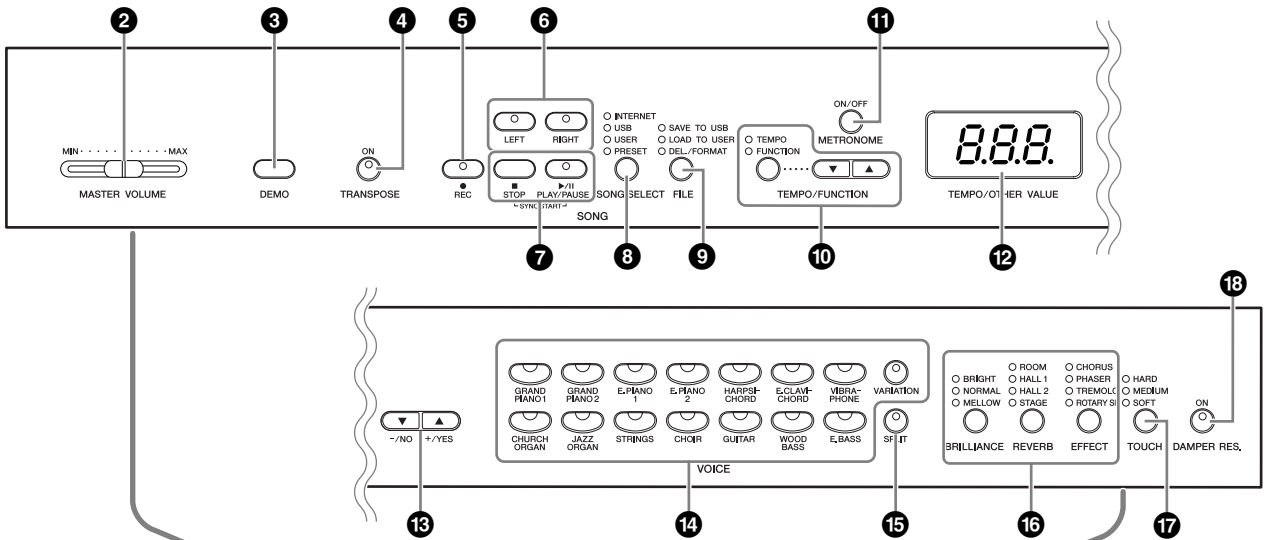
インターネットダイレクト接続機能 (CLP-330を除く).....	45
楽器をインターネットに接続する準備.....	45
楽器をインターネットに接続する.....	47
インターネット設定について.....	48
無線LANの電波強度を表示する(USB無線LANアダプターをお使いの場合).....	50
接続情報ファイルを書き出す.....	51
インターネットに関するその他の設定.....	52
インターネットの曲を聞く (CLP-330を除く).....	55
インターネット用語集.....	56
初期設定(工場出荷時の設定)に戻すには.....	57
各種の便利な設定をする [FUNCTION]	58
ファンクションでの基本操作.....	59
各ファンクション項目の説明.....	61
他の機器と接続する.....	71
端子について.....	71
USB記憶装置を接続する.....	73
コンピューターと接続する.....	75
コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する.....	76
データのバックアップ.....	77
メッセージ一覧.....	78
困ったときは.....	79

付録

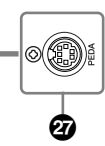
音色一覧.....	80
デモ曲一覧.....	82
基本設定一覧.....	82
CLP-370の組み立て方.....	84
CLP-340/330の組み立て方.....	87
CLP-S308/S306の組み立て方.....	90
別売品のご紹介.....	94
フロッピーディスクドライブ(別売)の取り付け方 (CLP-370/340).....	95
CLP-370/340/330、CLP-S308/S306仕様.....	96
索引.....	98
保証とアフターサービス.....	103

各部の名前と機能

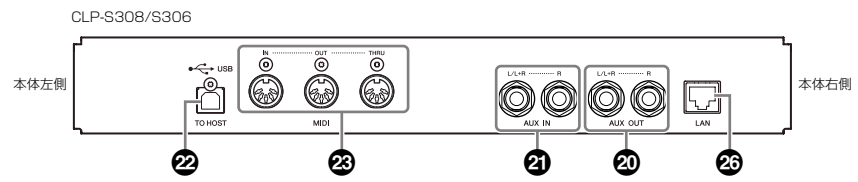
●パネルのイラストはCLP-370を使用しています。



このイラストはCLP-370のイラストです。



このイラストは下から見たイラストです。



- ① ^{パワー} [POWER]スイッチ 14ページ
- ② ^{マスターボリューム} [MASTER VOLUME]スライダー 15ページ
音量を調節できます。
- ③ ^{デモ} [DEMO]ボタン 16ページ
音色ごとのデモ曲を聞くことができます。
- ④ ^{トランスポーズ} [TRANPOSE]ボタン 24ページ
弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変更することができます。
- ⑤ ^{レコード} [REC]ボタン 29ページ
ご自身の演奏を録音できます。
- ⑥ ^{ライト} [RIGHT]、^{レフト} [LEFT]ボタン 18ページ
曲の特定のパートを再生オフにし、再生オフにしたパートをご自身で練習できます。
- ⑦ ^{プレイ/ポーズ} [PLAY/PAUSE]、^{ストップ} [STOP]ボタン 17、30ページ
楽器本体に入っているピアノ50曲やご自身の演奏を録音したものを再生できます。
- ⑧ ^{ソングセレクト} [SONG SELECT]ボタン 17、55ページ
再生や録音する曲を選べます。CLP-370/340、CLP-S308/S306ではインターネット上の曲にアクセスすることもできます。
- ⑨ ^{ファイル} [FILE]ボタン 34、38ページ
録音した曲をUSB記憶装置に保存するなどのファイル操作ができます。USB記憶装置のフォーマットもできます。
- ⑩ ^{テンポ/ファンクションナンバー} [TEMPO/FUNCTION]ボタン 28、59ページ
テンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりできます。
- ⑪ ^{メトロノーム} [METRONOME]ボタン 28ページ
メトロノームの機能を利用できます。
- ⑫ 画面 14ページ
画面に「--」が順番に表示されているとき(データアクセス中)は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ⑬ [-/NO]、[+/YES]ボタン
数値を設定したり曲や項目を選んだりできます。テンポやトランスポーズなどの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押しすと、元の値(基本設定値)に戻すことができます。
- ⑭ 音色ボタン 20ページ
グランドピアノをはじめとした14種類の音色をお楽しみいただけます。CLP-370/340には^{バリエーション} [VARIATION]ボタンがあります。
- ⑮ ^{スプリット} [SPLIT]ボタン(CLP-370/340) 26ページ
鍵盤を左右の領域に分けて、別々の音色で演奏できます。
- ⑯ ^{ブリリアンス} [BRILLIANCE]、^{リバーブ} [REVERB]、^{エフェクト} [EFFECT]ボタン 21ページ
音の明るさを調節したり(ブリリアンス)、音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけたりすることができます。
- ⑰ ^{タッチ} [TOUCH]ボタン 23ページ
弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を調節することができます。
- ⑱ ^{ダンパーレゾナンス} [DAMPER RES.]ボタン 22ページ
このボタンを押して(オンの状態にして)、ダンパーペダルを踏むと、よりピアノのダンパー効果に近い効果が得られます。またダンパー効果の深さも設定できます。
- ⑲ ^{ユーエスピー} USB ^{トゥーデバイス} [TO DEVICE]端子 73ページ
USB記憶装置を接続して、録音した曲を保存したり、記憶装置に入っているデータを楽器本体で再生したりできます。CLP-370/340の場合、USB [TO DEVICE]端子は、AとBの2つがあり、楽器パネルの左側にあるのがAで、楽器底面側はBです。A端子の右に付いている[SELECT]スイッチで、使う端子を切り替えます。
- ⑳ ^{ユーユーエックスアウト} AUX OUT [L/L+R][R] 71ページ
クラビノーバをステレオなどに接続して外部のスピーカーで鳴らすことができます。
- ㉑ ^{ユーユーエックスイン} AUX IN [L/L+R][R]端子 72ページ
外部機器の音をクラビノーバから出すことができます。
- ㉒ ^{ユーエスピー} USB ^{トゥーホスト} [TO HOST]端子 75ページ
コンピューターと接続して、コンピューターとクラビノーバの間でMIDIデータをやり取りできます。
- ㉓ ^{ミディ} MIDI ^{イン} [IN] ^{アウト} [OUT] ^{スルー} [THRU]端子 72ページ
MIDI機器を接続して、MIDIを活用できます。
- ㉔ ^{フォーンズ} [PHONES]端子、^{スピーカー} [SPEAKER]スイッチ 15ページ
[PHONES]端子にヘッドフォンを接続できます。[SPEAKER]スイッチで、スピーカーのオン/オフを切り替えることができます。
- ㉕ ペダル 20ページ
主にピアノ演奏で使います。左ペダルに機能を割り当てて使うこともできます。
- ㉖ ^{ラン} [LAN]端子(CLP-370/340, CLP-S308/S306) 72ページ
楽器を直接インターネットに接続して専用サイトの曲データを直接ご利用になれます。接続方法は45ページをご参照ください。
- ㉗ ^{ペダル} [PEDAL]端子 86ページ
ペダルコードを接続します。

ご使用前の準備

キーカバーについて

- ❗ キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの縁と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- ⊘ キーカバーを開けるときの、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。
- ❗ USB [TO DEVICE]端子Aに別売のUSB記憶装置を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB記憶装置を接続したままキーカバーを閉じると、記憶装置がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。
- ❗ (CLP-S308/S306) 傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(90ページ)で鍵盤全体を覆ってから蓋を閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください。

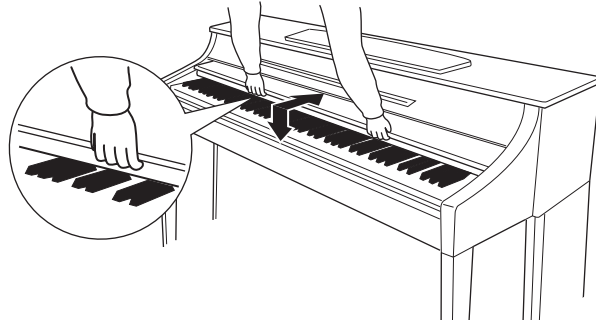
CLP-370/340/330

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

閉めるとき

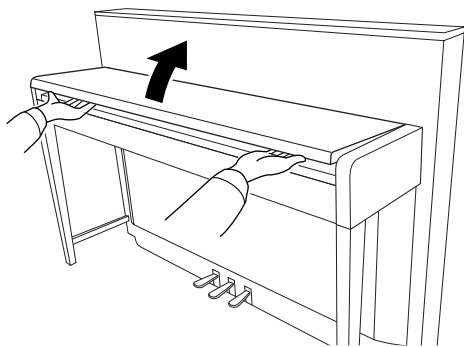
手前に引いて、静かに降ろします。



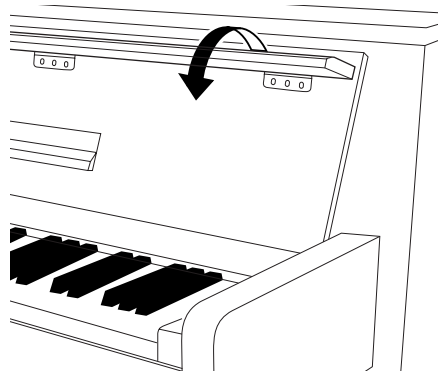
CLP-S308/S306

開けるとき

1. 手前のくぼみに手をかけてキーカバーを持ち上げます。

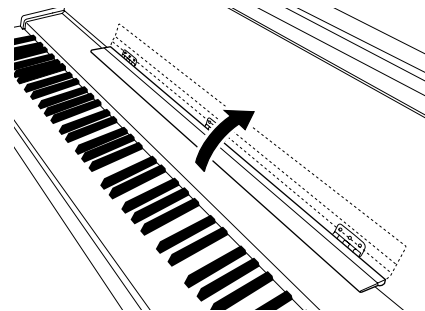


2. キーカバーの上部を折りたたみます。

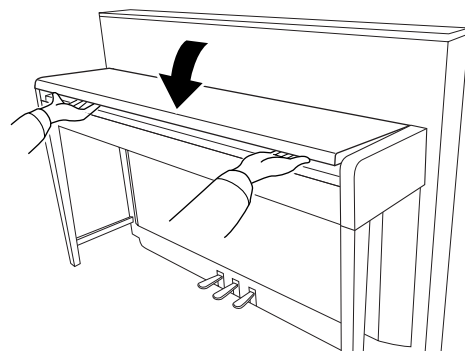


閉めるとき

1. 譜面立てが開いているときは譜面立てを閉じます (鍵盤の傷防止)。



2. キーカバーの上部を開き、キーカバーの上部を持って手前にゆっくり倒します。

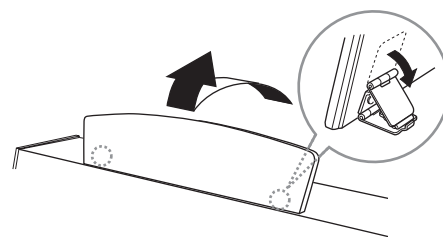


譜面立てについて

CLP-370/340/330

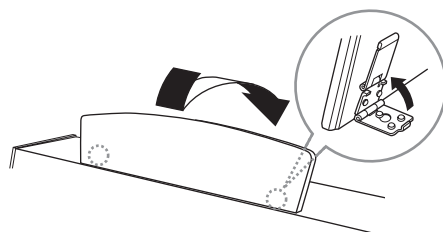
立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



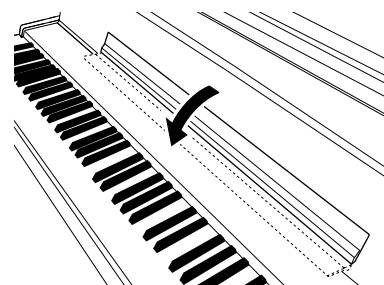
⊘ 金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

CLP-S308/S306

キーカバーの内側に譜面立てが付いています。

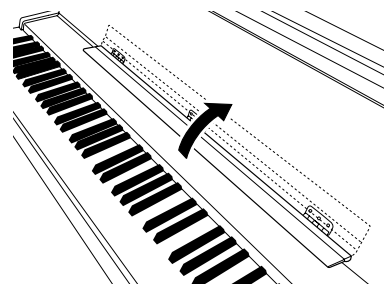
使うとき

キーカバーについている譜面立てを、手前に倒します。



しまうとき

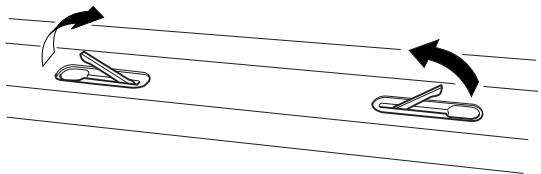
譜面立てを、キーカバー側へ戻します。



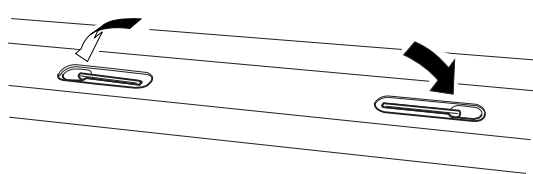
譜面止めについて(CLP-370/340)

譜面立てに置いた楽譜のページを止めることができます。

上げるとき



下げるとき

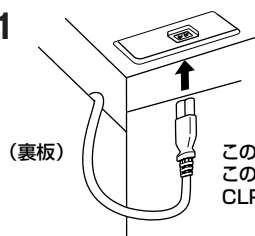


電源を入れる

1. 電源コードを接続する

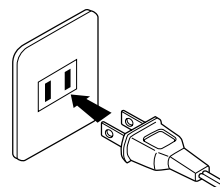
最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。

1-1



このイラストはCLP-370のイラストです。
このイラストは楽器の下側から見たイラストです。
CLP-S308/S306の場合は、楽器裏面にあります。

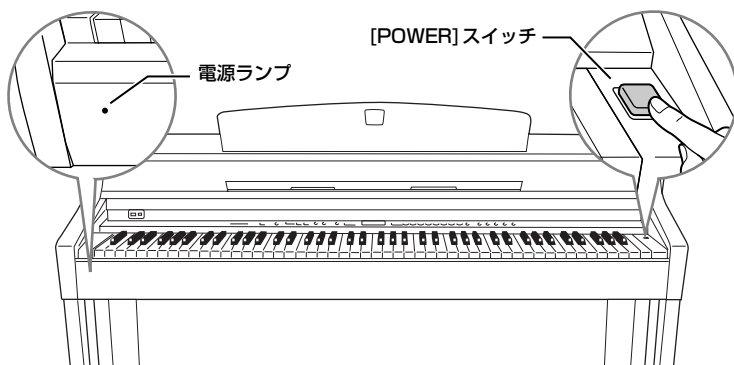
1-2



2. 電源を入れる

鍵盤右の[POWER]^{パワー}スイッチを押すと、電源が入ります。

本体パネル中央の画面に表示が現れます。また、クラビノーバ前面左の電源ランプが点灯します。



通常はテンボが表示されます。

POWER(パワー) = 電源

電源ランプについて

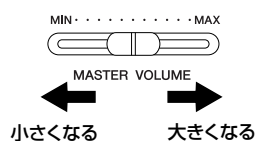
クラビノーバのご使用后、電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

電源を切るときは、もう一度[POWER]スイッチを押します。

画面の表示が消え、クラビノーバ前面左の電源ランプも消灯します。

音量(ボリューム)を調節する

本体パネル左の[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME (マスターボリューム)=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーで[PHONES] (フォーンズ)端子の出力レベルやAUX OUT端子の出力レベルも変わります。

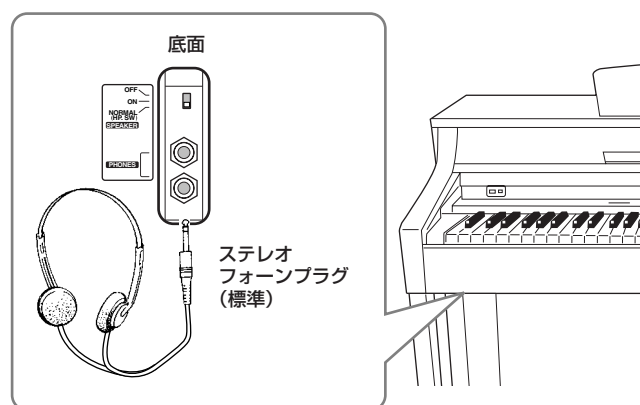
大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを[PHONES]^{フォーンズ}端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

別売ヘッドフォン
ヤマハヘッドフォン HPE-160

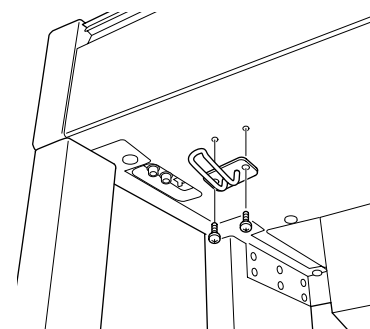


ヘッドフォンハンガー

付属のヘッドフォンハンガーを取り付けると、クラビノーバにヘッドフォンを掛けることができます。

付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けしないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。



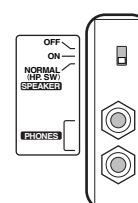
スピーカーのオン/オフを切り替える

スピーカーのオン/オフを切り替えることができます。

NORMAL (HP. SW)^{ノーマル}.... ヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。

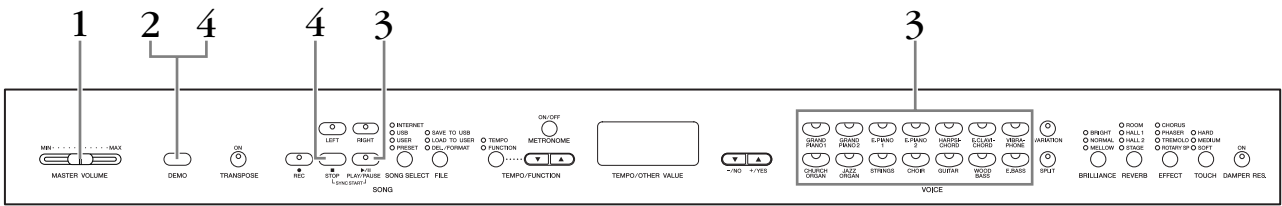
ON..... 常にスピーカーが鳴ります。

OFF..... スピーカーは鳴りません。



デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



1. 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)[POWER]スイッチを押します。

→電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、[MASTER VOLUME]スライダを中程まで上げておいてください。

2. デモ曲モードに入る

[DEMO]ボタンを押します。

音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

3. 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずにSONG

[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、GRAND PIANO 1の曲が再生されます。)

デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

4. 再生をストップしてデモ曲モードを抜ける

[DEMO]ボタンかSONG [STOP]ボタンを押します。

デモ曲の曲名については、「デモ曲一覧」(82ページ)をご参照ください。

デモ曲の再生データはMIDI (ミディ) 送信されません。また、デモ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(29ページ)のとき、ファイル操作中(34ページ)はデモ曲モードには入れません。

モードとは

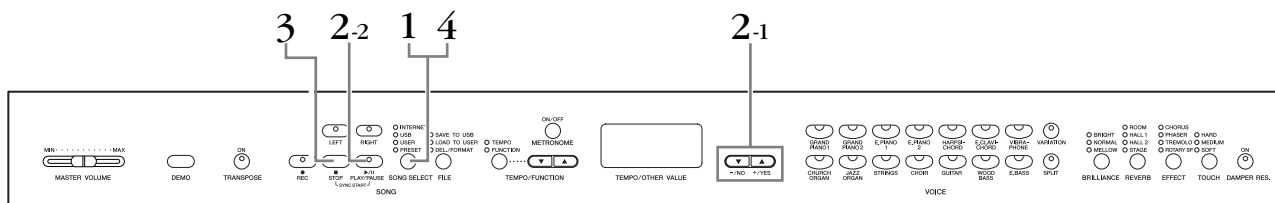
ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」(18ページ)、「フレーズを指定して練習」(19ページ)はできません。

CLP-370/340では、[DEMO]ボタンを押したあと、[VARIATION] (バリエーション) ボタンを押してさらに音色ボタンを押すとピアノ音色説明デモを聞くことができます。各デモの割り当ては、「ピアノ音色説明デモ一覧」(82ページ)を参照してください。

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、ピアノ50曲の演奏データが入っています。また付属の『ピアノで弾く名曲50選』には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。



1. ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

ソングセレクト [SONG SELECT]ボタンを押して、プリセット「PRESET」のランプを点灯させます。

2. 選曲と再生スタート

2-1 ノー[-/NO][イエス+/YES]ボタンを押して、聞きたいピアノ曲を1曲選んだり再生方法を選びます。

1~50聞きたいピアノ曲を1曲指定して再生するモードです。

ランダム r n dピアノ50曲を順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。

オール ALLピアノ50曲を順番に、ストップするまで連続再生するモードです。

2-2 ソング SONG [プレイ/ポーズPLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生がスタートします。

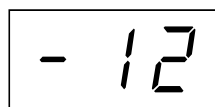
音量の調節

ピアノ曲を聞きながらマスターボリューム[MASTER VOLUME]スライダで音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますがテンポ/ファンクション[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]ボタンを押してテンポを変更できます。

[▼][▲]ボタンを同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。



操作時、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-50~50) で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。) 曲固有のテンポのときは「-」と表示されます。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、ソング SONG [ストップSTOP]ボタンを押します。

続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

再生途中にSONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、曲が一時停止します。

4. ピアノ曲モードを抜ける

ソングセレクト [SONG SELECT]ボタンを押します。

[SONG SELECT]のランプが消灯します。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手パートの再生をオフにしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

デモ曲モード(16ページ)のとき、録音モード(29ページ)のとき、曲の再生中(41ページ)ファイル操作中(34ページ)はピアノ曲モードには入れません。

ソングとは

この楽器では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

手弾き音と再生音用に

[BRILLIANCE (ブリリアンス)] (21ページ)、[REVERB (リバーブ)] (21ページ)の設定を変更できます。手弾き音用に[EFFECT (エフェクト)] (22ページ)、[TOUCH (タッチ)] (23ページ)の設定を変更できます。

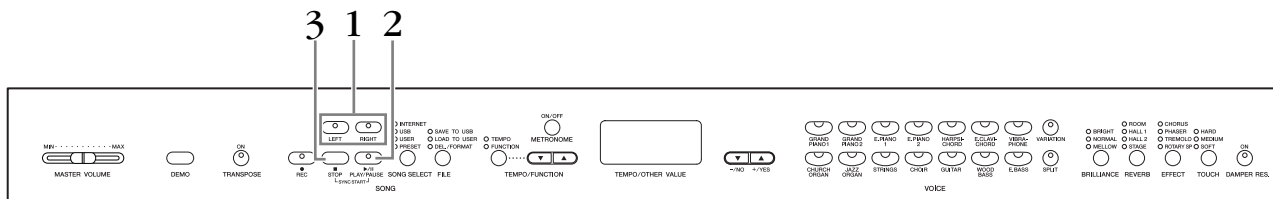
テンポのリセット(再設定)

新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

[REVERB]、[EFFECT]は新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)その曲に合ったリバーブ/エフェクトになります。

ピアノ50曲を片手で練習する

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートに分かれています。それぞれの再生をオン/オフし、再生をオフにしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが[RIGHT]^{ライト}に、左手パートが[LEFT]^{レフト}に入っています。



1. 練習するパートの再生をオフにする

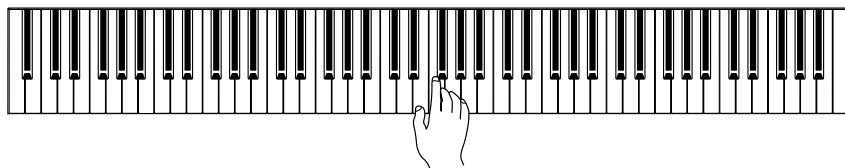
選曲したあと、[RIGHT][LEFT]ボタンのうち再生させない側のパート(練習したいパート)のボタンを押してランプを消灯させます。(選曲した時点では[RIGHT][LEFT]共ランプが点灯しています。)

押した方のボタンのランプが消灯します。

それぞれのボタンは、押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

2. 再生スタート/演奏

ソング プレイ/ポーズ
SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押して再生をスタートします。再生をオフにしたパートをご自身で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

ソング ストップ
SONG [STOP]ボタンを押したまま[PLAY/PAUSE]ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になります。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルで再生/一時停止する

左のペダルで再生/一時停止することができます。

ファンクション(65ページ)で左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルのSONG [PLAY/PAUSE]と同じ機能)に切り替えます。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、SONG [STOP]ボタンを押します。

再生途中でSONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、曲が一時停止します。

ピアノ50曲をALL (オール)とrand (ランダム)(17ページ)で再生しているときは、パートの再生をオフにすることはできません。

再生中の、パートごとの再生オン/オフ

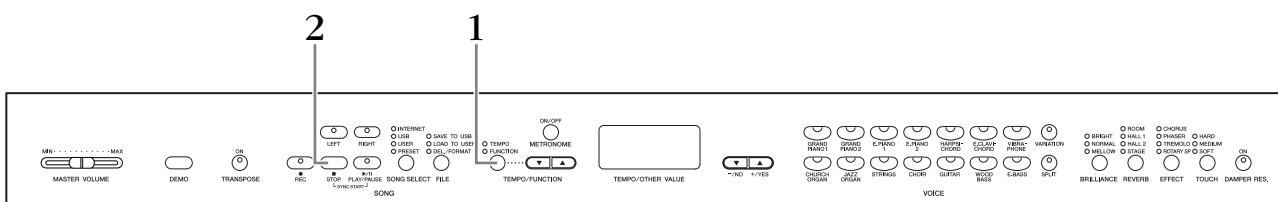
再生中でも、パートごとの再生オン/オフを切り替えることができます。

シンクロ=同時の、同時に起こる

パート再生のリセット(再設定)
新しい曲を選ぶと自動的に両パートとも再生オンにリセットされます。

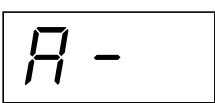
ピアノ50曲のフレーズを指定して練習する

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。



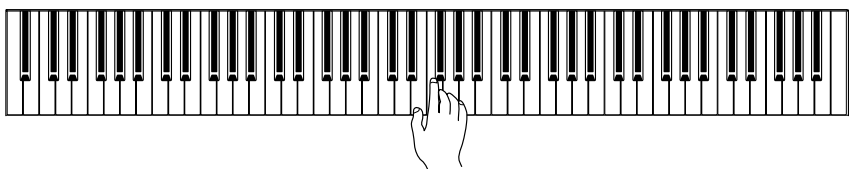
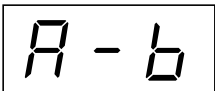
1. フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで[TEMPO/FUNCTION]^{テンポ/ファンクション}ボタンを押します。始まり(A点)が設定され、画面に **A-** と表示されます。



続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

終わり(B点)が設定され、画面に **A-b** と表示されます。同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2. 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときはSONG [STOP]^{ソング ストップ}ボタンを押します。(この場合、SONG [PLAY/PAUSE]^{ソング プレイ/ポーズ}ボタンを押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときはもう一度[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

ピアノ50曲をALL (オール)とrnd(ランダム)(17ページ)で再生しているときは、繰り返し練習はできません。

曲の先頭から繰り返しを始めたときは

再生をスタートする前に[TEMPO (テンポ)/FUNCTION (ファンクション)]ボタンを押して始まり(A点)を設定します。

曲の終わりをB点に設定したいときは

A点を設定したあとで曲の終わりまで再生すると、曲の終わりが自動的にB点に設定されます。

再生の出だしてタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

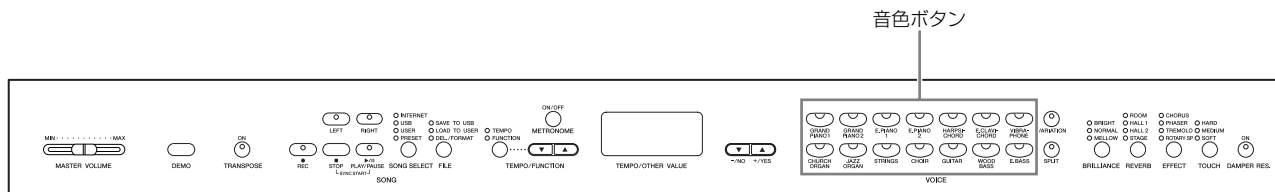
新しい曲を選ぶと

A点、B点は自動的に解除されます。

本編

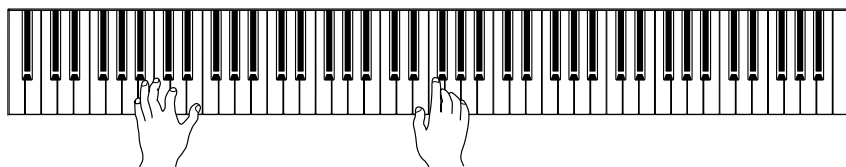
音色を楽しむ

音色を選ぶ



使いたい音色ボタンを押します。
ランプが点灯します。

マスターボリューム
[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節しながら演奏してください。



音色の特徴をつかむには
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。
（16ページ）
「音色一覧」（80ページ）もご参照ください。

音色ボタンの下に印刷されている「VOICE（ボイス）」は、「声」や「音」などの意味があります。

タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」（80ページ）をご参照ください。

ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。

右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。
ダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。

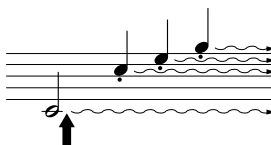
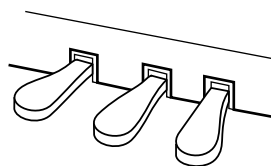
ダンパーレゾナンス
[DAMPER RES.]ボタンをオンにして、ダンパーペダルを踏むと、グランドピアノのような共鳴効果が得られます。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

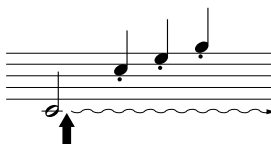
このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。
ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

ダンパーペダルが効かない
ペダルコードのプラグが[PEDAL (ペダル)]端子に差し込まれていないと思われる。確実に差し込んでください。(86ページ)

ハーフペダル機能とは
ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し、音の響きを押さえる(音の濁りを減らす)機能です。

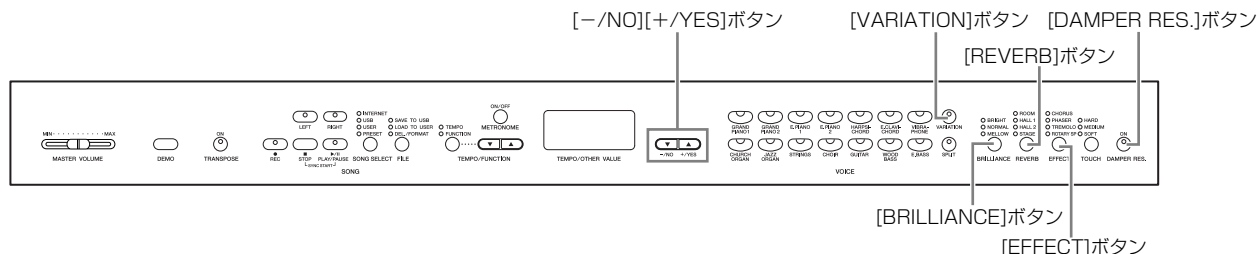
ファンクションでダンパーペダルの共鳴効果の深さを調節できます。(65ページ)

オルガンやストリングス、クワイアの音色では
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

左のペダルの機能切り替え
ファンクション(65ページ)で左のペダルをパネルのSONG [PLAY/PAUSE (プレイ/ポーズ)]や[VARIATION (バリエーション)](CLP-370/340)と同じ機能に切り替えることができます。

ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

音に変化を付ける [VARIATION] (CLP-370/340) / [BRILLIANCE] / [REVERB] / [EFFECT] / [DAMPER RES.]



バリエーション

[VARIATION] (CLP-370/340)

現在選ばれている音色の表情を変えます。音色ごとのバリエーションの特徴については、「音色一覧」(80ページ)をご参照ください。

操作

[VARIATION]ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。ランプが点灯したときがオンです。

ブリリアンス

[BRILLIANCE]

音質を調節します。BRIGHTにするほど明るく鋭い音になり、MELLOWにするほど柔らかくまるやかな音になります。ブリリアンスの設定は、楽器全体にかかります。

操作

[BRILLIANCE]ボタンを押すごとに音質が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。ブリリアンスは、5種類の音質が選べます。2つのランプが点灯している場合は、2つの音質の中間の設定になっています。たとえば、^{ノーマル}NORMALと^{メロー}MELLOWのランプが両方点灯していたら、NORMALとMELLOWの中間の音質が選ばれていることとなります。

リバーブ

[REVERB]

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフ.....リバーブはかかりません。

^{ルーム}ROOM.....部屋の中にあるような響きになります。

^{ホール}HALL 1.....小さいコンサートホールにいるような響きになります。

^{ホール}HALL 2.....大きいコンサートホールにいるような響きになります。

^{ステージ}STAGE.....ステージにいるような響きになります。

操作

[REVERB]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

基本設定

オフ

基本設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「基本設定」と呼んでいます。

ペダルでバリエーションのオン/オフを切り替えるように設定することもできます。(65ページ)

基本設定

NORMAL (ノーマル)

BRIGHT (ブライト)にすると、音量が少し大きくなりますので、[MASTER VOLUME (マスターボリューム)]が上がっていると、音がひずむことがあります。この場合、[MASTER VOLUME]を少し下げてください。

基本設定

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)が設定されています。

リバーブの種類は[REVERB (リバーブ)]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[REVERB]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[REVERB]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

深さ(かかり具合)を変える

[REVERB]ボタンを押している間は画面にリバーブの深さの値が表示されます。

[REVERB]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さの値(0～20)が変わります。

エフェクト

[EFFECT]

音に効果を付け加えます。

その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

オフエフェクトはかかりません。

コーラス
CHORUS広がり感を付けます。

フェーザー
PHASERうねりを持たせます。

トレモロ
TREMLO音量を揺らします。

ロータリースピーカー
ROTARY SPロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果です。

操作

[EFFECT]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。オフの場合はどのランプも点灯しません。

深さ(かかり具合)を変える

[EFFECT]ボタンを押している間は画面にエフェクトの深さの値が表示されます。

[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さの値(0～20)が変わります。

ダンパー レゾナンス

[DAMPER RES.]

[DAMPER RES.]をオンにしてダンパーペダルを踏むと、ダンパーの残響音が付加され、ピアノのダンパーペダルを踏んだときに近い効果が得られます。深さも設定できます。

[DAMPER RES.]の設定は、楽器全体にかかります。

操作

[DAMPER RES.]ボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。

ランプが点灯したときがオンです。

深さ(かかり具合)を変える

[DAMPER RES.]ボタンを押している間は画面に[DAMPER RES.]の深さの値が表示されます。[DAMPER RES.]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、深さの値(0～20)が変わります。

深さ0: 効果なし～

深さ20: 深さ最大

基本設定

音色ごとに標準の深さが設定されています。

基本設定

音色ごとにエフェクトの種類(オフも含む)が設定されています。

エフェクトの種類は[EFFECT(エフェクト)]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[EFFECT]ボタンを押したまま深さを変更したときは、[EFFECT]ボタンを離しても種類は切り替わりません。

深さ0: 効果なし～

深さ20: 深さ最大

基本設定

音色ごとに標準の深さが設定されています。

基本設定

オン

深さ 0: 効果なし～

深さ20: 深さ最大

タッチ

タッチ感を変える[TOUCH]

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

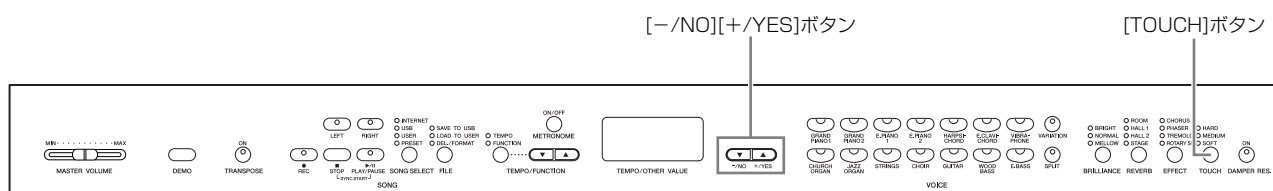
- ハード 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティシモまで表現豊かな演奏ができます。
- ミディアム
MEDIUM 標準的なタッチです。
- ソフト
SOFT 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。
- フィックスド
FIXED タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD=「強い」
MEDIUM=「中間の、中位の」
SOFT=「やさしい、楽な」
FIXED=「固定された」

基本設定 MEDIUM

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(80ページ)をご参照ください。



操作

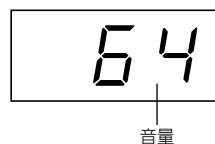
[TOUCH]ボタンを押すごとに種類が切り替わります。

選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[TOUCH]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。

[TOUCH]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]ボタンを押すと、音量を示す値(1~127、基本設定=64)が変わります。



1: 最小音量 ~
127: 最大音量

FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

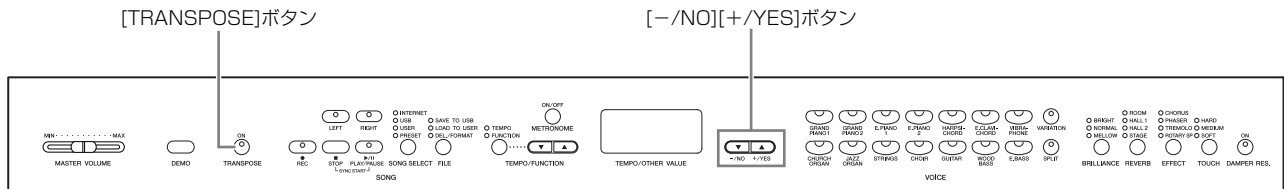
タッチの種類は[TOUCH]ボタンを押して離れたときに切り替わります。[TOUCH]ボタンを押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、[TOUCH]ボタンを離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

トランスポーズ

キー (調) を変える [TRANSPOSE]

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。

たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。



操作

[TRANSPOSE]ボタンを押している間は画面にトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。

[TRANSPOSE]ボタンを押したまま[-/NO]または[+/YES]を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12~0~12、基本設定=0)が変わります。



トランスポーズ量

通常[TRANSPOSE]ボタンのランプは、[TRANSPOSE]ボタンを押している間だけ点灯しますが、トランスポーズ量を0 (ゼロ)以外に設定したときは、ボタンから指を離しても、点灯し続けます。

0以外に設定したあとは、[TRANSPOSE]ボタンを押すごとに、トランスポーズのオン/オフを切り替えることができます。

TRANSPOSE : 移調する

移調: 曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変えること。

トランスポーズ量

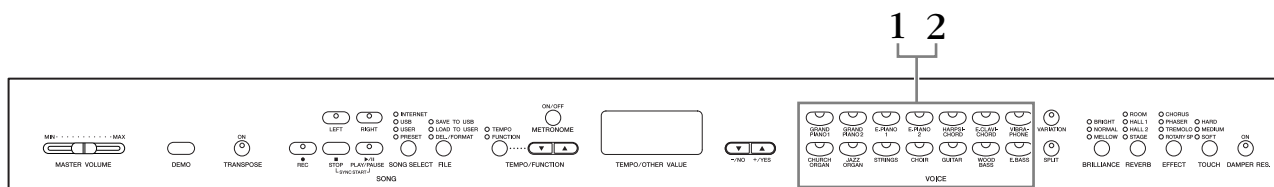
-12: -12半音(-1オクターブ)

0: 標準の音の高さ

12: 12半音(+1オクターブ)

2つの音色を混ぜる(デュアル)

2種類の音色を混ぜて使うことができます。2つの音色でメロディーをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりすることができます。



1. デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

2つの音色ボタンのランプが点灯します。

※ 右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位						
1	2	3	4	5	6	7
GRAND PIANO 1	GRAND PIANO 2	E.PIANO 1	E.PIANO 2	HARPSICHORD	E.CLAVICHORD	VIBRAPHONE
CHURCH ORGAN	JAZZ ORGAN	STRINGS	CHOIR	GUITAR	WOOD BASS	E.BASS
			VOICE			
8	9	10	11	12	13	14

デュアルでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3」(63ページ)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2. デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

デュアル=2つ

デュアルとスプリット (CLP-370/340)

デュアルとスプリット(26ページ)を同時に使うことはできません。

デュアルのときの [VARIATION(バリエーション)] (CLP-370/340)

両方または片方の音色の [VARIATION]がオンになっているときにランプが点灯します。両音色ともオフの場合には消灯します。

その後[VARIATION]ボタンを押すごとに両音色ともオン、両音色ともオフを切り替えることができます。片方だけオン/オフを切り替えたい場合は、他方の音色ボタンを押したまま、バリエーションのオン/オフの切り替えたい音色ボタンを押します。

デュアルのときの[REVERB (リバーブ)]

第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(オフの場合は第2音色のものになります。)

デュアルのときの[EFFECT (エフェクト)]

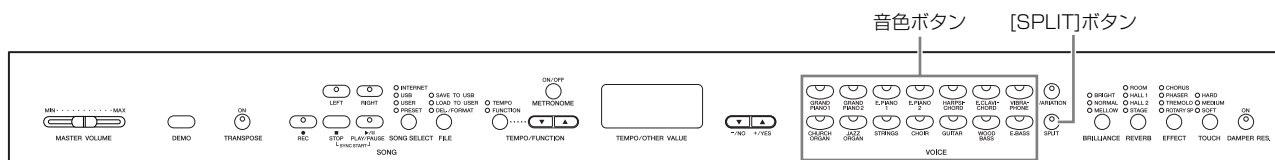
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3」(63ページ)で音色ごとに任意に設定することもできます。

鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く

スプリット

[SPLIT](CLP-370/340)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色で演奏することができます。左の領域で「WOOD BASS」や「E. BASS」などの音色でベースパートを、右の領域でメロディーパートを演奏したりすることができます。



1. スプリットモードに入る

[SPLIT]ボタンを押します。

ランプが点灯します。

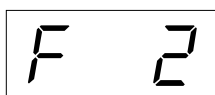
この時点で、左側音色に基本設定の音色[WOOD BASS]が選ばれます。

スプリットでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF4」(64ページ)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2. スプリットポイント(2音色の境め)を決める

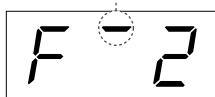
スプリットポイントの基本設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

[SPLIT]ボタンを押している間は画面にスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。



スプリットポイントはF2です。

#を表します。



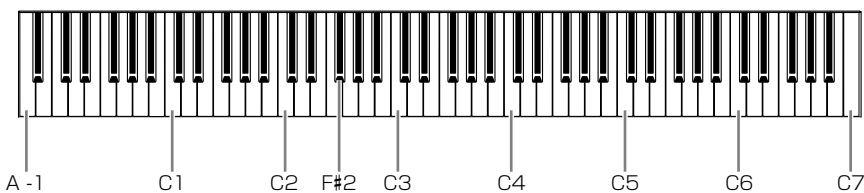
スプリットポイントはF#2です。



スプリットポイントはEb2です。

bを表します。

[SPLIT]ボタンを押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。



初期設定: F#2

スプリットとデュアル

スプリットとデュアル(25ページ)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットポイントは「ファンクションF4」(64ページ)でも設定できます。

スプリットポイントは次の方法でも設定できます。

[SPLIT]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを必要な回数押します。また[SPLIT]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと初期設定のF#2に戻ります。

3. 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

4. 左側の音色を決める

^{スプリット}
[SPLIT]ボタンを押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。([SPLIT]ボタンを押している間は左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

[SPLIT]ボタンを押したまま、^{バリエーション}
[VARIATION]ボタンまたは選ばれている音色ボタンを押すと、バリエーションのオン/オフが切り替わります。

5. スプリットモードを抜ける

[SPLIT]ボタンを押します。
ランプが消灯します。

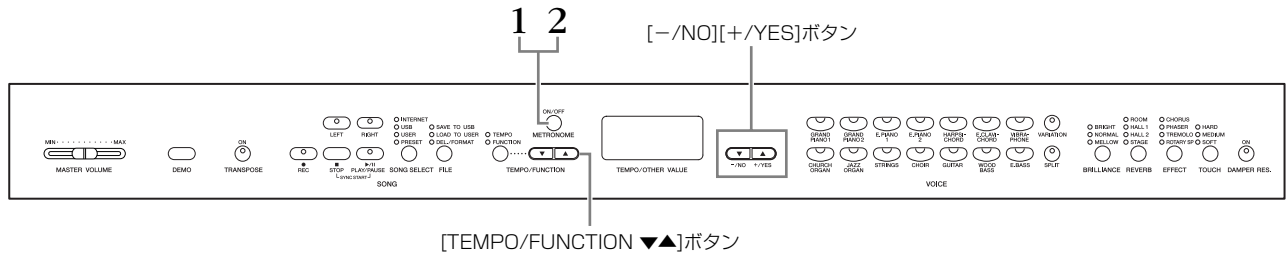
**スプリットのときの
[VARIATION]**
音色ごとに[VARIATION]のオン/オフが設定できます。
通常の状態では、パネルの音色ボタンは右側の音色の状態を示します。(右側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、[VARIATION]がオンのとき、そのランプが点灯します。)
[SPLIT]ボタンを押している間は、パネルの音色ボタンは左側の音色の状態を示します。(左側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、[VARIATION]がオンのとき、そのランプが点灯します。)

**スプリットのときの
[REVERB(リバーブ)]**
右側の音色に設定されているリバーブの種類が、優先されます。(オフの場合は左側に設定されているリバーブの種類になります。)

**スプリットのときの
[EFFECT(エフェクト)]**
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。
深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF4」(64ページ)で音色ごとに任意に設定することもできます。
パネルで深さを調節する場合は[EFFECT]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押します。この場合右側の音色にだけに効果がかかります。

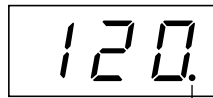
メトロノームを使う (METRONOME)

この楽器には、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。



1. メトロノームを鳴らす

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押します。
メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、
テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

[TEMPO/FUNCTION]ボタンのTEMPOのランプが点灯している状態で、[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押すとテンポの値(32~280 [1分間の拍数]、基本設定=120)が変わります。

[TEMPO/FUNCTION]ボタンの
TEMPOのランプが消灯している
場合は、[TEMPO/FUNCTION]
ボタンを押して、TEMPOのラン
プを点灯させてください。

拍子の設定

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押している間は画面に
拍子が表示されます。

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押したまま[-/NO]また
は[+/YES]ボタンを押して拍子0~15を設定します。
1拍目に「チーン」と鳴りその他の拍では「カチ」と鳴ります。
0に設定したときは「チーン」と鳴らずに、すべての拍で
「カチ」と鳴ります。



拍子

メトロノームの音量は
ファンクション(66ページ)で設定
できます。

2. メトロノームを止める

METRONOME [ON/OFF]ボタンを押します。
メトロノームが止まります。

演奏を録音(記録)する

録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。

練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。

また、2つの録音パートに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

この楽器では、3曲まで録音することができます。この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。ユーザーソングは別売のUSB記憶装置にも保存できます。

「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのと楽器の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

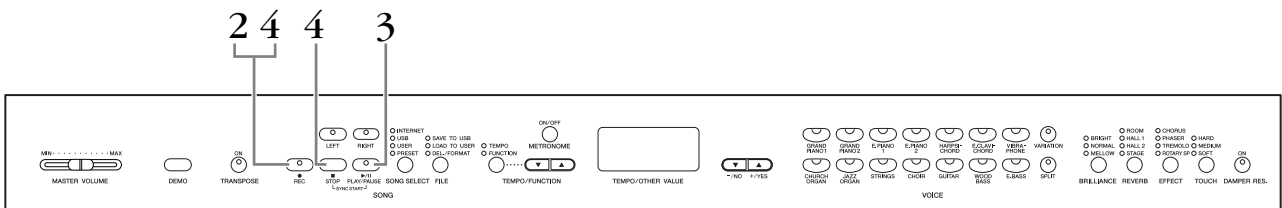
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、楽器の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

楽器の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

演奏を簡単に録音する

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、録音パートを指定せずに手軽に録音する方法です。

この方法では、自動的に^{ライト}[RIGHT]に録音されます。



録音済みのパートを消さないために

すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。

このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

演奏をUSB記憶装置に直接保存することはできません。録音後に楽器本体に自動保存されたデータを、USB記憶装置に保存し直してください(35ページ)。

1. 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。

必要に応じてそのほかの設定(リバーブやエフェクトなど)も変更してください。

^{マスターボリューム}
[MASTER VOLUME]スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節することができます。

2. 録音モードに入る

^{レコード}
[REC]ボタンを押します。

→ U01～U03が表示されていない場合に[REC]ボタンを押すと、ユーザーソング U01～U03のうちまだ録音されていないソングが自動的に選ばれ、[RIGHT]パートがオンになります。空のソングが無い場合はU01～U03のうちU01が選ばれます。

^{ソング} ^{プレイ/ポーズ}
SONG [PLAY/PAUSE]のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

デモ曲モードのときとファイル操作中のときは録音モードに入ることができません。

演奏記憶容量

この楽器は3曲まで録音できますが、それぞれ1曲分の容量は100KBでおよそ1,000音符分になります。

同じ曲で前回[LEFT]パートを選んでいると、手順2で[REC]ボタンを押したときに[LEFT]パートがオンになります。

メトロノームを使う

メトロノームを使って録音することもできます。手順2でメトロノームをオンにしてください。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音されるデータの種類については、32ページをご覧ください。

3. 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音が始まります。または、SONG [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと録音が始まります。

→ 画面に録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



4. 録音をストップする

SONG [STOP] または [REC] ボタンを押します。

→ 録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終了すると、曲名(U01~U03)が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

⊘ 「-」が表示されているときに電源を切らないでください。「-」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(42ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

左のペダルを使ってスタートするファンクション(65ページ)で左のペダルをパネルのSONG [PLAY/PAUSE] ボタンと同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートできます。

録音中に記憶残容量が無くなってしまった場合

画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

録音した演奏を聞いてみる

1. 演奏を再生する

SONG [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。

2. 再生をストップする

SONG [STOP] ボタンを押すと、再生が止まります。

録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1. 必要に応じて、変更したい内容(音色やその他の設定)を選び直す

録音した設定内容を変えたい場合に行なってください。
録音されるデータの種類の種類は32ページを参照してください。

2. 再び録音モードに入る

再び[REC] ボタンを押します。

→ 今録音したパートが自動的に録音パートとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、「演奏を簡単に録音する」(前述)の手順3からの操作に従って録音します。

演奏内容を変更しないで、音色などの設定だけを変更したい場合はここで[REC] を押して録音を終了します。

パートのデータを削除するには
SONG [PLAY/PAUSE] ボタンで録音をスタートし、何もせずSONG [STOP] ボタンで録音をストップすると、そのパートのデータがすべて削除されます。

テンポ、[REVERB]の種類、[EFFECT]の種類の変更は、録音モードに入ったあとで行なってください。

曲の途中から録音し直すことはできません。

RIGHT/LEFTパートに録音する

右手(RIGHT)、左手(LEFT)のパートを選んで、各パートを別々に録音する方法です。右手パートを再生させながら左手パートを録音できますので、連弾曲を1パートずつ録音するのに便利です。

1. 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2. 録音先のユーザーソングをU01～U03から選ぶ

[SONG SELECT]ボタンを押して「USER」のランプを点灯させてから、[-/NO][+/YES]ボタンを押して録音先を選びます。

! 録音済みのパートを消さないために
すでに録音されているパートのランプは、緑に点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

3. 録音モードに入る

[REC]ボタンを押してから録音するパートのボタン([RIGHT]/[LEFT])を押します。
→ 指定したパートのランプが赤く点灯します。

また、SONG [PLAY/PAUSE]のランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

4. 指定したパートに録音する

「演奏を簡単に録音する」の手順3からの操作(30ページ)に従って録音します。

パートボタンのランプの色

消灯: データなし
点灯(緑): データあり
点灯(赤): 録音指定

演奏記憶容量

この楽器は3曲まで録音できますが、それぞれ1曲分の容量は100KBでおよそ11,000音符分になります。

メトロノームを使う

メトロノームを使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

メトロノームの拍子を変更する場合は録音モードに入る前に変更してください。テンポ、[REVERB]の種類、[EFFECT]の種類を変更する場合は録音モードに入ってから変更してください。

録音したソングの拍子を変更できません。
拍子を変更して録音をやり直す場合は、USB記憶装置にソングデータを保存し(35ページ)、本体のソングデータを全パート削除(30ページ)し、拍子を変更して録音をし直します。

前に録音したパートのデータの再生をオフにして録音するには

再び録音モードに入る前(手順3の前)に、前に録音したパートのボタンを押し、緑色のランプを消灯させ、手順3に進みます。

録音されるデータの種類については、32ページをご覧ください。

録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。
下記のように「パートごとに録音されるデータ」と「2つのパートで共通に録音されるデータ」があります。

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- 音色
- [VARIATION]^{バリエーション}のオン/オフ(CLP-370/340)
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- [REVERB]^{リバーブ}の深さ
- [EFFECT]^{エフェクト}の深さ
- デュアルの音色
- デュアル音量バランス
- デュアルデチューン
- デュアルオクターブシフト
- スプリットの音色(CLP-370/340)
- スプリット音量バランス(CLP-370/340)
- スプリットオクターブシフト(CLP-370/340)

2つのパートで共通に録音されるデータ

- テンポ
- [REVERB]の種類(オフも含む)
- [EFFECT]の種類(オフも含む)

初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

以下のデータの初期値を変更することができます。

パートごとのデータ

- 音色
- [VARIATION]のオン/オフ (CLP-370/340)
- [REVERB]^{リバーブ}の深さ
- [EFFECT]^{エフェクト}の深さ
- デュアルの音色
- スプリットの音色 (CLP-370/340)
- ダンパー / ソフトペダルのかかり具合

2つのパートに共通のデータ

- テンポ
- [REVERB]の種類 (オフも含む)
- [EFFECT]の種類 (オフも含む)

1. 変更したい項目をパネルで操作して変更します。

たとえば、録音した[E. PIANO 1]^{エレクトリックピアノ}の音色を[E. PIANO 2]に変更したい場合は、ここで[E. PIANO 2]ボタンを押します。

2. 録音モードに入り、初期値を変更するパートを選びます。

ランプが赤く点灯します。(2つのパートで共通に録音されるデータはどちらのパートを選んででも変更されます。)

❗ ここで鍵盤やSONG ^{ソング} [PLAY/PAUSE] ^{プレイ/ポーズ} ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3. [REC]^{レコード} ボタンを押して録音モードを抜けます。

曲をUSB記憶装置に保存するなどのファイル操作をする

録音機能を使って録音した曲をUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置をフォーマットするなどのファイル操作を行ないます。

USB記憶装置をご使用になる前に「USB記憶装置の取り扱いについて」(39ページ)をご覧ください。

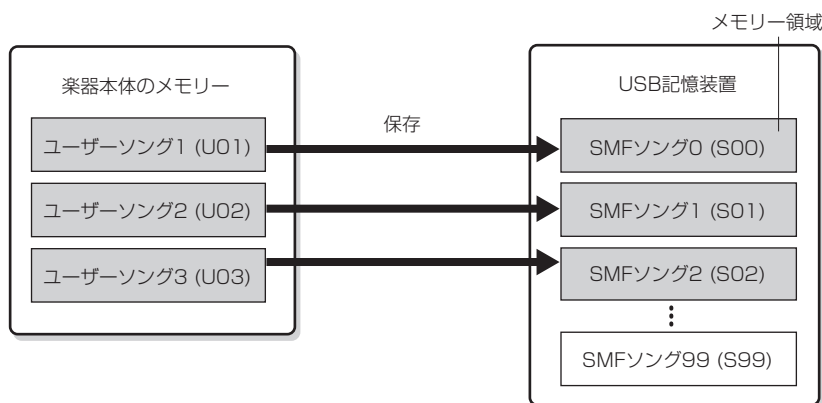
USB記憶装置の接続については、「USB記憶装置を接続する」(73ページ)をご参照ください。

USB記憶装置を使用する前に、記憶装置にプロテクトがかかっていないかどうか確かめください。プロテクトがかかっていると、記憶装置にアクセスできません。

保存と読み込みについて

保存(SAVE)

この楽器で録音したユーザーソングを、1曲ずつ、ひとつのファイル(SMFソング)としてUSB記憶装置に保存できます。メモリー領域は、全部で100 (S00~S99)あります。保存したソングデータは、SMFというほかのMIDI機器などと互換性のあるフォーマット形式で保存されますので、ほかの楽器(クラビノーバのほかのモデルを含む)で再生することもできます。



SMFソングのファイル名の最初に付いている「S」は、SMFの「S」です。

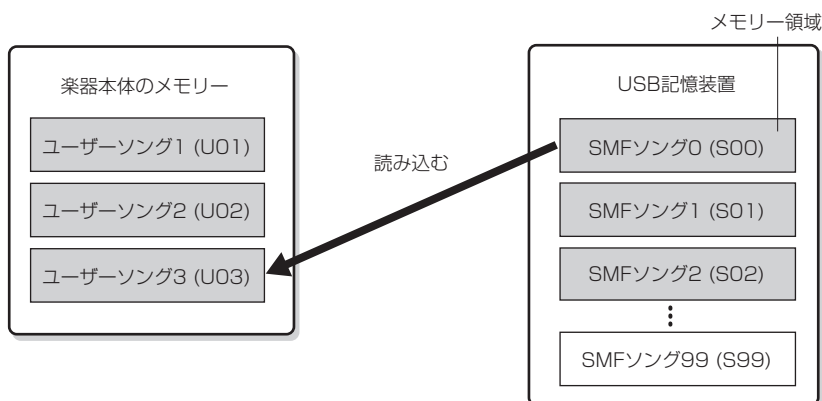
SMF(Standard MIDI File)

代表的なシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)のひとつです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があります。多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音した曲はSMFフォーマット0で保存されます。

読み込み(Load)

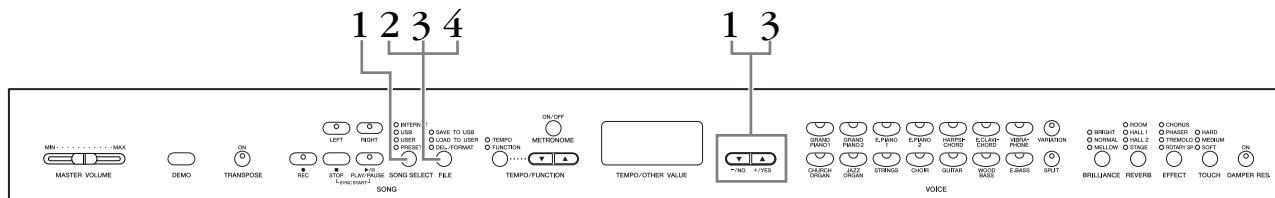
USB記憶装置内のソングを再生するだけの場合はここでの読み込み操作は必要ありません。再生方法は「USB記憶装置に保存されているユーザーソングを再生する」(43ページ)を参照してください。上記で保存したソングファイルを楽器上で編集したい場合だけ、読み込み(Load)操作を行います。

ソングは1ソングだけ読み込み可能で本体のユーザーファイルU03に読み込まれます。



録音した曲を1曲ずつUSB記憶装置に保存する

SMF(Standard MIDI File)
34ページをご参照ください。



1. 保存するユーザーソングを選ぶ

[SONG SELECT]ボタンで「^{ソングセレクト}USER」を点灯させ[-/NO][+/YES]ボタンで、保存するユーザーソングを選びます。

2. ファイル操作モードに入る

USB記憶装置が楽器に接続されているのを確認してから、[FILE]ボタンを押して「^{ファイル}SAVE TO USB」のランプを点灯させます。

3. USB記憶装置内の保存先を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押して、メモリ領域(S00-S99)を選びます。[FILE]ボタンを離れたときに「n y (no/yes)」が表示されます。保存する場合は[+/YES]ボタンを押します。

「-」が流れて表示され保存中であることを表します。

ユーザーソングはUSB記憶装置内の「^{ユーザーファイル}USERFILES」フォルダーにSMF形式で保存され、自動的に「USESONGXX.MID」というファイル名が付けられます。

SMFソングの上書き

すでにSMFソングが保存されているメモリ領域を選んだときは、「S.X.X.」のように、画面にピリオドが3つ表示されます。上書きを中止する場合は、「n y (no/yes)」が表示されたときに[-/NO]ボタンを押してからほかの領域を選び直します。上書きするときには、「n y (no/yes)」が表示されたときに[+/YES]ボタンを押します。上書きを確認するために「n y」が表示されますので、もう一度[+/YES]ボタンを押して上書きします。

- ⊗ 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後 [FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。
メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

4. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを何回か押して、ファイル操作モードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

保存したソングの再生方法は42ページを参照してください。

ユーザーソングに曲データがない場合は、保存できません。(メモリ領域S00~S99が選ばれません。)[RIGHT(ライト)]/[LEFT(リフト)]ボタンのランプが点灯してデータがあることを確認してください。

USB記憶装置の取り扱いについては、39ページを参照してください。

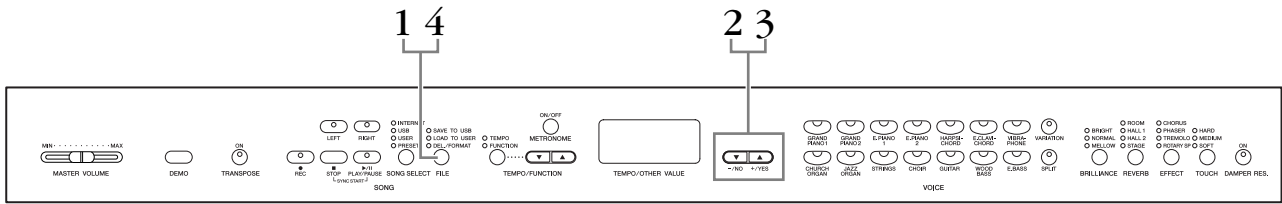
ミュージックデータプレーヤーMDP10で再生する場合

演奏データをMDP10で再生させる場合は、コンピュータなどを使用し、演奏データのみをフロッピーディスクの一番上の階層(フォルダーを使わない)にコピー/保存してください。フォルダー内に演奏データが保存されていると、演奏データは再生できません。

USB記憶装置の空き容量が不十分な場合は、保存できません。不要なファイルを削除(37ページ)するなどして、空き容量を確保してください。

コンピューターを使用してソングを「USER FILES」フォルダーから一番上の階層に移動させた場合は、楽器では外部ソング(42ページ)として扱います。

USB記憶装置に保存した曲を楽器に読み込む



❗ (楽器U03にソングがすでにある場合)読み込みを実施するとU03のソングは上書きされて消えてしまいます。大切なデータはあらかじめ外部の記憶装置やコンピューターに保存しておいてください。

1. 読み込み(Load)モードに入る

USB記憶装置が楽器に接続されていることを確認してから、[FILE]ボタンで「LOAD TO USER」のランプを点灯させます。

2. 読み込む曲を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま、[- /NO][+ /YES]ボタンを押して読み込みたいソングファイルを選びます。

ここで読み込めるソングファイルは楽器から保存したソングファイルだけです。

3. 読み込む

「n y (no/yes)」の確認が表示されますので[+ /YES]を押します。

読み込みが始まり、「-」が流れて表示され読み込み中であることを表します。

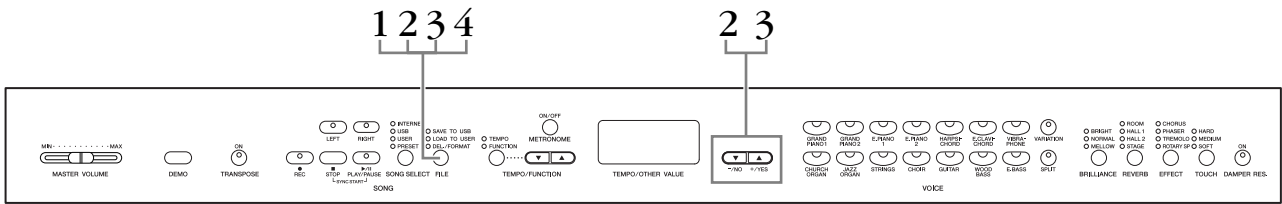
- ❌ 保存/読み込み/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅中)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。
- ❌ ユーザーファイルの名前をコンピューターで変更しないでください。ユーザーファイルの名前を変更すると、楽器に読み込めなくなります。
- ❌ 「-」が流れて表示されているときに電源を切らないでください。「-」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(42ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

読み込みが終了すると「End」が表示されます。ソングファイルは本体のユーザー 3 (U03)に読み込まれました。

4. 読み込みモードを抜ける

[FILE]ボタンを何回か押して、ファイル操作モードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

USB記憶装置に入っている曲を削除する



1. ファイル操作モードに入る

USB記憶装置が接続されている状態で、^{ファイル}[FILE]ボタンを押して「^{デリート/フォーマット}DEL./FORMAT」のランプを点灯させます。

2. 削除する曲を選ぶ

[FILE]ボタンを押したまま[-/NO][+/YES]ボタンを押して、削除する曲を選びます。以下の曲ファイルが順番に表示されます。

- Sxx SMFソング
- xxx 外部ソング(市販のミュージックデータやコンピューターで編集した曲など)

3. 曲を削除する

[FILE]ボタンを離して「n y (no/yes)」を表示させ、[+/YES]ボタンを押します。削除を確認するために「n`y」が表示されますので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。削除を中止するときは、[-/NO]ボタンを押します。

- ⊘ 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後 [FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

4. ファイル操作モードを抜ける

[FILE]ボタンを押して、ファイル操作モードを抜けます。([FILE]ボタンのランプを消灯させます。)

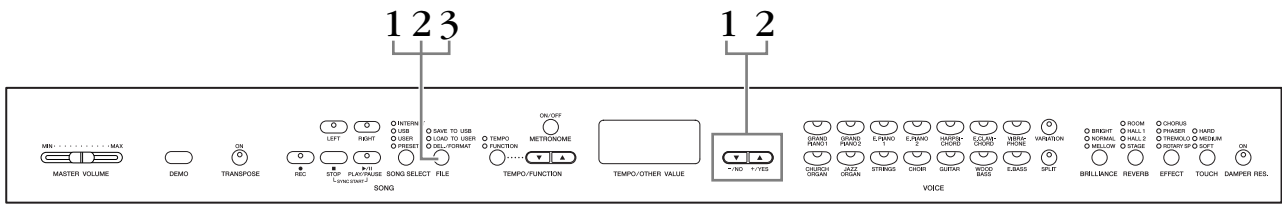
削除モードに入ると曲の再生ができなくなります。削除する曲を再生して確認する場合は、削除モードに入る前に行なってください。

ファイルが入っているメモリー領域のみが表示されます。

- 下記のファイルは削除できません。(削除しようすると「Pro (Protected)」が表示されます。)
- プロテクトがかかった曲(拡張子が.Cxx、.Exx、.SMEのもの)
 - ピアノプレーヤ用の曲
 - MUMAフォルダーに入っている曲

SMFソング(Sxx)は、ファイルを削除してもファイル番号が固定されたままで入れ替わりません。外部ソングは、ファイルを削除するとファイル番号が自動的に入れ替わったり移動したりします。

USB記憶装置をフォーマットする



! フォーマットを実行するとUSB記憶装置に保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。

1. フォーマットモードに入る

USB記憶装置が接続されている状態で、^{ファイル} [FILE] ボタンを押して ^{デリート/フォーマット} 「DEL/FORMAT」のランプを点灯させます。

[FILE] ボタンを押したまま [-/NO] と [+ /YES] ボタンを同時に押して、
「For ^{フォーマット} (Format)」を表示させます。

2. フォーマットする

[FILE] ボタンを離して 「n y (no/yes)」を表示させ、 [+ /YES] ボタンを押します。

フォーマットしてもよいかどうかを確認するために 「n y」が表示されますので、もう一度 [+ /YES] ボタンを押します。

フォーマットを中止するときは、 [- /NO] ボタンを押します。

⊘ 保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後 [FILE] ボタンの 「LOAD TO USER」 ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

3. フォーマットモードを抜ける

[FILE] ボタンを押して、フォーマットモードを抜けます。([FILE] ボタンのランプを消灯させます。)

USB記憶装置の取り扱いについて

■ USB TO HOST端子ご使用時の注意

USB TO HOST端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行わないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れなおしてください。



- USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル以下のケーブルをご使用ください。
- USB TO HOST端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、USB TO HOST端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

この楽器にはUSB TO DEVICE端子があります。USB TO DEVICE端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブなど)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/usb/>

NOTE 上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなどは、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

- USB TO DEVICE端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



トップパネルのUSB TO DEVICE端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

■ USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

NOTE USB記憶装置としてCD-R/RWドライブを接続した場合、CD-ROMのデータ(MIDIデータ)を楽器本体で再生/再現することはできませんが、楽器本体のデータを保存してCD-ROMを作ることはできません。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台だけです。

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。USB TO DEVICE端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にフロッピーディスクなどのメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(38ページ)。



フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用の前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、保存/削除などデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。



USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディア取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクドライブは別売品(95ページ)をご使用ください。

ディスク挿入口にフロッピーディスクを挿入すると、ディスク内のデータを本体に読み込むことができます。フロッピーディスクをご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

■ 使用できるフロッピーディスクの種類

3.5インチの2DD、または、2HDフロッピーディスクが使用できます。

■ フロッピーディスクの挿入/取り出し

● フロッピーディスクの挿入

- フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、ディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。

● フロッピーディスクの取り出し

- あらかじめフロッピーディスクにアクセス中*でないことを確認した上で(ディスク挿入口左下のユーズランプが消えたことを確認した上で)、ディスク挿入口の右上にあるイジェクトボタンをしっかりと奥まで押します。フロッピーディスクが押し出されるので、取り出して(引き抜いて)ください。フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなった場合は、無理に取り出そうとせず、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んでからやり直してください。

*アクセス中: ディスク内のデータを本体に読み込み中であることを指します。また、電源が入っている状態でフロッピーディスクを挿入したときも、楽器本体がディスクの内容を確認するために自動的にアクセス中になります。

⊘ アクセス中にフロッピーディスクを取り出したり、楽器本体の電源を切ったりしないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、フロッピーディスクドライブの故障の原因になります。

- 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■ 磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがあります。
- ディスクドライブユニットを良好な状態でご使用いただくために、磁気ヘッドを定期的に(1カ月に1回程度)クリーニングしていただくことをおすすめします。

磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、弊社推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

■ フロッピーディスクについてのご注意

● フロッピーディスクの取り扱いと保管

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使用しないでください。
- フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

■ 誤消去防止

- フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないようにライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにしてください。
- 逆に、データを保存する場合などは、ご使用前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

曲を再生する

録音機能を使って録音した曲や市販のミュージックデータなどを再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

この楽器で再生できる曲

- **デモ曲** 16ページ
音色ごとのデモ曲です。
- **ピアノ50曲(プリセットソング)** 17ページ
楽器本体に入っているピアノ50曲です。
- **楽器本体に保存したユーザーソング** 42ページ
この楽器で録音し、楽器本体に保存されている曲です。
- **楽器本体に保存した外部ソング** 42ページ
付属のソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使って、コンピューターから楽器に保存した曲です。これらの曲は、ユーザーソングとは別のメモリーに保存されます。この楽器では255曲(曲番号001~255)まで選択できます。
- **USB記憶装置に保存したユーザーソング** 43ページ
この楽器で録音した曲をUSB記憶装置に保存したファイルです。
- **USB記憶装置に保存した外部ソング** 43ページ
市販の曲やコンピューターで編集した曲などをUSB記憶装置に保存したものです。この楽器では999曲(曲番号001~999)まで選択できます。
- **インターネットに接続して曲を聞く** 45ページ
専用サイトの曲データをご利用いただくことができます。さまざまなジャンルのたくさん曲データをお楽しみください。

この楽器が対応しているシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)

- **SMF(Standard MIDI File)フォーマット0と1**
スタンダード ミディ ファイル
代表的なシーケンスフォーマットのひとつです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があります。多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音した曲はSMFフォーマット0になります。
- **ESEQ**
ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されている代表的なシーケンスフォーマットのひとつです。この楽器で再生できるESEQファイルは、ピアノプレーヤ用のソングのみです。

この楽器に入っている音色以外の音色を含む曲(XGやGMソングなど)を再生した場合、元の曲の音色が正確に再現されないことがあります。その場合、曲再生チャンネル選択(65ページ)を「1&2」に切り替えると3~16チャンネルの再生が消音され、より自然に聞こえることがあります。

曲のロード(読み込み)ができない場合は、文字種を切り替えてみてください(70ページ)。

曲の再生データは、MIDI送信されません。ただし下記のソングで曲再生チャンネル選択(65ページ)が「1&2」の場合は、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

- ピアノプレーヤ用ソング
- MUMAで購入した曲
- プロテクトがかかっていない外部ソング

この楽器で読み込めるフォルダー階層は、2階層までです(外部ソングの場合)。ただし、この楽器では階層が表示されませんので、どの階層にある曲も001~999までの曲番号で表示されます。

メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

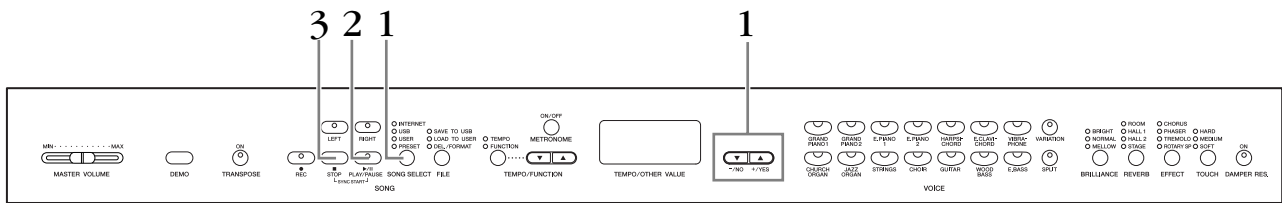
再生中に[REVERB (リバーブ)]の種類を切り替えた場合

再生中に[REVERB]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

再生中に[EFFECT (エフェクト)]の種類を切り替えた場合

再生中に[EFFECT]の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがかからなくなる場合があります。

ユーザーソングや楽器に取り込んだ外部ソングを再生する



1. 再生する曲を選ぶ

ソングセレクト [SONG SELECT]ボタンを押して「ユーザーUSER」のランプを点灯させます。そのあと[-/NO][+/YES]ボタンを押してユーザーソング(Uxx*)/外部ソング(xxx*)を選びます。

*ユーザーソングの曲名の最初に付いている「U」は「User」の「U」です。xxは、曲番号を示しています。

2. 再生スタート

ソング SONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押すと再生がスタートします。スタート後、画面に再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

音量の調節

マスターボリューム [MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節します。

テンポの調節

再生スタート前でも再生中でも、テンポ/ファンクション [TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押してテンポを変更することができます。[▼][▲]ボタンを同時に押すと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

3. 再生ストップ

曲を停止させるときは、ソング SONG [STOP]ボタンを押します。曲を一時停止させるときは、曲の再生中にSONG [PLAY/PAUSE]ボタンを押します。

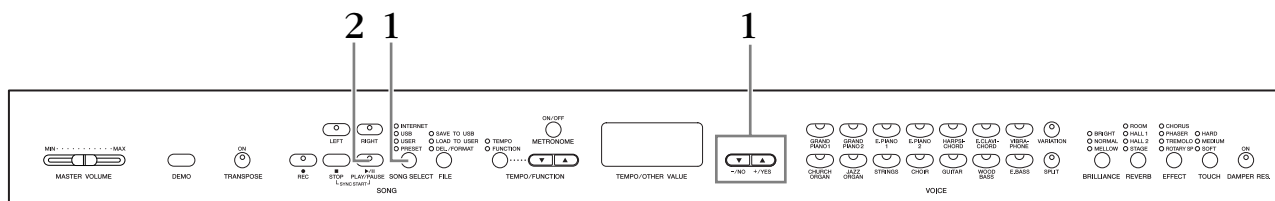
録音データがないときは SONG(ソング) [PLAY/PAUSE (プレイ/ポーズ)]ボタンを押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

外部ソングは、繰り返し再生できます。ALL: 外部ソングを順番に、ストップするまで連続再生するモードです。r n d: 外部ソングを順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。

外部ソングをこの楽器に取り込む方法は76ページ(コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する)を参照ください。

USB記憶装置に保存されているユーザーソングを再生する



1. 再生する曲を選ぶ

USB記憶装置が楽器に接続されていることを確認してから、[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンを押して「USB」のランプを点灯させます。そのあと[-/NO][+/YES]ボタンを押して再生させたいソング番号(Sxx*)/外部ソング(xxx*)またはALL(連続再生番号順)、r n d(連続再生で番号は順不同)を選びます。

* SMFソングのファイル名の最初に付いている「S」は、SMFの「S」です。xxは、曲番号を示しています。

2. 再生スタート/ストップ

「ユーザーソングや楽器本体に取り込んだ外部ソングを再生する」(42ページ)の手順2～3と同様の操作です。

USB記憶装置に保存されているユーザーソングは、繰り返し再生できます。

ALL: ソングをソング番号順に再生します。ストップするまで再生は続きます。

r n d: ソングを順不同に再生します。ストップするまで再生は続きます。

再生に関する便利な機能

パートの再生オン/オフ

録音後は、録音したデータが入っているパートボタン(ライト^{RIGHT}ボタン^{LEFT}の片方または両方)のランプが緑に点灯します。
ランプが点灯しているパートのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのパートのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

パートの再生オン/オフの切り替えは再生前でも再生中でもできます。

シンクロ=同時の、同時に起こる

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

ソング^{SONG} ストップ^[STOP] ボタンを押したままプレイ/ポーズ^[PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、シンクロスタート待機状態になります。

→ SONG [PLAY/PAUSE] ボタンのランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

再生しながらご自身も弾く場合、再生とご自身の演奏の出だしを合わせたいときに便利です。

左のペダルで再生/一時停止する

左のペダルで再生/一時停止することができます。

ファンクション(65ページ)で左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルのSONG [PLAY/PAUSE] ボタンと同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。

インターネットダイレクト接続機能 (CLP-330を除く)

この機能を使って専用サイトの曲データをご利用いただくことができます。さまざまなジャンルのたくさんの曲データをお楽しみください。

ここでは、コンピューターや通信規格に関する用語が出てきます。わからない用語については「インターネット用語集」(56ページ)を参照してください。

楽器をインターネットに接続する準備

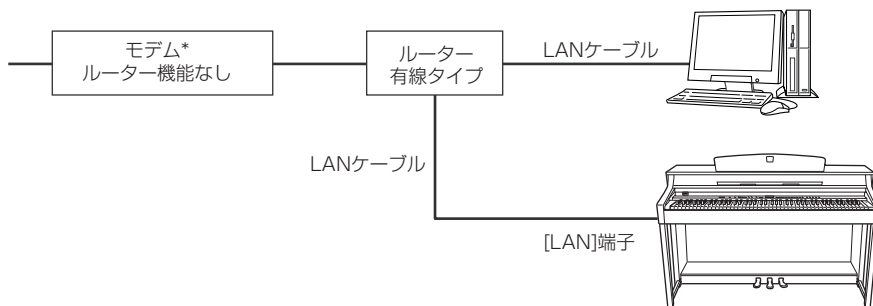
ブロードバンドルーターまたはルーター機能付きモデムを通して、楽器を常時接続回線(ADSL、光ファイバー、ケーブルテレビインターネット)に接続します。最新のサービス内容、具体的な接続方法(使用できる機器など)については、インターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>

モデムやブロードバンドルーターの設定は楽器上ではできませんので、楽器を接続する前に、コンピューターで設定してください。

また、インターネットで通信をするためには、あらかじめインターネットプロバイダーとの契約をしておく必要があります

接続例1：有線で接続する(ルーター機能のないモデムを使用)



*モデム=ADSLモデム、ONU(光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの

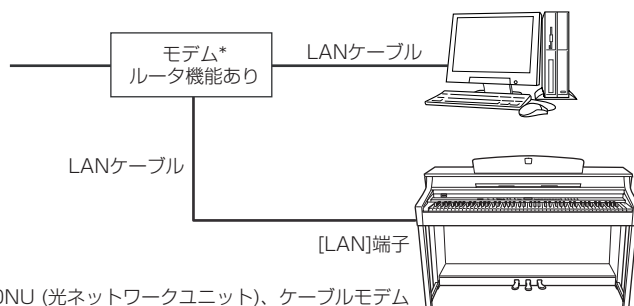
LANケーブル

インターネットの契約内容によっては、2台以上の機器(コンピューター、楽器など)に接続できない場合があります。この場合、楽器を接続することはできません。契約内容をご確認ください。

LANケーブルは、[LAN]端子に接続してください。

モデムの種類によっては、複数の機器(コンピューターと楽器など)を接続するために、別途イーサネットハブが必要な場合もあります。

接続例2: 有線で接続する(ルーター機能のついているモデムを使用)

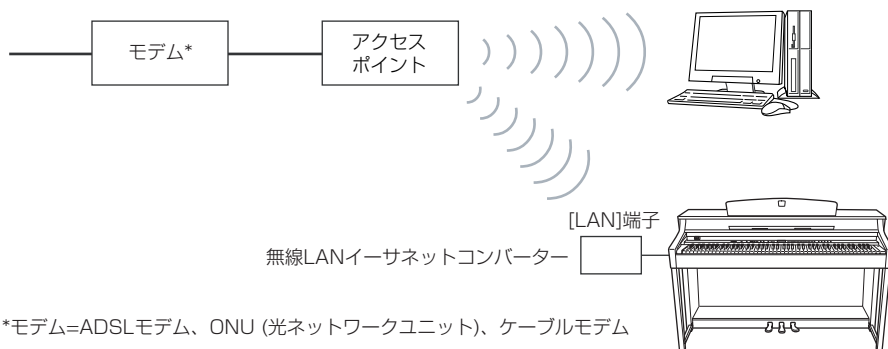


*モデム=ADSLモデム、ONU (光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	LANケーブル
-----------	---------

LANケーブルは、[LAN]端子に接続してください。

接続例3: 無線で接続する(無線LANイーサネットコンバーターを使用)



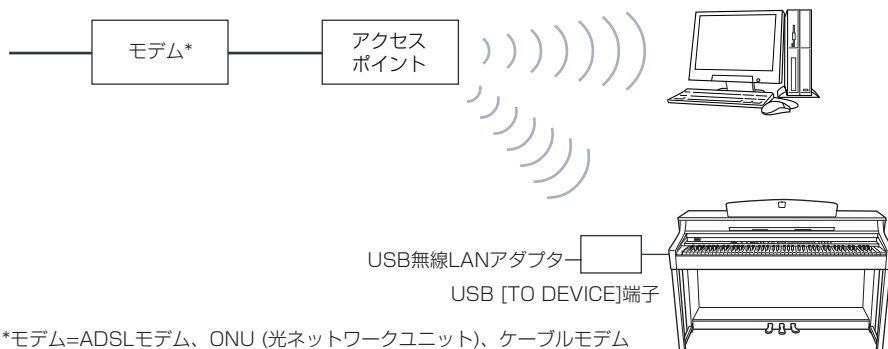
*モデム=ADSLモデム、ONU (光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	無線LANイーサネットコンバーター
-----------	-------------------

無線LANイーサネットコンバーターは、[LAN]端子に接続してください。

モデム、アクセスポイントのどちらかにルーター機能が必要です。

接続例4: 無線で接続する(USB無線LANアダプターを使用)



*モデム=ADSLモデム、ONU (光ネットワークユニット)、ケーブルモデム

ご用意いただくもの	USB無線LANアダプター
-----------	---------------

USB無線LANアダプターは、USB [TO DEVICE]端子に接続してください。

モデム、アクセスポイントのどちらかにルーター機能が必要です。

この楽器が対応している暗号化方式はWEPのみです。

楽器をインターネットに接続する

有線LAN(DHCP使用)をお使いの場合

楽器での設定は不要です。

ブロードバンドルーター、またはルーター機能付きモデムと楽器をLANケーブルで接続するだけでインターネットへの接続が可能です。

楽器をインターネットに正しく接続したあと、[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンで「INTERNET」^{インターネット}ランプを点灯させると、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

→ 専用サイトのインターネット上の曲を再生することができます。再生方法については、「インターネットの曲を聞く」(55ページ)をご覧ください。

一般的なブロードバンドルーターや一般的なルーター機能付きモデムにはDHCP機能があります。

有線LAN(固定IPアドレス、プロキシサーバー使用)をお使いの場合

楽器でのインターネット設定が必要です。

インターネット設定の方法については「インターネット設定について」(48ページ)をご覧ください。

無線LAN(無線LANイーサネットコンバーター)をお使いの場合

楽器での設定は不要です。

無線LANイーサネットコンバーターを楽器に接続するだけでインターネットへの接続が可能です。

*無線LANイーサネットコンバーターはアクセスポイントなどの設定が必要です。設定方法については使用される製品の取扱説明書をご覧ください。

楽器をインターネットに正しく接続したあと、[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンを押して「INTERNET」^{インターネット}ランプを点灯させると、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

→ 専用サイトのインターネット上の曲を再生することができます。再生方法については、「インターネットの曲を聞く」(55ページ)をご覧ください。

無線LAN(USB無線LANアダプター)をお使いの場合

コンピューターでインターネット設定ファイルを作り、その設定ファイルを楽器に読み込む必要があります。

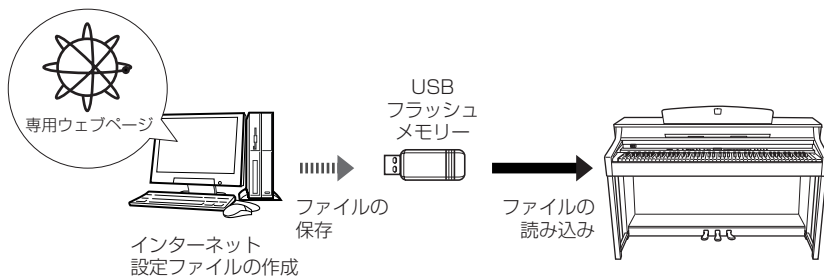
インターネット設定の方法については「インターネット設定について」(48ページ)をご覧ください。

インターネット設定について

インターネット設定は、コンピューターを使って専用ウェブページ上で行ないます。有線LAN (固定IPアドレス、プロキシサーバー使用)、または無線LAN (USB無線LANアダプター)をお使いの場合は、以下の設定を行なってください。

インターネット設定

初めてインターネットダイレクト接続機能を利用するときは、以下の流れでインターネット設定を行ないます。コンピューターで設定ファイルを作成し楽器に読み込みます。



詳しくは、インターネット上のウェブページ

<<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>>をお読みください。

インターネット設定ファイルを作成する

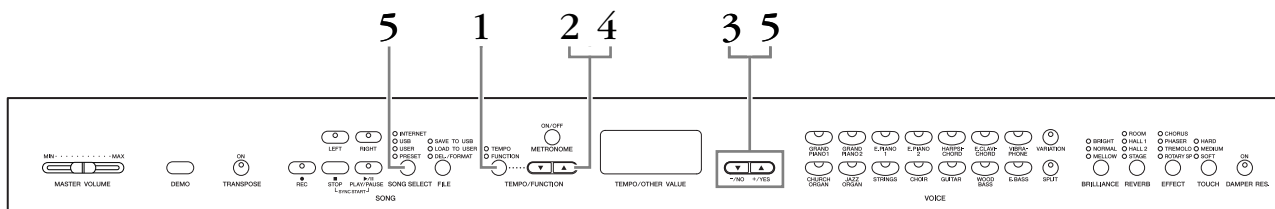
インターネットに接続するためにはあらかじめコンピューターを使って専用ウェブページ上でインターネット設定ファイルを作成しておく必要があります。

インターネット設定ファイルの作成方法は、ウェブページ

<<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>>の説明をお読みください。

インターネット設定ファイルを読み込む

コンピューターを使って専用ウェブページ上で作成したインターネット設定ファイルを楽器に読み込み、インターネット設定を行ないます。



1. ファンクションモードに入る

インターネット設定ファイル「config.n21」が保存されているUSBフラッシュメモリーが、楽器に接続されているのを確認してから、[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押してファンクションモードに入ります。

有線LAN (DHCP使用)または無線LAN (無線LANイーサネットコンバーター)をお使いの場合は、ここでのインターネット設定は不要です。

インターネット設定の内容は楽器内部にバックアップされます。

インターネット設定ファイル「config.n21」はウェブページ上で作成します。

デモ曲モード、曲の再生中、録音中、ファイル操作中はファンクションモードに入れません。

2. 「F9.y」(CLP-370/340)、「F8.y」(CLP-S308/S306)を表示させる

[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押して「F9.y」(CLP-370/340)、または「F8.y」(CLP-S308/S306)を表示させます。

3. 「F9.」(CLP-370/340)、「F8.」(CLP-S308/S306)に続く小項目の設定に入る

[+/YES]ボタンを押して小項目の設定に入ります。

4. 「F9.」(CLP-370/340)、「F8.」(CLP-S308/S306)に続く小項目を設定する

[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンを押して「F9.1」(CLP-370/340)、「F8.1」(CLP-S308/S306)を表示させます。

読み込みを中止する場合は[-/NO]ボタンを押します。

5. 読み込みをスタートする

[+/YES]ボタンを押します。

「n y」が確認のために表示されます。読み込みする場合はもう一度[+/YES]ボタンを押します。

キャンセルする場合は[-/NO]ボタンを押します。

→ USBフラッシュメモリーからの読み込みが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。「End」表示を消すには、[+/YES]または[-/NO]ボタンを押します。

→ 読み込みが完了すると、インターネットダイレクト接続に必要なインターネット設定が完了します。

楽器がインターネットに正しく接続されると、[SONG SELECT]ボタンで[INTERNET]ランプを点灯させたときに、ディスプレイにインターネット上のチャンネルが表示されます。

再生の方法については「インターネットの曲を聞く」(55ページ)をご参照ください。

読み込みが正常に完了しなかった場合は、ディスプレイに「Err」とエラーコードが交互に表示されます。この状態から元の状態に戻すには[-/NO]ボタン、または、[+/YES]ボタンを押します。

エラーコード

エラーコードの内容については、インターネット上のウェブページ<<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>>で、ご確認ください。

インターネット設定ファイルはバックアップ(77ページ)をとっておくことをおすすめします。

無線LANの電波強度を表示する(USB無線LANアダプターをお使いの場合)

USB無線LANアダプターをお使いになる場合(46ページの接続例4)は、以下の方法で電波強度をディスプレイに表示させることができます。

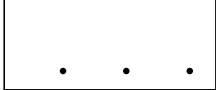


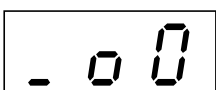

48ページの「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1~3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」(CLP-370/340)、「F8.」(CLP-S308/S306)に続く小項目を設定する

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.3」(CLP-370/340)、「F8.3」(CLP-S308/S306)を表示させます。

→ ディスプレイに電波強度が約3秒間表示されます。

電波強度の表示パターン

電波状態	ディスプレイ
電波が届いていない	
電波強度 弱	
電波強度 中	
電波強度 強	
無線LANが使われていない	

電波強度はインターネットへの接続後、表示させることができます。

無線LANイーサネットコンバーターをお使いの場合は、「無線LANが使われていない」の表示になります。

接続情報ファイルを書き出す

現在の接続情報の詳細をテキストファイルとしてUSBフラッシュメモリーに書き出します。書き出した情報はコンピューター上で見ることができます。

48ページの「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1～3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」 (CLP-370/340)、 「F8.」 (CLP-S308/S306) に続く小項目を設定する

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.2」 (CLP-370/340)、 「F8.2」 (CLP-S308/S306)を表示させます。

2. 書き出しの準備をする

[+/YES]ボタンを押して「OUt」を表示させます。

書き出しを中止する場合は[-/NO]ボタンを押します。

3. 書き出しをスタートする

[+/YES]ボタンを押します。

「n y」が確認のために表示されます。書き出しする場合はもう一度[+/YES]ボタンを押します。

キャンセルする場合は[-/NO]ボタンを押します。

USBフラッシュメモリーに同じ名前のファイルがある場合には、ディスプレイに「n y」が表示されます。上書きをする場合には、[+/YES]ボタンを押してください。書き出しを中止する場合には、[-/NO]ボタンを押してください。

→ USBフラッシュメモリーへの書き出しが完了すると、ディスプレイに「End」が表示されます。「End」表示を消すには、[+/YES]または[-/NO]ボタンを押します。

書き出しが完了したあと、USBフラッシュメモリーをコンピューターに接続して、「ConnectionInfo.txt」という名前のファイルを開くと接続情報の詳細が表示されます。

接続情報ファイルを使ってインターネット設定 (48ページ) をすることはできません。接続情報ファイルは閲覧のみ可能です。

デモ曲モード、曲の再生中、録音中、ファイル操作中はファンクションモードに入れません。

書き出しが正常に完了しなかった場合は、ディスプレイに「Err」とエラーコードが交互に表示されます。

エラーコード

エラーコードの内容については、インターネット上のウェブページ <<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>>で、ご確認ください。

インターネットに関するその他の設定

楽器プログラムのバージョン表示

楽器プログラムのバージョンを確認します。

48ページの「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1～3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)に続く小項目を設定します。

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.4」 (CLP-370/340)、「F8.4」 (CLP-S308/S306)を表示させます。

2. バージョン番号を表示させます。

[+/YES]ボタンを押してバージョン番号を表示させます。

「PrG」とバージョン番号「1.00」(例)が交互に表示されます。

3. 表示を終了します。

[+/YES]ボタンを押して「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)の表示に戻ります。

4. ファンクションの操作を終了します。

[TEMPO/FUNCTION] ボタンを押します。

LAN端子ドライバーのバージョン表示

この楽器に使用されているLAN 端子ドライバーのバージョンを表示します。

48ページの「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1～3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)に続く小項目を設定します。

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.5」 (CLP-370/340)、「F8.5」 (CLP-S308/S306)を表示させます。

2. バージョン番号を表示させます。

[+/YES]ボタンを押してバージョン番号を表示させます。

「L-P」とバージョン番号「1.2.7」(例)が交互に表示されます。

3. 表示を終了します。

[+/YES]ボタンを押して「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)の表示に戻ります。

4. ファンクションの操作を終了します。

[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

USB-LANアダプタードライバーのバージョン表示

この楽器に使用されているUSB-LAN アダプタードライバーのバージョンを表示します。

48ページ「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1～3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)に続く小項目を設定します。

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.6」 (CLP-370/340)、「F8.6」 (CLP-S308/S306)を表示させます。

2. バージョン番号を表示させます。

[+/YES]ボタンを押してバージョン番号を表示させます。

[L-A]とバージョン番号「2.4.1」 (例)が交互に表示されます。

3. 表示を終了します。

[+/YES]ボタンを押して「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)の表示に戻ります。

4. ファンクションの操作を終了します。

[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

インターネット設定を初期化する

48ページの「インターネット設定ファイルを読み込む」の手順1～3と同じ操作をして次の小項目を設定する手順に進みます。

1. 「F9.」 (CLP-370/340)、「F8.」 (CLP-S308/S306)に続く小項目を設定します。

[TEMPO/FUNCTION ▼▲] ボタンを押して「F9.7」 (CLP-370/340)、「F8.7」 (CLP-S308/S306)を表示させます。

2. 初期化操作に入ります。

[+/YES]ボタンを押して初期化の操作に入ります。「CLr」と表示されます。

3. 初期化の確認操作に入ります。

[+/YES]ボタンを押します。
初期化しても良いか再確認のため「n y」が表示されます。
初期化をキャンセルする場合は[-/NO]ボタンを押します。

4. 初期化します。

もう一度 [+/YES]ボタンを押します。
初期化が行なわれます。
初期化が終わると「End」が表示されます。

5. 初期化を終了します。

[+/YES]ボタンを押して初期化を終了します。表示は「F9.7」 (CLP-370/340)、「F8.7」 (CLP-S308/S306)になります。

6. ファンクションの操作を終了します。

[TEMPO/FUNCTION] ボタンを押します。



初期化を実行すると、インターネット設定で行なったすべての設定が工場出荷時の状態に戻ります。初期化する前に設定状態をコンピューター側に保存しておくことをおすすめします。(「データのバックアップ」77ページ参照)

「初期設定に戻す」の操作との関係について

インターネット設定の初期化は「初期設定に戻すには」(57ページ)では初期化されません。

クッキーについて

クッキー(Cookie)もあわせて初期化されます。

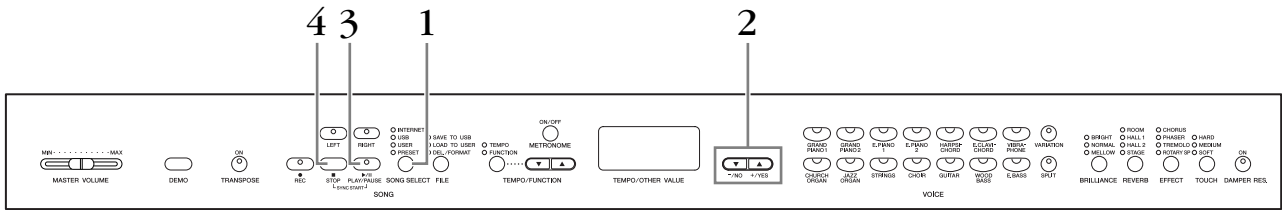
インターネット初期設定一覧

工場出荷時楽器の設定は以下のようになっております。

DHCP	使用する
無線LAN	設定なし
プロキシサーバー	設定なし

インターネットの曲を聞く (CLP-330を除く)

専用サイトの曲データをご利用いただくことができます。さまざまなジャンルのたくさんの曲データをお楽しみください。



インターネットへの接続については、最初に「インターネットダイレクト接続機能」(45ページ)をお読みください。

1. ^{インターネット}「INTERNET」ランプを点灯させる

楽器がインターネットに接続されているのを確認してから、^{ソングセレクト} [SONG SELECT] ボタンを押して「INTERNET」ランプを点灯させます。(通信中は、「INTERNET」ランプが点滅します。)

2. チャンネルを変更する

[-/NO]または[+/YES] ボタンを押して、チャンネルを変更します。この間、ディスプレイには選択されているチャンネルが表示されます。

例



3. 再生をスタートする

^{プレイ/ポーズ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、インターネット上の曲データが再生されます(通信中は、「INTERNET」アクセスランプが赤く点滅します)。

4. 再生をストップする

[STOP] ボタンを押します。

デモ曲モード、録音中、ファイル操作中、曲の再生中はINTERNET に入れません。

ディスプレイのイラストは、操作説明のためのものです。したがって実際のディスプレイと異なる場合があります。

手弾き音と再生音用に [BRILLIANCE (プリリアンス)] (21ページ)、[REVERB (リバーブ)] (21ページ)を、手弾き音用に [EFFECT (エフェクト)] (22ページ)、[TOUCH (タッチ)] (23ページ)を切り替えることもできます。

リバーブは新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)その曲に合ったリバーブの種類になります。

シンクロスタート機能、トラック ON/OFF、A-Bリピート機能を使用する場合は一度[PLAY]を実行してから行なってください。

インターネットの曲の再生データは、MIDI 送信されません。

インターネット用語集

アクセスポイント	無線LANで電波のやりとりを行なうときの基地局となる機器。無線LANを有線LANにつなぐ役割も持つ。
インターネット	コンピューター間の通信規格にもとづいて、世界中のコンピューターや携帯電話などを接続した、巨大なネットワークのこと。
ウェブページ	サイトを構成する各ページのこと。
クッキー (Cookie)	ユーザーがウェブページとの間でやりとりした内容を記憶するしくみ。以前訪れたウェブページで、そのときに入力した内容があらかじめ表示されるのはこのしくみによるもの。
サイト	正式には「ウェブサイト」という。ひとまとまりに公開されているウェブページ群。 たとえば、「http://www.yamaha.co.jp/」で始まるウェブページを「ヤマハのサイト」と呼ぶ。
サーバー	ある特定のサービスを提供するシステムやコンピューターのこと。
ダウンロード	ネットワークを通じて、サーバーに保存されているデータをお使いのコンピューターや携帯電話などに転送すること。 この楽器では、ウェブサイトからソングなどのデータを楽器に送ることを指す。
ブラウザ	ウェブページを閲覧するためのソフトウェア。この楽器では、ウェブページの内容を表示する画面のこと。
プロキシ	LAN(内部のネットワーク)とインターネット(外部のネットワーク)の境にあって、直接インターネットに接続できない内部ネットワークのコンピュータに代わって、「代理」としてインターネットとの接続を行なうコンピュータのこと。内部ネットワークを外部からの不正アクセスから守ったりするのに使われる。
ブロードバンド	大容量のデータを高速に通信できるインターネット接続サービスのこと。ADSL、光ファイバーなどがある。
プロバイダー	インターネット接続サービスを提供する通信事業者。インターネットに接続するには、プロバイダーと契約する必要がある。
ホームページ	ブラウザ起動時(インターネット機能に入ったとき)に最初に表示されるウェブページのこと。または、ウェブサイトのトップページのことを指すこともある。
無線LAN	ケーブルを使わず、無線通信でデータの送受信をするLANのこと。
無線LANイーサネット コンバーター	LAN端子を搭載したデジタル家電、プリンター、ゲーム機などを簡単に無線化するための機器。
モデム	一般の電話回線とコンピューターをつなぐための装置。コンピューターから送られてくるデジタル信号を、電話回線に流す音声信号に変換したり、電話回線を通じて聞こえてくる音声信号をデジタルデータに変換したりする。
ルーター	異なるネットワーク同士を相互接続するための機器。たとえば家庭などで複数のコンピューターを同時にインターネットに接続して、それぞれに異なるはたらきをさせたい場合に必要となる。一般的にはモデムとコンピューターの間に接続するが、モデム自体にルーター機能が内蔵されているものもある。
DHCP	インターネットに接続するたびに、コンピューターにIP アドレスなどの必要な情報を自動的に割り当てるための規格。
IP アドレス	ネットワークに接続されたコンピューター1台1台に割り振られた、ネットワーク上の所在を示す識別番号。
LAN	同じ建物の中にあるコンピューター同士を専用のケーブルで接続し、データをやり取りするネットワーク。 Local Area Networkの略。
SSL	インターネット上で情報を暗号化して送受信する通信規格。プライバシーに関わる情報もれるのを防ぐ。
URL	インターネット上に存在するウェブページの場所を指し示す文字列。通常は、「http://」で始まる。
WEP	無線LAN時の暗号化技術。無線LANのアクセスポイントと端末に共通の暗号キーを設定することで、データを暗号化し、第三者による傍受を防ぐ。

初期設定(工場出荷時の設定)に戻すには

❗ この操作をすると本体に記憶されているデータが消去されます。大切なデータはコンピューター側に保存してください。(76ページ参照)

いったん電源をオフにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をオンにします。
この操作でいつでも基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻すことができます。
(ここでの「バックアップオン/オフの設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。
また、本体内に録音された演奏データも消えます。)(基本設定一覧が83ページに掲載されています。)

⊘ 「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。「CLr」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(42ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

各種の便利な設定をする [FUNCTION]

この楽器には、「音の高さを微調整」したり、「メトロノームの音量を設定」したりなど、いろいろ便利な設定をすることができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

ファンクション=機能

まずは、以下のファンクション機能一覧をご覧ください。

ファンクションには大項目が9個(CLP-370/340: F1～F9)/8個(CLP-S308/S306、CLP-330: F1～F8)あります。大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

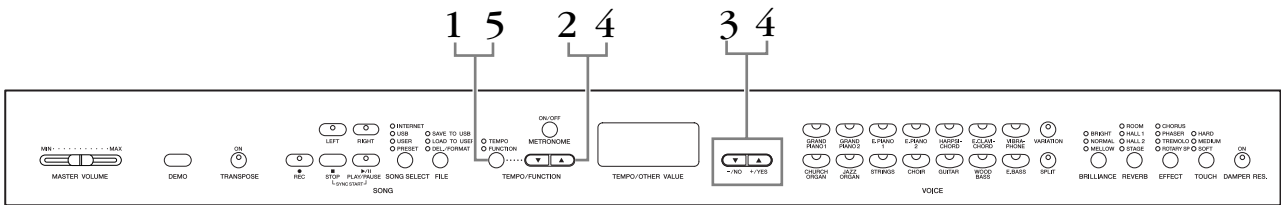
ファンクション一覧

大項目	小項目	CLP-370/340	CLP-330	CLP-S308/S306	ページ
音の高さの微調整	—	F1	F1	F1	61
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	F2.1	F2.1	62
	基音の設定	F2.2	F2.2	F2.2	62
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	F3.1	F3.1	63
	2音色の音の高さを微妙にずらす設定	F3.2	F3.2	F3.2	63
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	F3.3	F3.3	63
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	F3.4	F3.4	63
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	F3.5	F3.5	63
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	F3.6	F3.6	63
	基本設定に戻す操作	F3.7	F3.7	F3.7	63
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定	F4.1	—	—	64
	2音色の音量バランスの設定	F4.2	—	—	64
	右側音色のオクターブシフトの設定	F4.3	—	—	64
	左側音色のオクターブシフトの設定	F4.4	—	—	64
	右側音色のエフェクトの深さの設定	F4.5	—	—	64
	左側音色のエフェクトの深さの設定	F4.6	—	—	64
	ダンパーペダルの有効域の設定	F4.7	—	—	64
	基本設定に戻す操作	F4.8	—	—	64
その他の諸設定	左のペダル機能の設定	F5.1	F4.1	F4.1	65
	ソフトペダル効果の深さの設定	F5.2	F4.2	F4.2	65
	共鳴効果の深さの設定	F5.3	—	—	65
	キーオフ音の音量設定	F5.4	—	—	65
	曲再生チャンネル選択	F5.5	F4.3	F4.3	65
メトロノーム音量の設定	—	F6	F5	F5	66
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F7.1	F6.1	F6.1	66
	MIDI受信チャンネルの設定	F7.2	F6.2	F6.2	67
	ローカルコントロールオン/オフの設定	F7.3	F6.3	F6.3	67
	プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	F7.4	F6.4	F6.4	67
	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	F7.5	F6.5	F6.5	67
	セットアップデータのMIDI送信	F7.6	F6.6	F6.6	68
	イニシャルセットアップ送信	F7.7	F6.7	F6.7	68
バックアップオン/オフの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F8.1	F7.1	F7.1	69
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F8.2	F7.2	F7.2	69
	音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定	F8.3	F7.3	F7.3	69
	その他の項目のバックアップ設定	F8.4	F7.4	F7.4	69
文字種の切り替え	—	F8.5	F7.5	F7.5	70
LAN設定	インターネット設定ファイルを読み込む	F9.1	—	F8.1	48
	インターネット接続情報ファイル書き出し	F9.2	—	F8.2	51
	無線LAN電波強度表示	F9.3	—	F8.3	50
楽器のバージョン確認	楽器プログラムバージョン表示	F9.4	—	F8.4	52

大項目	小項目	CLP-370/340	CLP-330	CLP-S308/S306	ページ
LAN設定	LAN端子ドライバーバージョン表示	F9.5	—	F8.5	52
	USB-LANアダプタードライバーバージョン表示	F9.6	—	F8.6	53
	インターネット設定初期化	F9.7	—	F8.7	54

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。
(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



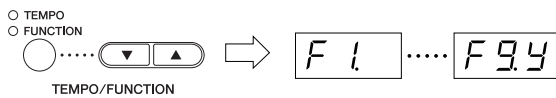
1. ファンクションモードに入る

テンポ/ファンクション [TEMPO/FUNCTION]ボタンを押します。

FUNCTIONのランプが点灯し、ファンクションモードの画面 **F**** になります。
(*.*のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

2. 大項目を選ぶ

[TEMPO/FUNCTION ▼▲]ボタンでファンクションの大項目(CLP-370/340: F1～F9)、(CLP-330: F1～F7)、(CLP-S308/S306: F1～F8)を選びます。



3. [-/NO] [+ /YES]ボタンで

小項目がない場合.....直接設定の操作に入ります。
小項目がある場合.....[+ /YES]ボタンで小項目を選択する操作に進みます。

4. これ以降の2種類のボタンを使って操作

[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]ボタン

大項目または小項目の選択に使います。

[-/NO] [+ /YES]ボタン

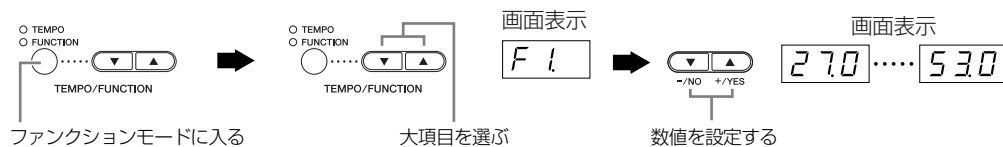
大項目または小項目を選んだあと、オン/オフの設定、種類の設定、数値の設定をします。
[-/NO] [+ /YES)を同時に押しと基本設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻る場合があります。

デモ曲/曲の再生モードのときと、曲の録音中、ファイル操作中ファンクションモードに入ることはできません。

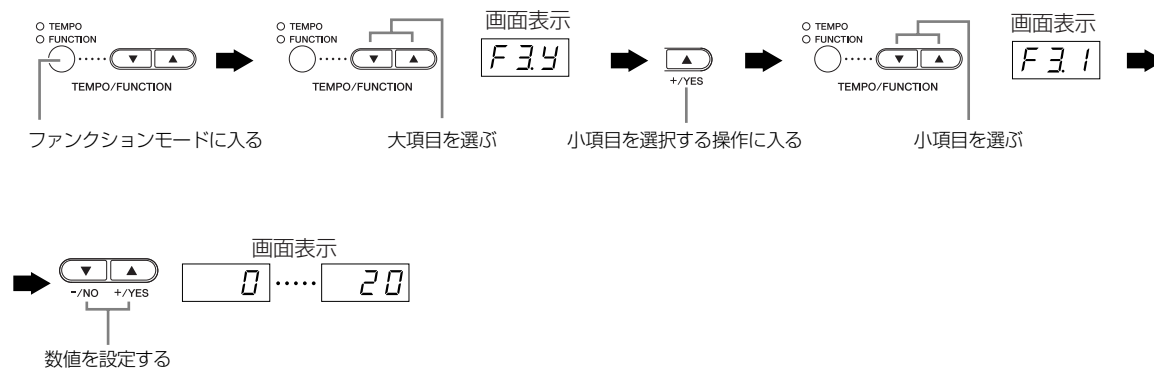
手順2、3、4でファンクションの操作を中止したいときは [FUNCTION]ボタンを押せばいつでもファンクションモードから抜けることができます。

項目を選んだあと、最初に [-/NO] [+ /YES)ボタンを押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

操作例1 (F1. 「音の高さの微調整」)



操作例2 (F3.1 「(デュアルの)2音色の音量バランスの設定」)



5. 操作が完了したら

テンポ/ファンクション
[TEMPO/FUNCTION]ボタンを押してファンクションモードから抜けます。
TEMPOのランプが点灯し、画面がテンポ表示に戻ります。

各ファンクション項目の説明

F1. 音の高さの微調整

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。
2. [-/NO] [+ /YES]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さをHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

表示は10の位と1の位と小数点第一位で表示します。

例 440.2Hzのときの表示は **40.2** になります。

設定範囲: 427.0~453.0 (Hz)

基本設定: 440.0 (Hz)

基本設定に戻す: [- /NO]と[+ /YES]ボタンを同時に押します。

Hz(ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

鍵盤を使った設定方法もあります
(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

A -1、B -1とC0の鍵盤を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

A -1、B -1とC#0の鍵盤を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す

A -1、B -1、C0とC#0の鍵盤を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

(上記操作中、Hz表示の画面に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。)

約1Hz単位で設定する方法もあります
(ファンクションモードでないときに操作できます。)

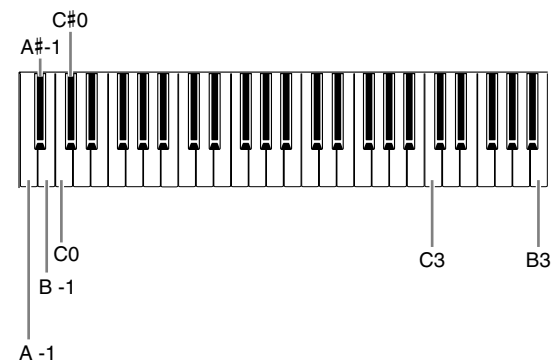
約1Hz単位で音の高さを上下させる

A -1、B -1とC0、またはA -1、B -1とC#0の鍵盤を同時に押したまま、[-/NO]または[+ /YES]ボタンを押す。

基本設定に戻す

A -1、B -1とC0、またはA -1、B -1、C#0の鍵盤を同時に押したまま、[-/NO]と[+ /YES]ボタンを同時に押す。

(上記操作中、Hz表示の画面に切り替わります。操作後、元の画面に戻ります。)



F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律 (Equal Temperament)

イコールテンペラメント

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。
現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament) (Major)

ピュア テンペラメント

メジャー

純正律(短調) (Pure Temperament) (minor)

マイナー

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ピタゴリアン テンペラメント

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ミートーン テンペラメント

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

ヴェルクマイスター

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

キルンベルガー

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F2.4]** を選びます。

2. [+ / YES]ボタンを押して確定し、

[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲]ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES]ボタンで設定します。

小項目

[F2.1] 音律(調律法)の種類の設定

設定範囲: 1 平均律
2 純正律(長調)
3 純正律(短調)
4 ピタゴラス音律
5 中全音律
6 ヴェルクマイスター音律
7 キルンベルガー音律

基本設定: 1 平均律

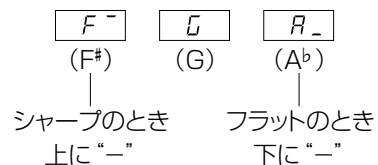
[F2.2] 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, E^b, E, F, F#, G, A^b, A, B^b, B

基本設定: C

• 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。
2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1. デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F35** を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

デュアルモードでないときには

1. での表示が **F3-** になり、[+ / YES] ボタンを押しても反応しません。
この場合は音色を2つ選んで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20 (20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音の高さを微妙にずらす設定

設定範囲: -20~0~20 (+方向で第1音色の音の高さが高く、第2音色の音の高さが低くなる。
-方向で第2音色の音の高さが高く、第1音色の音の高さが低くなる。)

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色を別々に設定します。

エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

- 「第1音色」「第2音色」については、25ページをご覧ください。

F37 基本設定に戻す操作

[+ / YES] ボタンを押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ショートカット操作

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま[TEMPO / FUNCTION] ボタンを押すと直接ファンクションモードの **F3*** に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作([TEMPO / FUNCTION] ボタンを押す→TEMPOのランプ点灯)が必要です。

F4.(CLP-370/340) スプリットの諸設定

スプリットモードでの各種設定をします。
スプリットポイントを変更したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。

1. スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F44** を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

スプリットモードでないときには

1.での表示が **F4-** になり、[+ / YES] ボタンを押しても反応しません。ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

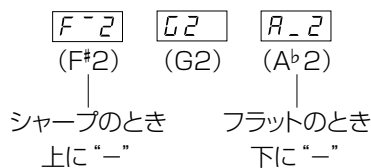
小項目

F41 スプリットポイントの設定

設定範囲: 全鍵盤
基本設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

- [- / NO] [+ / YES] ボタンの代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。
- ファンクションモードでないとき、スプリット[SPLIT] ボタンを押しながら鍵盤を押しても設定できます。(26ページ)
- スプリットポイントの鍵盤名表示の例



F42 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20 (20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)
基本設定: 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。
音色の組み合わせごとに設定されます。

F43 右側音色のオクターブシフトの設定

F44 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。
音色の組み合わせごとに設定されます。

F45 右側音色のエフェクトの深さの設定

F46 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。
エフェクトがオフのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)
音色の組み合わせごとに設定されます。

F47 ダンパーペダルの有効域の設定

オール
設定範囲: ALL (両音色)、1 (右側の音色)、2 (左側の音色)
基本設定: ALL

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか(ALL)、右側音色にだけかけるか(1)、左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

F48 基本設定に戻す操作

[+ / YES] ボタンを押すと上記すべての設定がその音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ショートカット操作

[SPLIT] ボタンを押したまま[TEMPO / FUNCTION] ボタンを押すと直接ファンクションモードの **F4*** に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 ([TEMPO / FUNCTION] ボタンを押す → TEMPO のランプ点灯) が必要です。

F5.(CLP-370/340)/F4.(CLP-S308/S306、CLP-330)**その他の諸設定**

左のペダルの機能を切り替えたり、ダンパーペダルの共鳴効果の深さを設定します。曲再生チャンネルの選択もできます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F5.Y** (CLP-370/340)/ **F4.Y** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
2. [+ / YES]ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
[TEMPO / FUNCTION ▼ ▲]ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES]ボタンで設定します。

小項目**F5.1 (CLP-370/340) / F4.1 (CLP-S308/S306、CLP-330)
左のペダル機能の設定**

設定範囲:

1 (ソフトペダル)

ペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

2 (SONG [PLAY/PAUSE])

曲の再生/一時停止をコントロールします。パネルの SONG [PLAY/PAUSE]と同じ機能になります。

3 ([VARIATION])(CLP-370/340)

音色のバリエーションのON/OFFを切り替えます。パネルの[VARIATION]と同じ機能になります。

基本設定: 1(ソフトペダル)

**F5.2 (CLP-370/340) / F4.2 (CLP-S308/S306、CLP-330)
ソフトペダル効果の深さの設定**

設定範囲: 1~5

基本設定: 3

ソフトペダル効果の深さを設定します。

**F5.3 (CLP-370/340)
共鳴効果の深さの設定**

設定範囲: 0~20

基本設定: 12

グランドピアノ
[GRAND PIANO 1]の音色でダンパーペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

**F5.4 (CLP-370/340)
キーオフ音の音量設定**

設定範囲: 0~20

基本設定: 10

ハーブシコード
[GRAND PIANO 1][HARPSICHORD]
エレクトリッククラビコード
[E.CLAVICHORD](各音色 VARIATIONを含む)の音色で、キーオフ音(鍵盤を離れたときの微妙な発音)の音量を設定します。

**F5.5 (CLP-370/340) / F4.3 (CLP-S308/S306、CLP-330)
曲再生チャンネル選択**

オール
設定範囲: ALL、1&2

基本設定: ALL

再生させるチャンネルを選択します。「ALL」では、チャンネル1~16すべてが再生されます。「1&2」では、チャンネル1と2だけが再生され、3~16チャンネルはMIDI送信されます。

NOTE SONG SELECTで[USER]または[PRESET]を選んでいるときは、チャンネル1&2を設定しても1~16のすべてのチャンネルが再生されます。

F6.(CLP-370/340)/F5.(CLP-S308/S306、CLP-330)

メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。
メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F6]** (CLP-370/340)/ **[F5]** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
2. [-/NO][+/YES]ボタンで設定します。
設定範囲: 1~20
基本設定: 10

ショートカット操作

METRONOME(メトロノーム)[ON/OFF]ボタンを押したまま [TEMPO/FUNCTION(テンポ/ファンクション)]ボタンを押すと直接ファンクションモードの **[F6]** (CLP-370/340)/ **[F5]** (CLP-S308/S306、CLP-330)に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 ([TEMPO/FUNCTION]ボタンを押す→TEMPOのランプ点灯)が必要です。

F7.(CLP-370/340)/F6.(CLP-S308/S306、CLP-330)

MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての簡単なご紹介が「MIDIについて」(72ページ)にあります。ご参照ください。

ここでのMIDIに関する設定は、USB[TO HOST]端子での信号の入出力に対しても有効です。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F7]** (CLP-370/340)/ **[F6]** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
2. [+ /YES]ボタンを押して確定し、[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]ボタンで以下の小項目を選び、[-/NO] [+ /YES]ボタンで設定します。

小項目

[F7] (CLP-370/340)/ **[F6]** (CLP-S308/S306、CLP-330)

MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバからMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16、OFF(送信しない)

基本設定: 1

デュアルのときの第2音色、スプリット(CLP-370/340)のときの左側音色は

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

曲データはMIDI送信されません。ただし、ピアノプレーヤ用ソング、MUMAで購入した曲、プロテクトがかかっていない外部ソングで曲再生チャンネル選択(65ページ)を「1&2」に切り替えた場合、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

F72 (CLP-370/340)/ **F62** (CLP-S308/S306、CLP-330)

MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバが

選択範囲: ALL、1&2、1~16
基本設定: ALL

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、この楽器で受信して再生させることができます。

「1&2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、この楽器で本体で再生することができます。

この楽器でパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲モード中やファイル操作中に楽器は、MIDI受信を行いません。

F73 (CLP-370/340)/ **F63** (CLP-S308/S306、CLP-330)

ローカルコントロールオン/オフの設定

この楽器の演奏を内部の音源で鳴らすか、ならさないかを設定します。通常、楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても楽器本体からは音が出なくなりますが、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

選択範囲: ON/OFF
基本設定: ON

F74 (CLP-370/340)/ **F64** (CLP-S308/S306、CLP-330)

プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(楽器のパネルで音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

選択範囲: ON/OFF
基本設定: ON

F75 (CLP-370/340)/ **F65** (CLP-S308/S306、CLP-330)

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。たとえばこの楽器からからコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器でダンパーペダルなどを操作したときにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器からコントロールチェンジを受信すると、MIDIの演奏にコントロールチェンジの効果が付きます。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

この楽器が扱えるコントロールチェンジ情報については「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

選択範囲: ON/OFF
基本設定: ON

F7E (CLP-370/340)/ **F6E** (CLP-S308/S306、CLP-330)

セットアップデータのMIDI送信

楽器のセットアップデータを、シーケンサーなどに送信します。シーケンサーなどにこのデータを最初に録音することにより、再生時に、録音したときと同じパネル設定で再生することができます。

セットアップデータとは

現在の楽器のパネル設定状態一式のデータです。

操作

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどとMIDIケーブルで接続シーケンサー側の受信側の機器を受信できる状態にセットします。
3. ファンクションモードに入って **F7E** (CLP-370/340)/ **F6E** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。
送信が終わると、**End** が表示されます。

送信される「セットアップデータ」の内容

「MIDIデータフォーマット」(web上のデータリスト)を参照してください。パネルデータ詳細に掲載されている内容が送信されます。(データリストのアクセス方法は6ページを参照してください)

送信したデータの受信方法

データを送信した機器と楽器をMIDIケーブルで接続します。

1. データを送信した機器側で送信操作をします。
→自動的に楽器がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F77 (CLP-370/340)/ **F67** (CLP-S308/S306、CLP-330)

イニシャルセットアップ送信

MIDIケーブルで接続したシーケンサーなどにイニシャルセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

操作

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
3. ファンクションモードに入って **F77** (CLP-370/340)/ **F67** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。
送信が終わると、**End** が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- 音色
- [REVERB]^{リバーブ}の種類
- [REVERB]の深さ
- [EFFECT]^{エフェクト}の種類
- [EFFECT]の深さ
- スプリットポイント
- チューニング(音の高さの微調整)値(F1)
- 2音色の音の高さを微妙にずらす設定の値(F3.2)

F8.(CLP-370/340)/F7.(CLP-S308/S306、CLP-330)**バックアップオン/オフの設定****バックアップとは**

ご自身で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップをオンにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップをオフにしておくと、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ります。(基本設定一覧が82ページに掲載されています。)

ただし「本体内に録音された演奏データ」、「文字種の切り替え」、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は常にバックアップされます。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのオン/オフを設定します。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **[F8Y]** (CLP-370/340)/ **[F7Y]** (CLP-S308/S306、CLP-330)を選びます。
2. [+ / YES] ボタンを押して確定し、
テンポ / ファンクション
 [TEMPO / FUNCTION ▼ ▲] ボタンで以下の小項目を選び、[- / NO] [+ / YES] ボタンで設定します。

小項目

[F81] (CLP-370/340)/ **[F71]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
音色関連項目のバックアップ設定

[F82] (CLP-370/340)/ **[F72]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
MIDI関連項目のバックアップ設定

[F83] (CLP-370/340)/ **[F73]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

[F84] (CLP-370/340)/ **[F74]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
その他の項目のバックアップ設定

設定範囲：オン/オフ

基本設定：音色関連項目のバックアップ設定……オフ
 MIDI関連項目のバックアップ設定～その他の項目のバックアップ設定……オン

・各小項目の内容

[F81] (CLP-370/340)/ **[F71]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
音色関連項目のバックアップ設定

- 音色選択
- デュアルモードのオン/オフと音色
- デュアルの諸設定(**[F3*]** の設定内容)(音色の組み合わせごと)
- スプリットモードのオン/オフと音色(CLP-370/340)
- スプリットの諸設定(CLP-370/340)(**[F4*]** の設定内容)(音色の組み合わせごと)
- リバーブの種類と深さ(音色ごと)
- エフェクトの種類と深さ(音色ごと)
- パリエーションのオン/オフ(CLP-370/340)(音色ごと)
- タッチの設定(FIXED時の音量も含む)
フィックス
- メトロノームの拍子と音量(音量は、 **[F5]** (CLP-370/340)/ **[F5]** (CLP-S308/S306、CLP-330)の設定内容)

[F82] (CLP-370/340)/ **[F72]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定(**[F7*]** (CLP-370/340)/ **[F5*]** (CLP-S308/S306、CLP-330)の設定内容)
 (**[F76]**、**[F77]** (CLP-370/340)/ **[F56]**、**[F57]** (CLP-S308/S306、CLP-330))を除く

[F83] (CLP-370/340)/ **[F73]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

- トランスポーズの設定
- 音の高さの微調整(**[F1]** の設定)
- 音律(調律法)の種類と基音の設定(**[F2*]** の設定内容)

[F84] (CLP-370/340)/ **[F74]** (CLP-S308/S306、CLP-330)
その他の項目のバックアップ設定

- その他の諸設定(**[F5*]** (CLP-370/340)/ **[F4*]** (CLP-S308/S306、CLP-330)の設定)
- プリリアンスの設定
- DAMPER RES. のオン/オフと深さ

F8.5 (CLP-370/340)/F7.5 (CLP-S308/ S306、CLP-330)

文字種の切り替え

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名の文字種に問題があることがあります。ここで文字種を切り替えてみてください。

設定範囲: Int (International)/JA (Japanese)

基本設定: JA

F9. (CLP-370/340)/F8. (CLP-S308/S306)

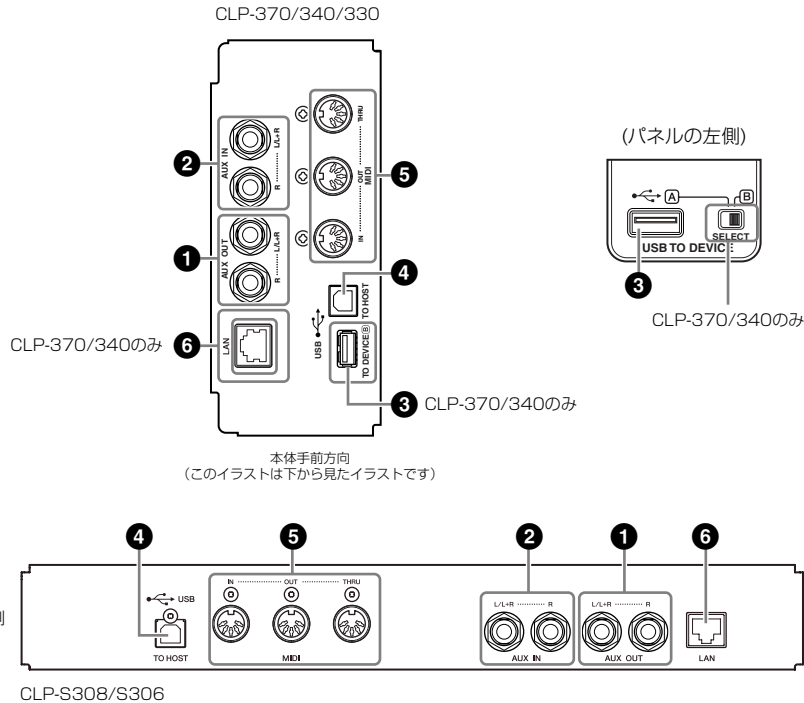
LAN設定

インターネット関連の設定は48ページ～54ページを参照してください。

他の機器と接続する

端子について

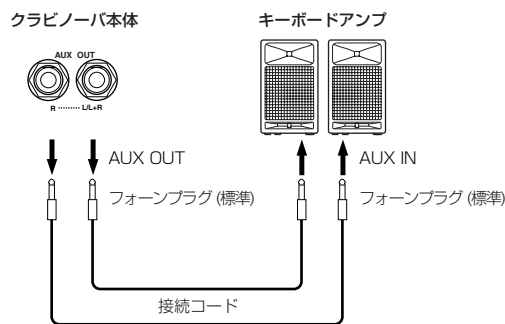
❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



1 AUX OUT [L/L+R][R]端子

クラビノーバにアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出すことができます。AUX OUT に出力される音量は、楽器本体のMASTER VOLUMEつまみ(ダイヤル)で調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、スピーカースイッチをオフ側にしてください(15ページ参照)。

❗ クラビノーバのAUX OUTを使う場合、電源を入れるときはクラビノーバ→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→クラビノーバの順に行なってください。



接続ケーブルおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX OUTから出力した音をAUX INに入力しないでください

AUX OUTに接続しているときで、スピーカーからも音を出している場合、スピーカーからの音はフラットな(スピーカー補正EQのかかっていない)音に変わります。

モノラル信号を取り出すときはAUX OUT[L/L+R]端子側を使用してください。

スピーカーやヘッドフォンから出力される音の音質は、楽器の使用状況に応じて適切な設定になるように自動的に切り替わります(以下スピーカースイッチの表参照)。

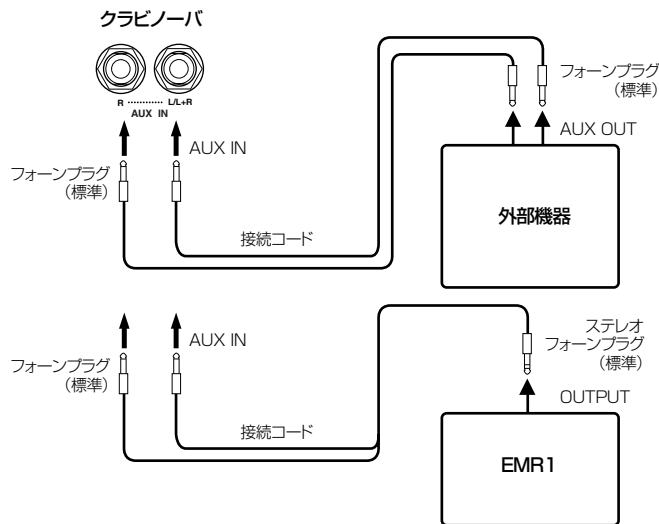
☐ スピーカーが鳴ります。
■ スピーカーは鳴りません。

	AUX OUT端子にプラグを未接続			AUX OUT端子にプラグを接続中		
	スピーカーOn	スピーカーNormal (HeadphoneSW)	スピーカーOff	スピーカーOn	スピーカーNormal (HeadphoneSW)	スピーカーOff
ヘッドフォン接続中	スピーカーに最適なイコライザー	フラット	フラット	フラット	フラット	フラット
ヘッドフォン未接続	スピーカーに最適なイコライザー	スピーカーに最適なイコライザー	フラット	フラット	フラット	フラット

② AUX IN [L/L+R][R]端子

外部機器の音をクラビノーバ本体のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

! クラビノーバのAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→クラビノーバの順に、電源を切るときは、クラビノーバ→外部機器の順に行なってください。



AUX INからの入力音にはクラビノーバ本体の[MASTER VOLUME(マスターボリューム)]は効きますが、[BRILLIANCE(ブリリアンス)]、[REVERB(リバーブ)]、[EFFECT(エフェクト)]は効きません。

モノラル信号を入力するときはAUX IN[L/L+R]をご使用ください。

③ USB [TO DEVICE]端子

USB記憶装置を接続する端子です。

詳しくは73ページの「USB記憶装置を接続する」をご覧ください。

④ USB [TO HOST]端子

コンピューターに直接接続する端子です。

詳しくは75ページの「コンピューターと接続する」をご覧ください。

⑤ MIDI [IN][OUT][THRU]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。

MIDI [IN]MIDIデータを受信する端子です。

MIDI [OUT]MIDIデータを送信する端子です。

MIDI [THRU]MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

MIDIについて

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、クラビノーバから外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターからクラビノーバをコントロールしたりすることができます。

楽器本体のUSB端子には、USB [TO HOST]端子とUSB [TO DEVICE]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(「ABタイプコネクタ―USBケーブル」のプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

MIDIでは、演奏データやコントロールデータを数値データとして送受信します。

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることとなります。共通に扱えるデータや命令は、web上のデータリスト「MIDIインプリメンテーションチャート」を参照してください。(アクセス方法は6ページを参照してください。)

⑥ [LAN]端子(CLP-370/340、CLP-S308/S306)

楽器をインターネットに直接接続できます。接続方法は45ページを参照してください。

USB記憶装置を接続する

USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブなど)を接続して、楽器本体で録音したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

使用できるUSB記憶装置

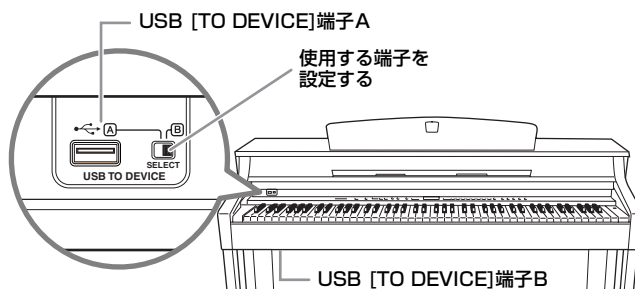
USB [TO DEVICE]^{トウデバイス}端子に接続できるUSB記憶装置は、フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブなど、1台です。その他の機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。それ以外のUSB記憶装置については、動作保証ができません。
<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/usb/>

- ⊘ USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフやUSBケーブルの抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

USB記憶装置の接続

CLP-370/340の場合は、USB [TO DEVICE]端子が2箇所(パネル左側と本体底面の端子部)にあります。また、CLP-370/340以外の楽器の場合は、パネル側だけにUSB [TO DEVICE]端子があります。



どちらも同じ端子ですが、2つの端子を同時に使用することはできません。パネル左にある[SELECT]^{セレクト}スイッチで、使用する端子を選んでください。[SELECT]スイッチを「A」に合わせると、パネル左のUSB [TO DEVICE]端子が有効になります。「B」に合わせると、端子パネルのUSB [TO DEVICE]端子が有効になります。

USB記憶装置を接続すると、[FILE]^{ファイル}ボタンの「LOAD TO USER」のランプが点滅します。この間は、楽器に記憶装置が認識されています。認識が終わるとランプが消灯します。ランプが消灯してから、USB記憶装置での操作を行ってください。

- ⊘ 保存/コピー/削除など、データのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中(USB接続後[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」ランプの点滅が消えるまで)は、[SELECT]スイッチを切り替えないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。
- ⚠ USB [TO DEVICE]端子AにUSB記憶装置を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB記憶装置を接続したままキーカバーを閉じると、記憶装置がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置でファイル操作をしたときに、未フォーマットのメディアであることを示すメッセージが表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください(38ページ)。

- ⚠ フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されますのでご注意ください。

誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようにするためライトプロテクトができるものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

CD-R/RWドライブについて
 CD-R/RWドライブを接続した場合、CD-ROMのデータ(MIDIデータ)をクラビノーバで再生/再現することはできませんが、クラビノーバのデータを保存してCD-ROMを作ることはできません。

接続できるUSB記憶装置の数

この楽器では、USB [TO DEVICE]端子に対して1台のUSB記憶装置を接続できます。USB記憶装置に複数のドライブがある場合は、1ドライブだけが認識されます。

USB記憶装置をUSB [TO DEVICE]端子AとB両方向同時に接続しないでください。USB記憶装置の動作が不安定になることがあります。

楽器本体上ではUSB 1.1に対応していますが、USB 2.0の機器を接続し使用できます。ただし転送スピードはUSB 1.1相当になりますので、ご了承ください。

USBハブは使用できません。

A/Bを切り替える場合は、USB記憶装置を楽器から抜いてから切り替えてください。

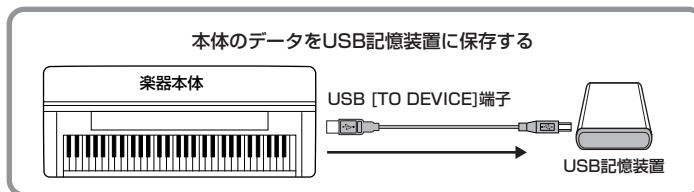
USB記憶装置からの選曲

USB記憶装置に入っている曲をクラビノーバで選ぶには、[SONG SELECT]^{ソングセレクト}ボタンを押して「USB」のランプを点灯させてから[-/NO][+/YES]ボタンで選曲します。

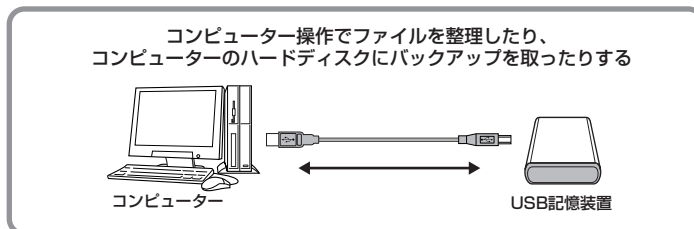
詳細は、43ページをご覧ください。

コンピューターのハードディスクにバックアップ

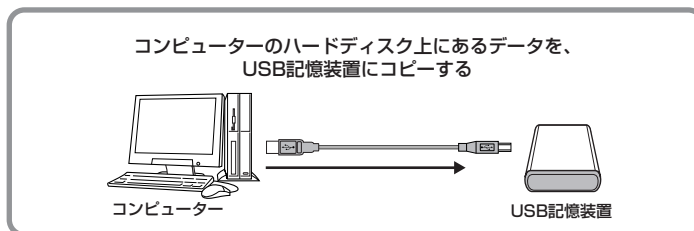
■ **楽器本体で作ったデータをコンピューターのハードディスクにバックアップする**
 楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したあと、メディアをコンピューターに読み込ませてファイルを整理したり、コンピューターのハードディスクにコピーすることでバックアップをとったりできます。



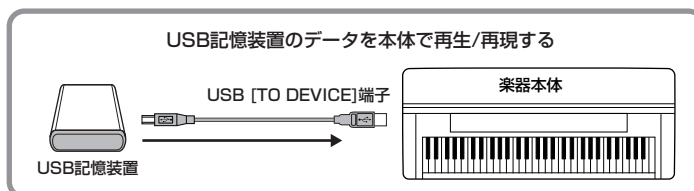
USB記憶装置を楽器本体から外し、コンピューターへ接続する



■ **コンピューター上のデータをUSB記憶装置にコピーして楽器本体で再生/再現する**
 コンピューターのハードディスクに保存してあるファイルを、USB記憶装置にコピーしたあと、それらのファイルを楽器本体で再生/再現できます。
 楽器本体で作ったファイルだけでなく、楽器本体以外で作られたスタンダードMIDIファイルなどを、コンピューターのハードディスクからUSB記憶装置にコピーし、それらを楽器本体のUSB [TO DEVICE]端子に接続して、楽器本体で再生/再現することもできます。



USB記憶装置をコンピューターから外し、楽器本体へ接続する

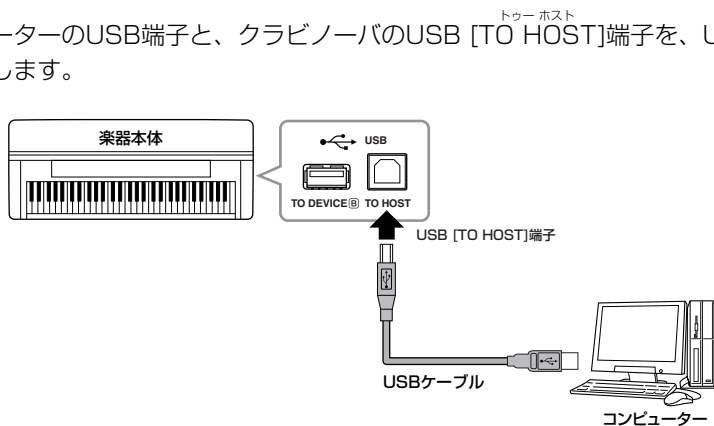


コンピューターと接続する

コンピューターとクラビノーバを「ABタイプコネクターUSBケーブル」で接続して、コンピューターとデータをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。コンピューターとデータをやりとりするには、付属のCD-ROMに入っているドライバーとをコンピューターにインストールしてください。次にweb上にあるミュージックソフトダウンローダーをダウンロードしてください。詳細は「アクセサリ CD-ROMインストールガイド」を参照してください。

- ❗ コンピューターと接続する場合は、最初にクラビノーバの電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、そのあとクラビノーバの電源を入れてください。
- ❗ クラビノーバとコンピューターをつないで使用しない場合は、必ずUSB端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、クラビノーバが正常に動作しないことがあります。

コンピューターのUSB端子と、クラビノーバのUSB [TO HOST]端子を、USBケーブルで接続します。



ドライバーとは

ドライバーとは、コンピューターとそこに接続された機器との、データをやりとりするための仕組みを整えるソフトウェアのことです。コンピューターと楽器をUSBケーブルで接続する場合は、コンピューターにUSB-MIDIドライバーをインストールします。USB-MIDIドライバーは、付属のCD-ROMからインストールできます。

- 楽器がコンピューターとUSB接続されているときは、MIDI端子は使用できません。
- 楽器本体はUSB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器本体とパソコンをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せずに直接接続してください。
- 使用するパソコンやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

USB [TO HOST]端子ご使用時の注意

USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、電源を入れ直し、コンピューターを再起動してください。

- ❗
 - USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
 - 本体の電源を入れる前に、USB [TO HOST]端子とコンピューターを接続してください。
 - 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
 - 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する

この楽器にはデモソングやピアノ50曲を内蔵していますが、そのほかにコンピューターからソングデータを読み込んで演奏することもできます。この操作をするためには、web上にあるミュージックソフトダウンローダーをダウンロードしてください。詳細は「アクセサリー CD-ROMインストールガイド」を参照してください。

● ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステム

- ・ OS: Windows® 2000/XP Home Edition/XP Professional(64ビットは除く) / Vista(64ビットは除く)
- ・ CPU: 233MHz 以上のIntel® Pentium®およびCeleron®ファミリー
- ・ メモリー: 64MB以上(256MB以上推奨)
- ・ ハードディスク: 128MB 以上の空き領域(512MB 以上推奨)
- ・ ディスプレイ: 800 × 600 HighColor(16-bit)
- ・ その他: Microsoft® Internet Explorer®5.5 以上がインストールされていること

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む

主に、ピアノだけのソングを読み込んだり、この楽器で録音してコンピューターに保存した曲をもう一度楽器に読み込むのに使用します。

SMF Format 0のMIDIデータはこの楽器に読み込めますが、そのデータがこの楽器にない機能を使用している場合は、データどおりに再生できません。

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● コンピューターから楽器に読み込める内容

- ・ ソング : 外部ソング、ユーザーソング(楽器から読み込んだソング)
- ・ データ量 : 合計で748KB(キロバイト)
- ・ データフォーマット: SMF Format 0
- ・ バックアップデータ: 楽器から読みこんだデータ
ファイル名
08CLP-M.BUP (CLP-370/340)
08CLP-ML.BUP (CLP-330)
08CLP-S.BUP (CLP-S308/S306)

楽器からソングデータをコンピューターに送信する

ミュージックソフトダウンローダーを使って、楽器内のユーザーソングをコンピューターに送信できます。

ユーザーファイルをコンピューターに送信する方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● 楽器からコンピューターへ送信できる内容

- ・ ユーザーソング、外部ソング(コンピューターから読み込んだソング)
- ・ バックアップデータ(パネル設定)

ミュージックソフトダウンローダーのソフトウェアは、無料でダウンロードできます。

SMF(スタンダードMIDIファイル) 代表的なシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)の一つです。「MIDIファイル」と呼ばれることもあります。ファイルの拡張子は.MIDです。

SMFフォーマットでセーブされた曲(ソング)データは、SMF対応の音楽ソフトやシーケンサーで手軽に再生できます。

この楽器もSMFに対応しています。



データ送信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。送信中のデータが保存されないだけでなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入/切時にすべて消える可能性があります。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

データのバックアップ

本体に保存したデータの万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターにバックアップとして保存することをおすすめします。コンピューターへの保存は、付属のCD-ROM (Windows専用)でご案内しているweb上のソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」をダウンロードして使用します。

バックアップ対象となるデータ

●パネル設定、ユーザーソング、インターネット設定

パネル設定とは、69ページの「バックアップオン/オフの設定」でバックアップをオンにしたときバックアップされる項目のことです。パネル設定、ユーザーソング、インターネット設定をまとめてひとつのファイルとして保存します。

●コンピューターから楽器に保存した曲

web上のソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使用して、コンピューターから楽器に保存した曲です。

1. 付属のCD-ROMを使用して、USB-MIDIドライバーとミュージックソフトダウンローダーをコンピューターにインストールします。

そのあと、楽器とコンピューターを接続します。

ソフトウェアのインストールについては、付属のインストールガイドをご参照ください。楽器とコンピューターとの接続については、75ページをご参照ください。

2. ミュージックソフトダウンローダーを使って、下記の操作をします。

- ・ **パネル設定とユーザーソングをコンピューターに移動する**
「電子楽器」→「System Drive」の中にある「CLP-xxx.BUP」をコンピューターに移動します。
- ・ **コンピューターから楽器に保存した曲をもう一度コンピューターに移動する**
「電子楽器」→「Flash Memory」の中にある曲データをコンピューターに移動します。

ミュージックソフトダウンローダーの操作について詳しくは、ミュージックソフトダウンローダーのヘルプをご参照ください。

楽器のパネル設定を元に戻すときは、コンピューターに移動したファイルを「電子楽器」の中のそれぞれのフォルダーに戻します。



左記のバックアップファイルは、USB記憶装置には保存できません

楽器とコンピューターを接続してミュージックソフトダウンローダーを使っているときは、楽器の画面に「con (computer connection)」が表示されます。この表示が出ている間は、楽器の操作ができません。

楽器が以下の状態のときは、ミュージックソフトダウンローダーとの接続ができません。

- ・ デモモードに入っているとき
- ・ 曲再生中
- ・ 録音中
- ・ ファイル操作中

メッセージ一覧

表示	表示内容
CLr	楽器を基本設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。  「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。「CLr」が表示されているときに電源を切ると、外部ソング(42ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。
con	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに表示されます。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
E01	USB記憶装置が壊れているので、記憶装置にアクセスできません。
E02	曲データが壊れています。
E04	ファイルが大きすぎてロードできません。
End	処理が終わりました。
Err	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しているときに、MIDI/USBケーブルを抜くと表示されます。
FCL	処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。ご自身で録音した曲、コンピューターから取り込んだ曲やパネルの設定などが消去されています。  「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。
For	USB記憶装置のフォーマットモードに入っています。
FUL	(曲の録音中に)楽器本体のメモリー容量がいっぱいになりました。
	USB記憶装置のメモリー容量がいっぱいで、曲を保存できません。
	ファイルやフォルダーの数が制限を超えました。
Lod	プロテクトがかかった曲をロードしています。
n y	操作を実行しますか？
n-y	データの上書きや削除、またはUSB記憶装置のフォーマットを実行しますか？
Pro	USB記憶装置にプロテクトがかかっています。

「Err」が表示されている状態から元の状態に戻すには[-/NO]ボタン、または[+/YES]ボタンを押します。
 インターネットダイレクト接続機能のエラーメッセージ(エラーコード)に関しては、インターネット上のウェブページ
<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/idc/clp/>でご確認ください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
クラビノーバの電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14ページ)。
^{パワー} [POWER]スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	クラビノーバの近くでは、携帯電話の電源を切ってください。クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME] ^{マスター ボリューム} スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]スライダーを上げてください(15ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜くか、[SPEAKER]スイッチをオンにしてください(15ページ)。
	[SPEAKER] ^{スピーカー} スイッチがオフになっています。	[SPEAKER]スイッチをNORMALまたはオンにしてください(15ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(58ページ)。
ヘッドフォンを差してもスピーカーからの音が切れない。	[SPEAKER]スイッチがオンになっています。	[SPEAKER]スイッチをNORMALにしてください(15ページ)。
ダンパーペダルが効かない。	ペダル ^{ペダル} コードのプラグが[PEDAL]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください(86、89ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
スピーカーまたはヘッドフォンの音質や音量感が変わった。	AUX OUT 端子にプラグが差し込まれている。	AUX OUT端子からプラグを抜いてください。(71ページ)
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	クラビノーバの鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。
曲データが入ったUSB記憶装置を接続しても、 ^{ソングセレクト} [SONG SELECT]ボタンで「USB」を選ぶことができない。	USB記憶装置が楽器に認識されていません。	1. [SELECT]スイッチが適切に設定されているか確認します。CLP-370/340の場合、USB [TO DEVICE]端子には2つありますが、USB記憶装置を同時に2つ使用することはできません。パネル左にある[SELECT]スイッチで、使用する端子を選んでください。[SELECT]スイッチを「A」に合わせると、パネル左のUSB [TO DEVICE]端子が有効になります。「B」に合わせると、本体底面にある端子パネルのUSB [TO DEVICE]端子が有効になります。 2. USB記憶装置が壊れていないか確認します。USB記憶装置を楽器本体に接続したときに[FILE]ボタンの「LOAD TO USER」のランプが点滅するか確認します。ランプが点滅しなければ、その記憶装置は壊れている可能性があります。 3. USB記憶装置が動作確認済みであることを確認します(73ページ)。 4. 再度[SONG SELECT]ボタンで「USB」を選びます。USB記憶装置が楽器に認識されるまでに、時間がかかることがあります。もう一度、[SONG SELECT]ボタンで「USB」を選んでみてください。
USB記憶装置がフリーズする、または動作しない。	動作確認されていないUSB記憶装置です。	以下URLで、使用できるUSB装置であるかを確認してください。 http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/usb/
	USB記憶装置の動作が不安定になっています。	USB記憶装置をいったん外して電源を入れ直し、それからUSB記憶装置を接続し直してください。
USB記憶装置を楽器に差し込んだとき[FILE]ボタンの3つのランプ「SAVE TO USB」、"LOAD TO USER"、"DEL/FORMAT"が点滅する。	USB記憶装置を抜いて楽器の電源を一度切ってください。	そのUSB記憶装置はこの楽器では使用できません。
USB記憶装置を使用中[FILE]ボタンの3つのランプ「SAVE TO USB」、"LOAD TO USER"、"DEL/FORMAT"が約5秒間点滅した。	通信エラーです。	USB記憶装置を挿し直してもう一度操作してください。
USB記憶装置の操作中にディスプレイが何も表示しなくなった。	通信エラーです。	[-/NO]または[+/YES]ボタンを押してもう一度操作してみてください。

音色一覧

(CLP-370/340)

	ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング *1	キーオフ サンプリング *2	音色のご紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	○	○	○	○	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。4段階のダイナミックサンプリング(*1)、ダンパーペダル使用時の音色変化、鍵盤を離れたときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
VARIATION (バリエーション)	○	○	○	○	暖かみのあるメロウなピアノの音です。クラシック音楽に最適です。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
VARIATION (バリエーション)	○	○	—	—	広がりのある明るいピアノの音です。ポピュラー、ロックなどの音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	—	○	○	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	ポピュラー音楽でよく耳にするシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	—	○	○	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
VARIATION (バリエーション)	—	○	○	—	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
HARPSICHORD (ハープシコード)	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
VARIATION (バリエーション)	○	—	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
E.CLAVICHORD (エレクトリッククラビコード)	—	○	—	○	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	○	個性的なエフェクトをプリセットしています。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
VARIATION (バリエーション)	○	○	—	—	ステレオサンプリングによる広がり感と臨場感あるマリンバの音です。
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
VARIATION (バリエーション)	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽で良く用いられます。
VARIATION (バリエーション)	—	—	—	—	エフェクトである回転スピーカー効果のスピードが異なり、バリエーションの方が速い効果の音です。また、押鍵中にバリエーション切り替えすると徐々にスピードが変化するしくみになっています。
STRINGS (ストリングス)	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがある大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
VARIATION (バリエーション)	○	○	—	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	—	○	—	—	空間に広がる心とむ合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	立ち上がりの緩やかな合唱の音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
GUITAR (ギター)	○	○	○	—	暖かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	明るく華やかな感じのするスチールギターの音です。ポピュラー音楽に最適です。
WOOD BASS (ウッドベース)	—	○	○	—	アンプライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
VARIATION (バリエーション)	—	○	○	—	シンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
E.BASS (エレクトリックベース)	—	○	—	—	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
VARIATION (バリエーション)	—	○	—	—	フレッドレスベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。

*1: ダイナミックサンプリングとは

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

*2: キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

(CLP-330、CLP-S308/S306)

	ステレオ サンプリング	タッチ による 音の強弱	ダイナミック サンプリング *1	キーオフ サンプリング *2	音色のご紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ 1)	○	○	○	—	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。3段階のダイナミックサンプリング(*1)で音造りをしており、クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	○	○	—	—	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	—	○	○	—	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	—	○	○	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD 1 (ハープシコード 1)	○	—	—	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
HARPSICHORD 2 (ハープシコード 2)	○	—	—	○	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	○	—	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
CHURCH ORGAN 1 (チャーチオルガン1)	○	—	—	—	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
CHURCH ORGAN 2 (チャーチオルガン2)	○	—	—	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	—	—	—	—	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
STRINGS 1 (ストリングス 1)	○	○	—	—	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
STRINGS 2 (ストリングス 2)	○	○	—	—	立ち上がりの緩やかな広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	—	○	—	—	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
GUUITAR (ギター)	○	○	○	—	暖かみのあるナチュラルなナイロンギターの音です。静かな曲で雰囲気を楽しんでください。

***1: ダイナミックサンプリングとは**

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。より生楽器らしいダイナミックな表現を実現します。

***2: キーオフサンプリングとは**

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

デモ曲一覧

音色	CLP-370/ 340	CLP-330、 CLP-S308/ S306	曲名	作曲家
GRAND PIANO1 (グランドピアノ1)	○	○	抒情小品集 第4集 アルバムの綴り op.47-2	E. H. グリーグ
HARPSICHORD (ハープシコード)	○	—	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ
HARPSICHORD1 (ハープシコード1)	—	○		
HARPSICHORD2 (ハープシコード2)	—	○	フランス組曲 第5番ジグ BWV.816	
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	○	—	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主キリスト」 BWV.601	
CHURCH ORGAN1 (チャーチオルガン1)	—	○		
CHURCH ORGAN2 (チャーチオルガン2)	—	○	トリオ ソナタ 第6番 BWV.530	

上記デモ曲は、原曲から編曲/抜粋されています。

上記以外の曲は、オリジナル曲です。(©2008 Yamaha Corporation)

ピアノ音色説明デモ一覧(CLP-370/340)

音色ボタン	ピアノ音色説明デモ
GRAND PIANO1 (グランドピアノ1)	ステレオサンプリング
GRAND PIANO2 (グランドピアノ2)	モノサンプリング
E.PIANO1 (エレクトリックピアノ1)	サステインサンプリングあり
E.PIANO2 (エレクトリックピアノ2)	サステインサンプリングなし
HARPSICHORD (ハープシコード)	キーオフサンプリングあり
E.CLAVICHORD (エレクトリッククラヴィコード)	キーオフサンプリングなし

基本設定一覧

基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)を一覧にしました。

項目	基本設定値	バックアップグループ	
		CLP-370/ 340	CLP-330、 CLP-S308/ S306
音色選択	GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	F8.1	F7.1
バリエーション(CLP-370/340)	オフ		—
デュアル機能	オフ		F7.1
スプリット機能(CLP-370/340)	オフ		—
スプリット左側音色(CLP-370/340)	WOOD BASS (ウッドベース)		—
ブリリアンスの種類	NORMAL (ノーマル)	F8.4	F7.4
リバーブの種類	音色ごとに最適な設定値	F8.1	F7.1
リバーブの深さ	音色ごとに最適な設定値		
エフェクトの種類	音色ごとに最適な設定値		
エフェクトの深さ	音色ごとに最適な設定値		
タッチの種類	MEDIUM (ミディアム)		
タッチがFIXED (フィクスト)のときの音量	64	F8.4	—
DAMPER RES.	オン		
DAMPER RES. の深さ	6		
メトロノーム	オフ	—	—
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	—	—
テンポ	120	—	—
トランスポーズ	0	F8.3	F7.3

「—」の項目はバックアップはありません。

ファンクションの基本設定

CLP-370/ 340	CLP-330、 CLP-S308/ S306	項目	基本設定値	バックアップグループ	
				CLP-370/ 340	CLP-330、 CLP-S308/ S306
F1.	F1.	音の高さ	A3=440Hz	F8.3	F7.3
F2.1	F2.1	音律	1(平均律)		
F2.2	F2.2	基音	C		
F3.1	F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F8.1	F7.1
F3.2	F3.2	デュアル 音の高さのずらし方の設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値		
F3.3、F3.4	F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値		
F3.5、F3.6	F3.5、F3.6	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごとに最適な設定値		
F4.1	—	スプリット ポイント	F#2		
F4.2	—	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごとに最適な設定値		
F4.3、F4.4	—	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごとに最適な設定値	F8.4	F7.4
F4.5、F4.6	—	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごとに最適な設定値		
F4.7	—	スプリット ダンパーペダルの有効域	ALL (オール)		
F5.1	F4.1	左ペダル機能	1 (ソフトペダル)		
F5.2	F4.2	ソフトペダルの効果の深さ	3		
F5.3	—	共鳴効果の深さ	12	F8.1	F7.1
F5.4	—	キーオフ音の音量	10		
F5.5	F4.3	曲再生チャンネル選択	ALL	F8.2	F7.2
F6.	F5.	メトロノーム音量	10		
F7.1	F6.1	MIDI送信チャンネル	1		
F7.2	F6.2	MIDI受信チャンネル	ALL		
F7.3	F6.3	ローカルコントロール	オン		
F7.4	F6.4	プログラムチェンジ送受信	オン	*	*
F7.5	F6.5	コントロールチェンジ送受信	オン		
F8	F7	バックアップの設定	音色関連項目の設定のみオフ、その他の設定はオン	*	*
F8.5	F7.5	文字種の切り替え	JA		

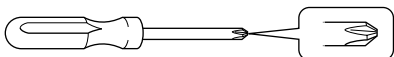
「*」の項目は常にバックアップされます。

CLP-370の組み立て方

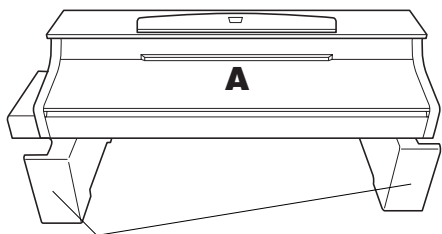
注意

- ❗ 平らな場所で組み立ててください。
- ❗ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❗ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ⊘ ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ❗ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ❗ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

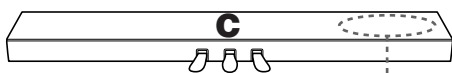
ネジ山のサイズにあったプラス(+)⁺のドライバーを用意してください。



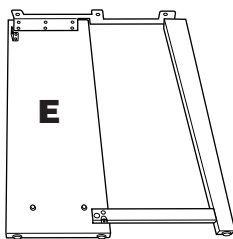
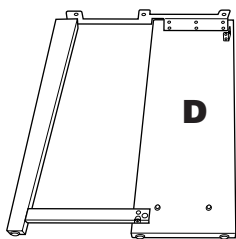
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面のスピーカーボックスを避けて配置する。



裏側にペダルコードが束ねてあります。



ネジセット

長いネジ(6×25mm)：4本



先のとがったネジ(4×20mm)：4本



短いネジ(6×16mm)：6本



コードホルダー：2個



細いネジ(4×12mm)：2本



ヘッドフォンハンガーセット

細いネジ(4×10mm)：2本



ヘッドフォンハンガー

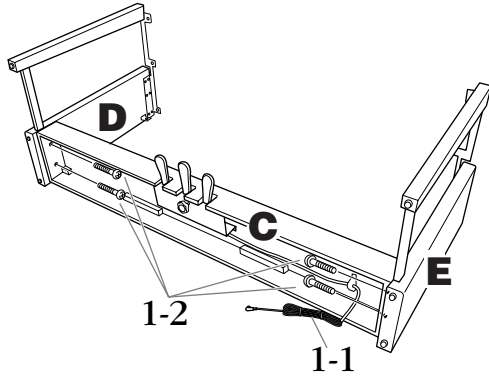


電源コード



1. DとEをCに固定する

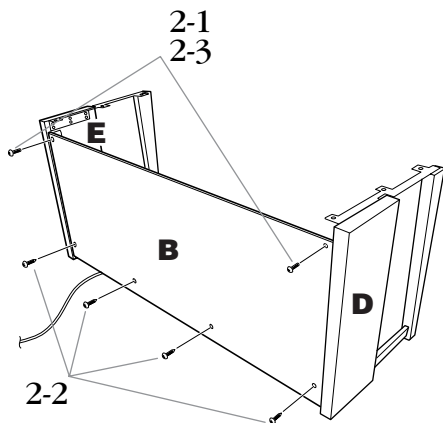
- 1-1 ペダルコードをほどく。
外したビニールひもは、手順5で使用する。
- 1-2 長いネジ(6×25mm)4本できつく締め固定する。



2. Bを固定する

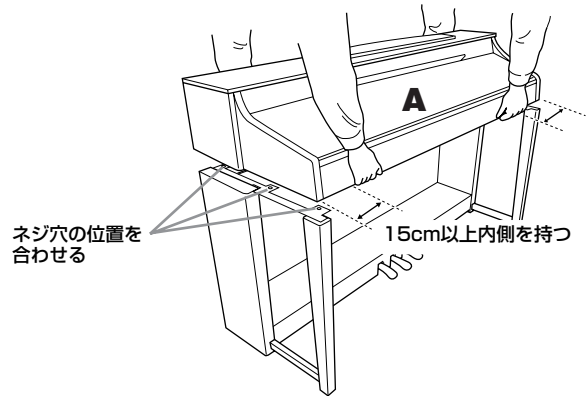
モデルによって、Bの裏表の色が違うものがあります。演奏者側から見てB、D、Eの色が同じになるように取り付けてください。

- 2-1 Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を、細いネジ(4×12mm)2本で仮留めする。
- 2-2 下側を先のとがったネジ(4×20mm)4本で締め固定する。
- 2-3 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直す。



3. Aを載せる

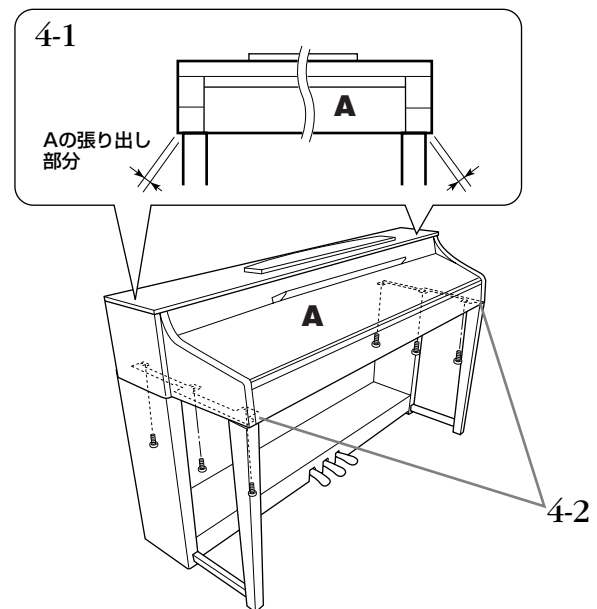
本体を持つときは底面端から15cm以上内側の位置と、背面の取っ手を持ってください。



- ⚠ 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- ⊘ 指定した位置以外を持たないでください。

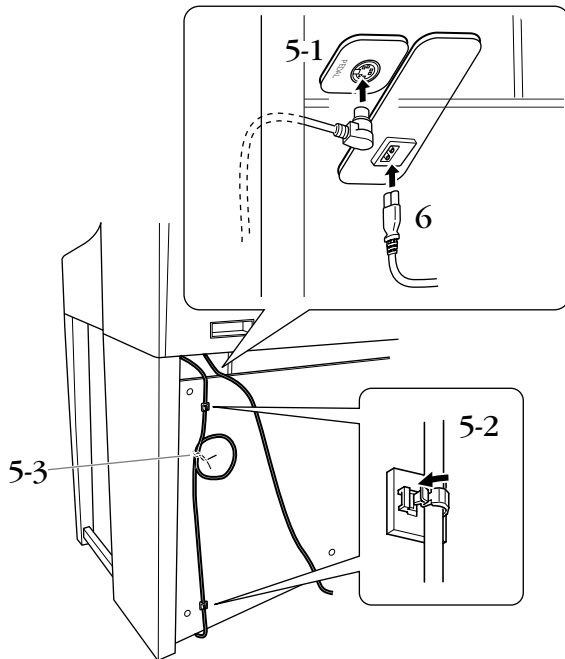
4. Aを固定する

- 4-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。
- 4-2 前面から、短いネジ(6×16mm)6本で固定する。



5. ペダルコードを接続する

- 5-1 ペダルコードのプラグを背面から前面に出し、ペダル端子に差し込む。
- 5-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。
- 5-3 ペダルコードをビニールひもで束ねる。

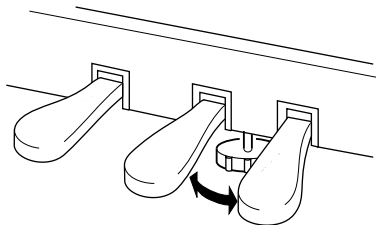


6. 電源コードを接続する

電源コードのプラグを背面から前面に出して差し込む。

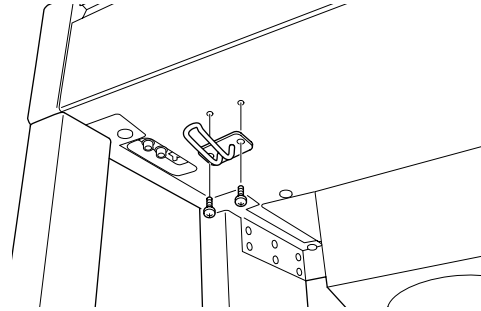
7. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



8. ヘッドフォンハンガーを固定する

細いネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付けます。

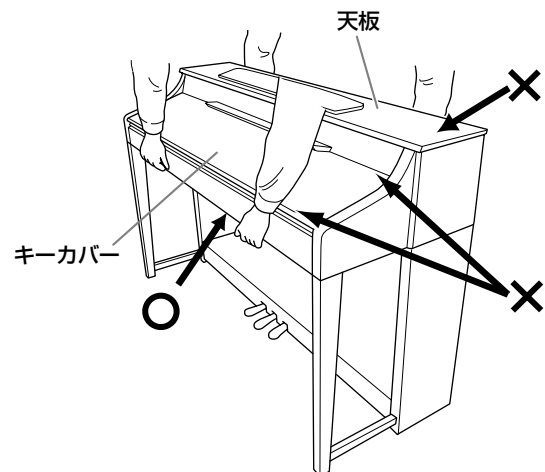


組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

❗ 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面端から15cm以上内側の位置と背面の取っ手を持ってください。

⊘ 天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

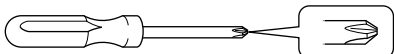


CLP-340/330の組み立て方

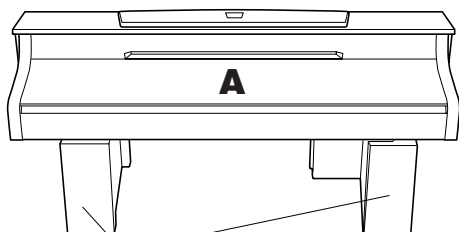
注意

- ❗ 平らな場所で組み立ててください。
- ❗ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❗ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ⊘ ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ❗ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ❗ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

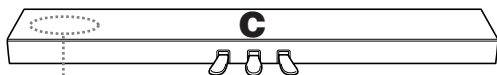
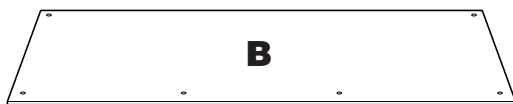
ネジ山のサイズにあったプラス(+)のドライバーを用意してください。



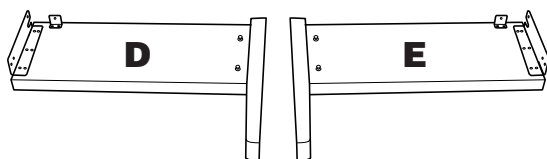
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面のコネクターを避けて配置する。



裏側にペダルコードが束ねてあります。



ネジセット

長いネジ(6×25mm): 4本



先のとがったネジ
(4×20mm): 4本



短いネジ(6×16mm): 4本



コードホルダー: 2個



細いネジ(4×12mm): 2本



ヘッドフォンハンガーセット

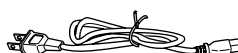
細いネジ(4×10mm): 2本



ヘッドフォンハンガー

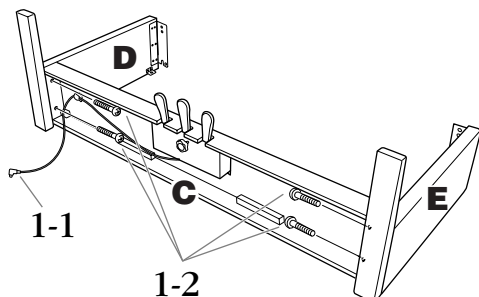


電源コード



1. DとEをCに固定する

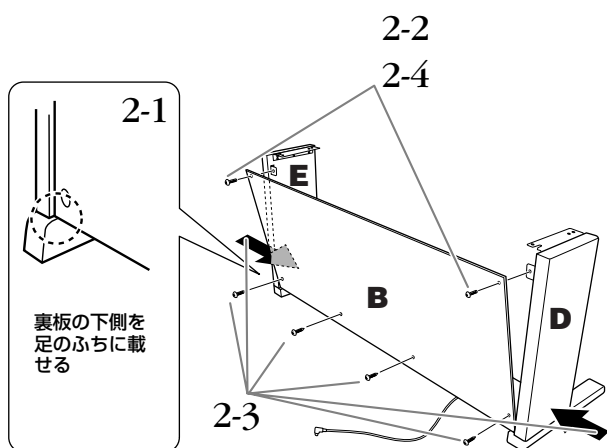
- 1-1 ペダルコードをほどく。
外したビニールひもは、手順5で使用する。
- 1-2 長いネジ(6×25mm)4本できつく締め固定する。



2. Bを固定する

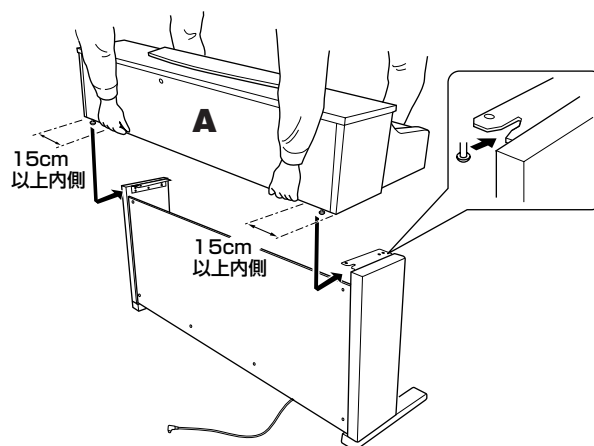
モデルによって、Bの裏表の色が違うものがあります。演奏者側から見てB、D、Eの色が同じになるように取り付けてください。

- 2-1 Bの下側をD、Eの足に載せて、上側のネジ穴の位置が合うようにBをはめる。
- 2-2 上側を、細いネジ(4×12mm)2本で仮留めする。
- 2-3 DとEの下部を左右から押しながら、下側を先のがかったネジ(4×20mm)4本で締め固定する。
- 2-4 仮留めした上側のネジ(手順2-2)をきつく締め直す。



3. Aを載せる

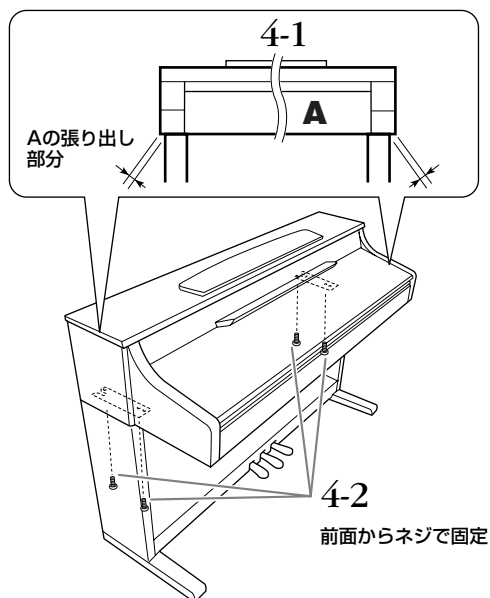
本体を持つときは底面端から15cm以上内側を持ってください。



- ⚠ 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- ⊘ 指定した位置以外を持たないでください。

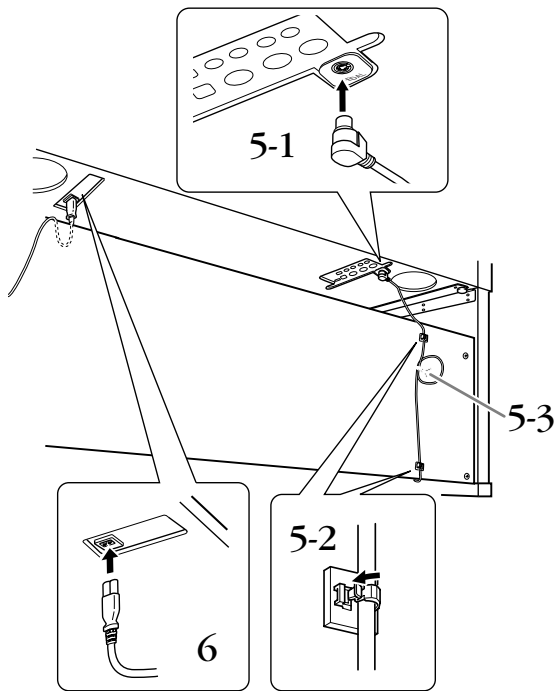
4. Aを固定する

- 4-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。
- 4-2 前面から、短いネジ(6×16mm)4本で固定する。



5. ペダルコードを接続する

- 5-1 ペダルコードのプラグを背面から前面に出し、ペダル端子に差し込む。
- 5-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。
- 5-3 ペダルコードをビニールひもで束ねる。

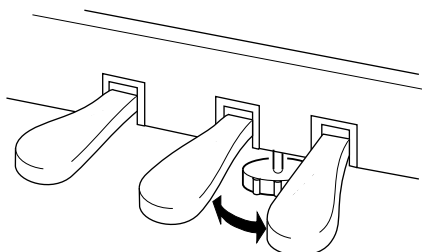


6. 電源コードを接続する

電源コードのプラグを背面から前面に出して差し込む。

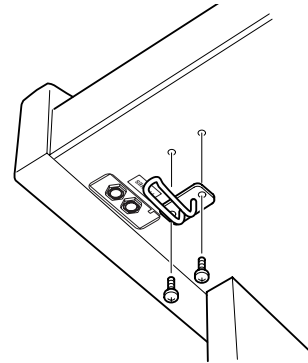
7. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



8. ヘッドホンハンガーを固定する

細いネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付けます。

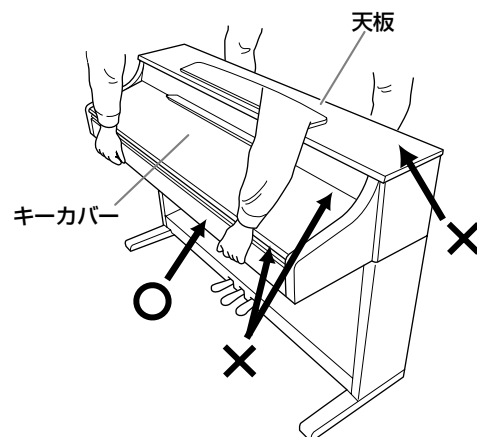


組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがグラグラしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

❗ 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。

⊘ 天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

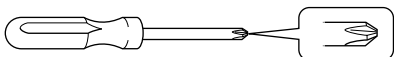


CLP-S308/S306の組み立て方

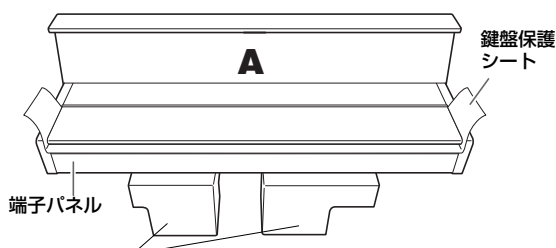
注意

- ❗ 平らな場所で組み立ててください。
- ❗ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❗ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ⊘ ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ❗ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ❗ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジ山のサイズにあったプラス(+)のドライバーを用意してください。



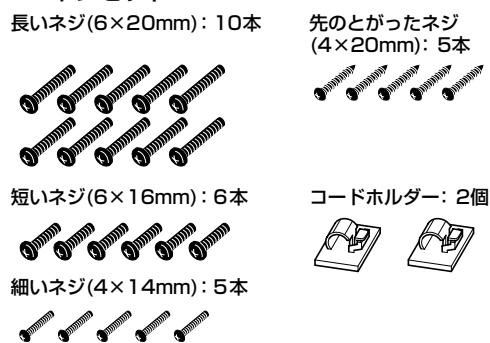
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



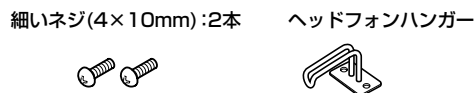
スチロールパッド
スチロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
スチロールパッドはA底面のコネクタを避けて配置する。

- ❗ 鍵盤保護シートは移動の際必要となりますので保管してください。本体移動時は、傷防止のため、鍵盤保護シートで鍵盤全体を覆ってから蓋を閉じてください。

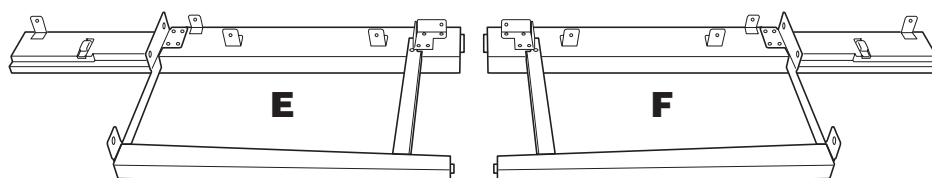
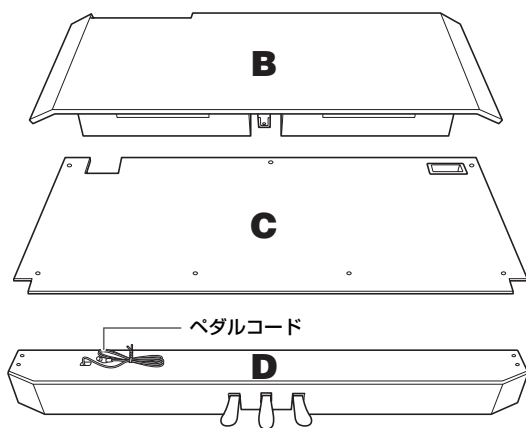
ネジセット



ヘッドフォンハンガーセット

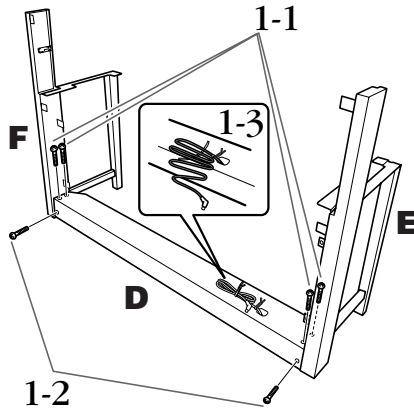


電源コード



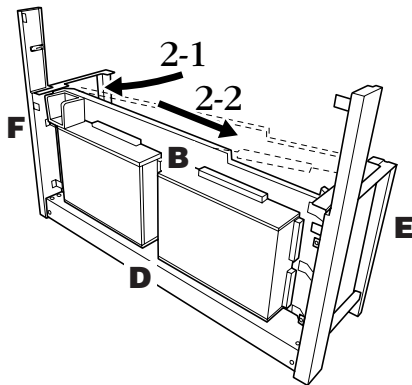
1. EとFをDに固定する

- 1-1 長いネジ(6×20mm)4本で固定する。
- 1-2 背面を長いネジ(6×20mm)2本で固定する。
- 1-3 ペダルコードを束ねているビニールひもをほどく。穴のところで留めてあるひもはほどかない。

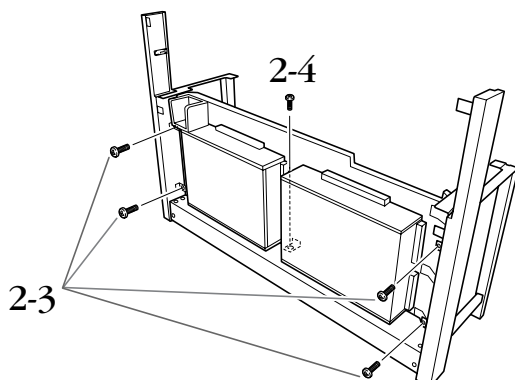


2. Bを仮留めする

- 2-1 Bを図のようにEとFのあいだに入れる。
- 2-2 BをF/D/Eの前側に合わせてはめ込む。

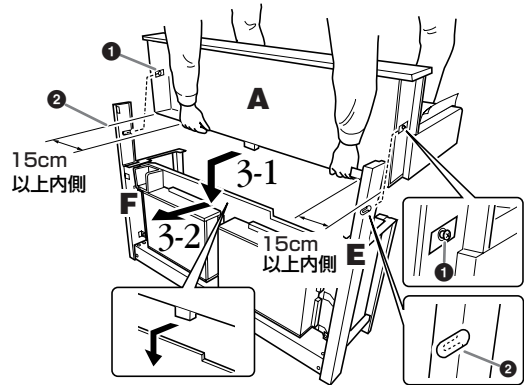


- 2-3 長いネジ(6×20mm)4本で仮留めする。金具内の大きい方の穴にネジを差し込み仮留めする。(4か所とも)
- 2-4 細いネジ(4×14mm)1本で固定する。金具内の小さい方の穴にネジを差し込み固定する。



3. Aを載せる

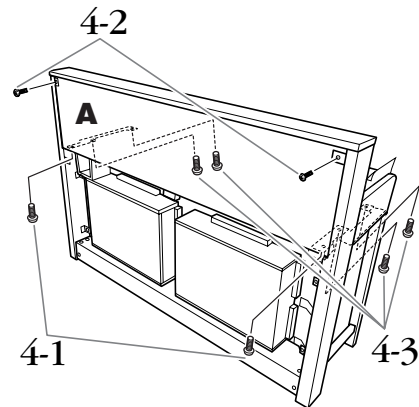
- 3-1 A底面の端から15cm以上内側を持つてのせる。
- 3-2 A背面の下にある留め木が前板より後ろになる位置にAを置き、EとFを中央側に軽く押しながらAを後ろにスライドさせる。このとき、A側面にある2ヶ所のガイドピン①がそれぞれEとFのガイド②に入るようにします。



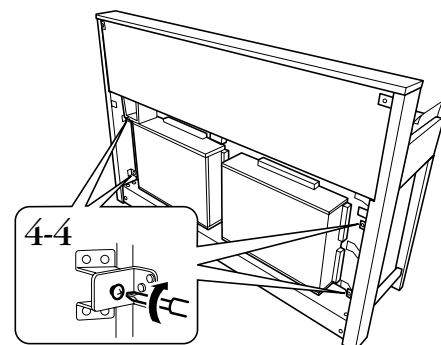
- ❗ 指をはさんだり、Aを落としたりしないよう十分ご注意ください。
- ⊘ 指定した位置以外を持たないでください。

4. Aを固定する

- 4-1 背面から、短いネジ(6×16mm)2本で固定する。
- 4-2 背面から、細いネジ(4×14mm)2本で固定する。
- 4-3 前面から、短いネジ(6×16mm)4本で固定する。



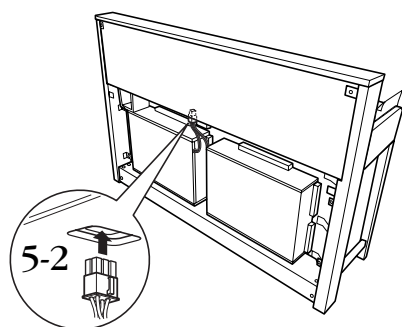
- 4-4 Bを仮留めしたネジをきつく締め直す。



5. スピーカーコードを接続する

5-1 スピーカーコードをほどく。

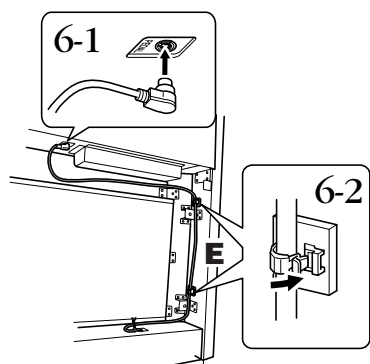
5-2 スピーカーコードのプラグを、背面から見てつめが右にくる向きで、端子に差し込む。



6. ペダルコードを接続する

6-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。

6-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。このとき、プラグとコードホルダーの間でペダルコードが大きくなるまないように注意する。

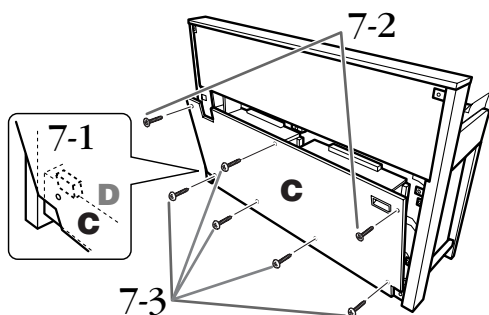


7. Cを固定する

7-1 Cの下側にある留め木をDにのせてから、上側にはめる。

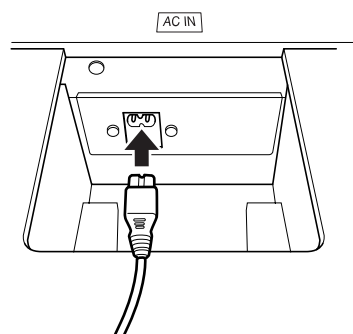
7-2 上側の左右を、細いネジ(4×14mm)2本で固定する。

7-3 上側の中央と下側を、先のとがったネジ(4×20mm)5本で固定する。



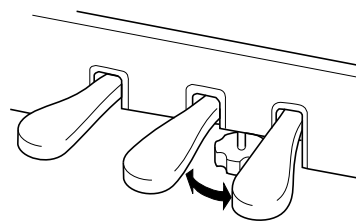
8. 電源コードを接続する

本体背面の[AC IN]端子に、電源コードを差し込む。



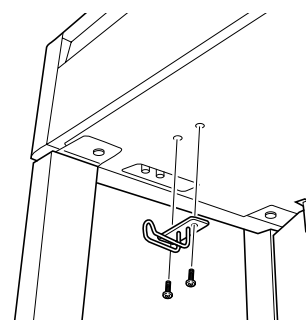
9. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



10. ヘッドフォンハンガーを固定する

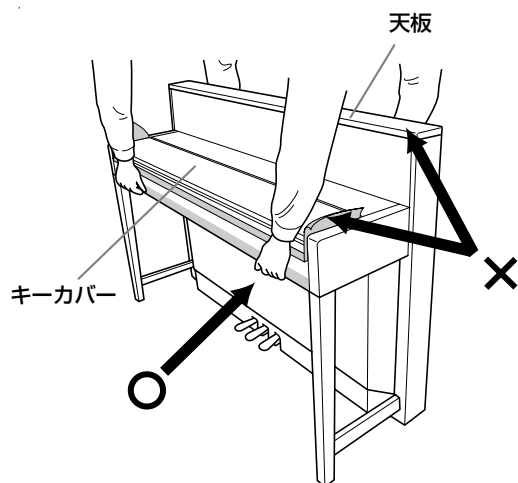
細いネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付ける。



組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがグラグラしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

- ❗ 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
- ⊘ 天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 傷防止のため、本体移動時は鍵盤保護シート(90ページ)で鍵盤全体を覆ってから蓋を閉じてください。鍵盤保護シートは、移動の際必要となりますので保管してください。

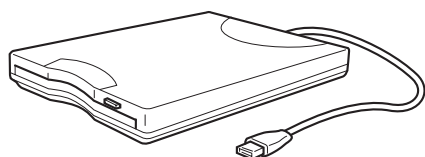


別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-160



USB-FDDユニット UD-FD01

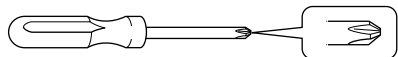


フロッピーディスクを使うと、楽器本体で録音したデータをディスクに保存したり、ディスク内のデータを本体に読み込んだりできます。

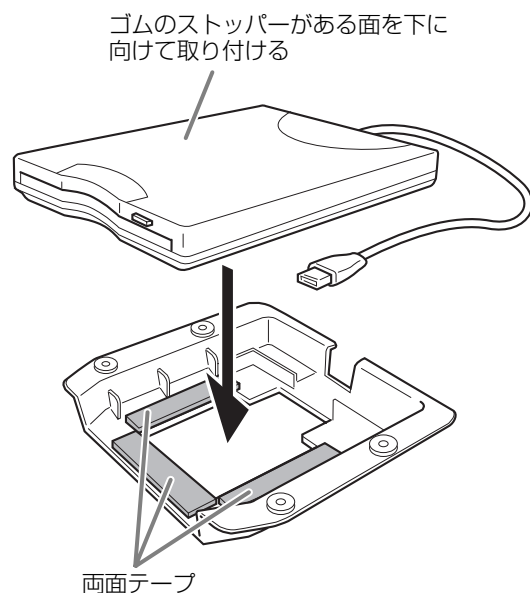
フロッピーディスクドライブ(別売)の 取り付け方(CLP-370/340)

別売のフロッピーディスクドライブUD-FD01を楽器本体底面に取り付けることができます。
CLP-330、CLP-S308/S306の場合、楽器本体に取り付けできませんので、楽器の上においてご使用ください。
パネルのキーカバーを閉じるときはUSBケーブルを引っ掛けないよう、ケーブルをはずしてから閉じてください。

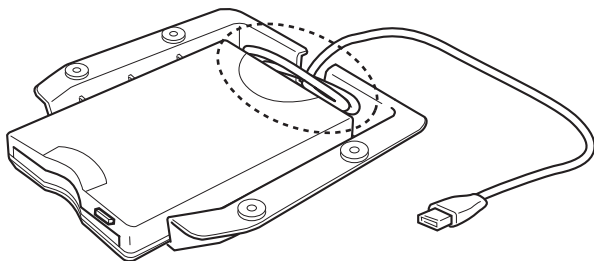
ネジ山のサイズにあったプラス(+)
ドライバーを用意してください。



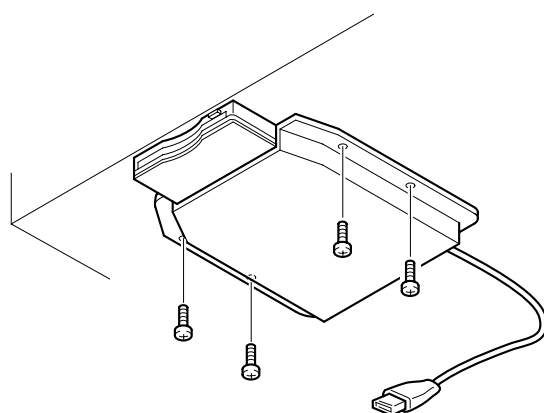
1. ケースの3か所の両面テープから、はくり紙をはがし、フロッピーディスクドライブをケースに取り付けます。



2. USBケーブルを、ケースに収まるように折りたたみます。



3. 付属のネジ(4×10mm)4本で、本体底面の左側にフロッピーディスクドライブケースを固定します。



4. USBケーブルをUSB [TO DEVICE]端子に接続します。

CLP-370/340/330、CLP-S308/ S306仕様

		CLP-370	CLP-340	CLP-330	CLP-S308	CLP-S306
寸法 / 質量	間口	1408 mm			1449 mm	
	高さ [黒色艶出し仕上げのモデル]	917 mm [920 mm]			[977 mm]	
	高さ (譜面を立てた場合) [黒色艶出し仕上げのモデル]	1018 mm [1019 mm]		1019 mm [1021 mm]	—	
	奥行き	511 mm	514 mm		430 mm	
	質量 [黒色艶出し仕上げのモデル]	78 kg [81 kg]	69 kg [71 kg]	65 kg [68 kg]	[78 kg]	
操作子	鍵盤数	88				
	鍵盤種	NW鍵盤象牙調 仕上げ	GH3鍵盤象牙調 仕上げ	GH3	NW鍵盤象牙調 仕上げ	GH3鍵盤象牙調 仕上げ
	タッチ感度	Yes				
	ペダル数	3				
	ハーフペダル	Yes				
	ペダル機能	ダンパー (ハーフペダル機能付き)、ソステヌート、ソフト				
	ディスプレイ	7-Segment LED				
	パネル言語	英語				
本体	鍵盤蓋	スライド式キーカバー			回転式キーカバー	
	譜面立て	Yes				
	譜面止め	Yes				No
音源/音色	音源方式	AWMダイナミックステレオサンプリング				
	サステインサンプリング	Yes				No
	キーオフサンプリング	Yes				No
	発音数	128				
	音色数	14 × 2				14
効果	リバーブ	4 タイプ				
	デュアル	Yes				
	スプリット	Yes				No
録音/再生	プリセットソング	50				
	録音	曲数	3			
		トラック数	2			
		容量	フラッシュメモリー (内蔵) ユーザーソング: 100KB X 3、外部ソング: 447KB			
	再生データフォーマット	SMF (Format 0 & 1)、ESEQ (ピアノプレーヤ用ソングのみ)				
録音データフォーマット	SMF (Format 0)					
機能	メトロノーム	Yes				
	テンポ	Yes				
	トランスポーズ	Yes				
	チューニング	Yes				
	スケール	7タイプ				
メモリー	フロッピーディスク ドライブ	別売フロッピーディスクドライブを[USB TO DEVICE]端子に接続可				
	内部メモリー	300KB/外部ソング447KB				
	USB記憶装置	別売USB記憶装置を[USB TO DEVICE]端子に接続可				

		CLP-370	CLP-340	CLP-330	CLP-S308	CLP-S306
インターネット ネット ダイレクト 接続	LAN端子使用、無線 LANイーサネット コンバーター (LAN端子使用)、 USB-LANアダプター (USB TO DEVICE端 子使用)	Yes		No		Yes
接続端子	ヘッドフォン	× 2				
	MIDI	[IN][OUT][THRU]				
	AUX IN	[L/L+R][R]				
	AUX OUT	[L/L+R][R]				
	USB [TO DEVICE]	× 2		× 1		
	USB [TO HOST]	Yes				
	[LAN]	Yes		No		Yes
アンプ/ スピーカー	アンプ出力	40W × 2		20W × 2	40W × 2	
	スピーカー	(16cm + 5cm) × 2		16cm × 2	(16cm + 5cm) × 2	
	スピーカーボックス	○	—		○	
電源	定格電源	AC100V 50/60Hz				
	消費電力	50W				
付属ソフト	CD-ROM	アクセサリ CD-ROM				
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、アクセサリ CD-ROMインストールガイド(別冊)、 ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、ヘッドフォン、高低自在椅子、ユーザー登録のご案内					

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A

ABリピート	19
AUX IN [L/L+R][R]端子	72
AUX OUT [L/L+R][R]端子	71

B

[BRILLIANCE](ブリリアンス)ボタン	21
-------------------------	----

D

[DAMPER RES.](ダンパーレゾナンス)ボタン	22
[DEMO](デモ)ボタン	16

E

[EFFECT](エフェクト)ボタン	22
--------------------	----

F

[FILE]ボタン	35
FUNCTION(ファンクション)	58

I

INTERNET(インターネット)	55
-------------------	----

L

LAN設定	70
[LAN](ラン)端子	72
LEFT(レフト)	31
[LEFT](レフト)ボタン	44
LOAD TO USER(ロードトゥーユーザー)	36

M

[MASTER VOLUME](マスターボリューム)スライダー	15
METRONOME[ON/OFF](メトロノームON/OFF)ボタン	28
MIDI	72
MIDI[IN][OUT][THRU](MIDI イン/アウト/スルー)端子	72
MIDI機能の諸設定 (ファンクション)	66

P

[PEDAL]端子	86, 89
[PHONES](フォーンズ)端子	15
[PLAY/PAUSE](プレイ/ポーズ)ボタン	44, 17, 42
[POWER](パワー)スイッチ	14

R

[REC](レコード)ボタン	29
[REVERB](リバーブ)ボタン	21
RIGHT(ライト)	31
[RIGHT](ライト)ボタン	44

S

SAVE TO USB(セーブトゥーユーエスピー)	35
SMF (Standard MIDI File)	34
[SONG SELECT](ソングセレクト)ボタン	17, 42
[SPEAKER]スイッチ	15
[SPLIT](スプリット)ボタン	26
[STOP](ストップ)ボタン	17, 42

T

[TEMPO/FUNCTION](テンポ/ファンクション)ボタン	59, 28
[TOUCH](タッチ)ボタン	23
[TRANSPOSE](トランスポーズ)ボタン	24

U

USB 記憶装置の取り扱い	39
USB[TO DEVICE](USB トゥー デバイス) 端子	72, 73
USB[TO HOST](USB トゥー ホスト)端子	72, 75
USB記憶装置を接続する	73

V

[VARIATION](バリエーション)	21
VOICE(ボイス)	20

ア

安全上のご注意	2
---------	---

イ

移調	24
インターネットダイレクト接続機能	45
インターネットに関するその他の設定(CLP-330を除く)	52
インターネットの曲を聞く(CLP-330を除く)	55
インターネット設定	48

ウ

運搬	7
----	---

オ

音に変化を付ける	21
音色ボタン	20
音色を混ぜる	25
音律	62
音量(ボリューム)を調節する	15

カ

外部ソング	42
-------	----

キ

キーオフ音の音量設定	65
キーカバー	12
キー(調)を変える	24
基本設定一覧	82
共鳴効果の深さの設定	65
曲再生チャンネル選択	65
曲を再生する	41

ク

組み立て	84
繰り返し再生	19

ケ

鍵域を左右に分けて弾く	26
-------------	----

コ

工場出荷時の設定	57
困ったときは	79
コンピューターと接続する	75

サ

削除	30, 37
----	--------

シ

仕様	96
初期化(インターネット設定)	54
初期設定	57
シンクロスタート	18, 44

ス

スピーカー	15
スピーカーのオン/オフを切り替える	15
スプリットの諸設定	64
スプリットポイント	26

ソ

ソステヌートペダル	20
ソフトペダル	20
ソフトペダル効果の深さの設定	65
ソングデータを送受信する	76

タ		
端子について	71	
ダンパーペダル	20	
チ		
チューニング	61	
調律について	7	
テ		
デモ曲	16	
デュアル	25	
デュアルの諸設定	63	
電源を入れる	14	
テンポ	28	
ト		
トランスポーズ	24	
ハ		
バージョン(LANドライバー)	52	
バージョン(楽器)	52	
パートの再生オン/オフ	44	
バックアップ	77	
バックアップオン/オフの設定	69	
ヒ		
ピアノ50曲(プリセットソング)	17	
左ペダル機能の設定(ファンクション)	65	
拍子	28	
フ		
ファイル操作	34	
ファクトリーセット	57	
ファンクション一覧	58	
ファンクションの基本設定	83	
フォーマット	38	
付属品	7	
譜面立て	13	
譜面止め	14	
プレイ/ポーズ(ペダル)	44	
フロッピーディスクドライブ(別売)の取り付け方	95	
フロッピーディスクの取り扱い	40	
ヘ		
ペダル	20	
ヘッドフォン	15	
ヘッドフォンハンガー	15	
ホ		
ボイス	20	
保存	34, 35	
メ		
メッセージ一覧	78	
メトロノーム	28	
メトロノーム音量の設定	66	
モ		
文字種の切り替え	70	
ヨ		
読み込み	34, 36	
レ		
連続再生	17	
ロ		
録音	29	
録音(記録)されるデータの種類	32	
録音し直す	30	
録音(パートごとに録音する)	31	

メモ

メモ

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

◆ 修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理ご相談センター

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、土曜日 9:00～17:30
(祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

市内通話料でOK
ナビダイヤル ※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

(IP電話、携帯電話などからおかけになる場合 TEL (053) 460-4830)
FAX (053) 463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(浜松サービスステーションは 8:45～17:30)
(祝祭日および弊社休業日を除く)

*お電話は、電気音響製品修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX (011) 512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX (03) 5762-2125

浜松サービスステーション

〒435-0016

浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内

FAX (053) 462-9244

名古屋サービスセンター

〒454-0058

名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F

FAX (052) 652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052

吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F

FAX (06) 6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

国内営業本部 ピアノ企画部 企画グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL 03-5488-6795

PA・DMI事業部 EKBマーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

TEL 053-460-3275

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター

受付日: 月曜日～土曜日 (祝日およびセンターの休業日を除く)

受付時間: 10:00～18:00 (土曜日は10:00～17:00)

フリー
ダイヤル  **0120-834-808**

(IP電話、携帯電話などからおかけになる場合TEL 053-460-5272)

サポート: <http://www.yamaha.co.jp/support/>

電子ピアノ/キーボードのホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート

ミュージックイー klub

<http://www.music-eclub.com/>

お客様サポート&サービス

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。